



A7V8X

ユーザーガイド

Motherboard

J1119

第2版

2002年10月

Copyright(c) 2002 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

購入者がバックアップの目的で利用する場合を除き、本書中に示されるハードウェア・ソフトウェアを含む、本マニュアルのいかなる部分も、ASUSTeK COMPUTER INC. (ASUS)の文書による明示的な許諾なく、再構成したり、転載・引用・放送・複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、製品の保証やサービスを受けることができません：(1)ASUSが明記していない方法で、修理、改造、交換した場合。(2)製品のシリアル番号が傷つけられていたり、失われていた場合。

ASUSは、明示および暗示を問わず、いかなる保証もなく現状のものとして本書を提供します。ただし、市場の状況や特定の目的のための変更を除きます。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品から生じるいかなる間接的、直接的、偶発的、二次的な損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負うことはありません。

本書の仕様と情報は、個人の使用目的のためにのみ供給されます。予告なしに内容が変更されることがあります。しかし、この変更はASUSの義務ではありません。本書およびハードウェア、ソフトウェアの間違い・不正確さについて、ASUSは対応義務も責任もありません。

本書中の製品名や企業名は登録商標や著作物の場合があります。本書では、識別、説明、およびユーザーの便宜をはかる目的にのみ使用しており、権利を侵害する目的はありません。

もくじ

FCC/CDC statements	vi
安全性について	vii
本ガイドについて	viii
本ガイドの構成	viii
記号について	ix
詳細情報	ix
ASUSサポート情報	x
A7V8X仕様一覧表	xi
第 1 章: はじめに	
1.1 Welcome!	1-1
1.2 パッケージリスト	1-1
1.3 特別仕様	1-2
1.3.1 ハイライト	1-2
1.4 マザーボード概要	1-6
1.4.1 各部の名称と機能	1-6
1.4.2 主な仕様	1-8
第 2 章: ハードウェア セットアップ	
2.1 マザーボードの取り付け	2-1
2.1.1 取り付け方向	2-1
2.1.2 取り付け穴	2-1
2.2 マザーボード レイアウト	2-2
2.3 作業をはじめる前に	2-3
2.4 CPU (中央演算処理装置)	2-4
2.4.1 概要	2-4
2.4.2 CPUの取り付け	2-5
2.5 メインメモリ	2-6
2.5.1 概要	2-6
2.5.2 メモリの構成	2-7
2.5.3 動作確認リスト	2-7
2.5.4 メモリの取り付け	2-8
2.5.5 メモリの取り外し	2-9
2.6 拡張スロット	2-10
2.6.1 拡張カードの取り付け	2-10
2.6.2 拡張カードの設定	2-10

もくじ

2.6.3 PCI スロット	2-12
2.6.4 AGP スロット	2-12
2.7 ジャンパ	2-13
2.8 コネクタ	2-17
第 3 章: 基本操作	
3.1 電源の入れ方	3-1
3.2 POST 音声メッセージ	3-2
3.3 電源の切り方	3-4
第 4 章: BIOS セットアップ	
4.1 BIOSの取り扱いとアップデート	4-1
4.1.1 ASUS EZ Flash を使う場合	4-1
4.1.2 AFLASH を使う場合	4-3
4.2 BIOS セットアップ	4-7
4.2.1 BIOS メニューバー	4-8
4.2.2 リジेंटバー	4-8
4.3 Main メニュー	4-10
4.3.1 Primary&Secondary / Master&Slave	4-12
4.3.2 Keyboard Features	4-16
4.4 Advanced (詳細)メニュー	4-17
4.4.1 Chip Configuration	4-20
4.4.2 I/O Device Configuration	4-23
4.4.3 PCI Configuration	4-25
4.5 Power (電源管理)メニュー	4-27
4.5.1 Power Up Control	4-29
4.5.2 Hardware Monitor	4-31
4.6 Boot (起動)メニュー	4-33
4.7 Exit (終了)メニュー	4-35
第 5 章: サポートソフトウェア	
5.1 OSのインストール	5-1
5.2 サポートCD情報	5-1

もくじ

5.2.1	サポートCDの起動方法	5-1
5.2.2	ドライバメニュー	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー	5-3
5.2.4	ASUSサポート情報	5-6
5.2.5	その他の情報	5-7
5.3	ソフトウェアリファレンス	5-8
5.3.1	ASUS Update	5-8
5.3.2	ASUS MyLogo2™	5-9
5.3.3	ASUS PC Probe	5-11
5.3.4	E-Color 3Deep	5-16
5.3.5	Winbond Voice Editor	5-19
5.3.6	マルチチャンネルオーディオ機能	5-24
5.4	RAID 0/RAID 1 の設定	5-26
5.4.1	ハードディスクの接続	5-27
5.4.2	MBFastBuild™ ユーティリティ	5-28
5.4.3	RAID 0 アレイの構築 (Performance)	5-29
5.4.4	RAID 1 アレイの構築 (Security)	5-30
5.4.5	FastBuild ユーティリティの他のコマンド	5-32
5.5	IDE/RAIDドライバの手動インストール	5-34
5.5.1	Win9x-ME Promise ^(R) FastTrak376™ ドライバ	5-34
5.5.2	Win2000 / XP Promise ^(R) FastTrak376™ ドライバ	5-34
5.5.3	Win NT Promise ^(R) FastTrak376™ ドライバ	5-35
5.5.4	新規Windows 2000 / XP への Promise ^(R) FastTrak376™ ドライバのインストール	5-35

FCC/CDC statements

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全性について

電気安全上のご注意

- ・ 本製品を移動する場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品内部の配線を行う場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 電源装置の電圧設定をお使いの地域の電圧に設定してください。
- ・ 電源装置についてはご自分で修理しないでください。必ず専門家に修理を依頼してください。

使用上のご注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属しているすべてのマニュアル・ドキュメントをお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルの接続を確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ 本製品内部にクリップやネジなどの金属を混入さないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高低温を避けてください。水気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、ASUS代理店などの認定業者に依頼してください。

本ガイドについて

本書は「ASUS A7V8X マザーボード」の取り扱い説明書です。

本ガイドの構成

本書は以下の章から構成されています：

- ・ 第1章: はじめに
A7V8X マザーボードの仕様と特徴について説明します。また、本マザーボードに採用された独自技術および最新技術について解説します。
- ・ 第2章: ハードウェア セットアップ
本マザーボードを用いた基本的な組み立て方法について説明します。また、マザーボードのレイアウト、スイッチ・ジャンパ設定、コネクタ配置についての詳細情報があります。
- ・ 第3章: 基本操作
電源の入れ方・切り方、および起動時のPOSTコードについて説明します。
- ・ 第4章: BIOS セットアップ
BIOSの取り扱い方法と、セットアッププログラムを用いたシステムの設定方法について解説します。また、BIOSパラメータの詳細情報があります。
- ・ 第5章: サポートソフトウェア
OSのインストール、サポートCDのドライバとユーティリティのインストールについて説明します。また、付属アプリケーションの使用方法について解説します。

記号について

本書では重要な注意事項について、以下の記号を用いています。作業を安全かつ正確に行うため注意事項は必ずお守りください。



危険/警告: 感電やけがなどの人身事故を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



注意: 装置や部品の故障や破損を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



重要: 作業を正しく完了するために必ず守らないといけない注意事項です。



注: 作業を正しく完了するために必要なヒントと情報です。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS WEBサイト

ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報があります。各国や地域に対応したサイトがあります。URLは次ページを参照してください。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や代理店・販売店が追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

ASUS サポート情報

ASUSTeK COMPUTER INC. (アジア・太平洋)

住所: 150 Li-Te Road, Peitou, Taipei, Taiwan 112
電話(代表): +886-2-2894-3447
Fax(代表): +886-2-2894-3449
Email(代表): info@asus.com.tw

テクニカルサポート

MB/その他 (電話): +886-2-2890-7121 (英語)
ノートPC (電話): +886-2-2890-7122 (英語)
デスクトップ/サーバー (電話): +886-2-2890-7123 (英語)
サポートFax: +886-2-2890-7698
サポートEmail: tsd@asus.com.tw
Webサイト: www.asus.com.tw
ニュースグループ: cscnews.asus.com.tw

ASUS COMPUTER INTERNATIONAL (アメリカ)

住所: 6737 Mowry Avenue, Mowry Business Center,
Building 2, Newark, CA 94560, USA
Fax(代表): +1-510-608-4555
Email(代表): tmd1@asus.com

テクニカルサポート

サポートFax: +1-510-608-4555
総合サポート: +1-502-933-8713
Webサイト: www.asus.com
サポートEmail: tsd@asus.com

ASUS COMPUTER GmbH (ヨーロッパ)

住所: Harkortstr. 25, 40880 Ratingen, BRD, Germany
Fax(代表): +49-2102-442066
Email(代表): sales@asuscom.de (マーケティングのみ)

テクニカルサポート

サポートホットライン: MB/その他: +49-2102-9599-0
ノートPC (電話): +49-2102-9599-10
サポートFax: +49-2102-9599-11
サポート (Email): www.asuscom.de/de/support (オンラインサポート)
Webサイト: www.asuscom.de

A7V8X 仕様一覧表

CPU	AMD Thoroughbred, Athlon XP/Athlon/Duron 対応 ソケットA、クロック600 MHz~2.4 GHz+
チップセット	ノースブリッジ: VIA KT400 サウスブリッジ: VIA VT8235
フロントサイドバス (FSB)	266/200Mhz
メモリ	3 x DDRメモリ用DIMMソケット 最大 3 GB unbuffered PC2100/1600 non-ECC SDRAM メモリ。(注: PC2700の場合 最大2 GBまで、PC3200 の場合 1 スロットまで。) 動作確認済みメモリについては、ASUSのWEBサイトをご参照ください。
拡張スロット	1 x AGP 8X 6 x PCI (PCIスロットの1つは ASUS BlueMagic と共用です。)
IDE	2 x UltraDMA 133/100/66
Flexible Serial ATA (オプション)	ATA133×1チャンネル + Serial ATA×2チャンネル Promise コントローラ
RAID (オプション)	RAID 0は Parallel ATAまたはSerial ATAコネクタのうち2つまたは3つを利用します。 RAID 1 は Parallel または Serial ATAコネクタのうち2つを利用します。
Audio (オプション)	Realtek 6チャンネル CODEC S/PDIF 入出力インターフェイス
LAN(オプション)	Broadcom 10/100 Mbps または 1 Gbps イーサネットコントローラ
USB 2.0	VT8235 内蔵 USB 2.0 コントローラ 6 x USB 2.0ポート
IEEE1394(オプション)	VIA 1394 コントローラ 2 x 1394 ポート
特別仕様	ASUS POST Reporter (オプション) ASUS MyLogo2 ASUS EZ Flash ASUS Q-Fan Multi-language BIOS Power Loss Restart ASUS Jumperfree SFS (Stepless Frequency Selection) S/PDIF入出力インターフェイス (音源搭載モデルのみ) ASUS C.O.P. (CPUオーバーヒートプロテクション) AGP 警告 LED


(次ページにつづく)

A7V8X 仕様一覧表

リアパネル I/O ポート	<p>1 x パラレル 2 x シリアル 1 x PS/2 キーボード 1 x PS/2 マウス 1 x オーディオ I/O (音源搭載モデルのみ) 4 x USB 2.0 1 x RJ-45ポート (LANモデルのみ)</p>
内部 I/O コネクタ	<p>CPU/電源/ケース 冷却ファン電源用コネクタ 20ピン ATX電源コネクタ IDE LED コネクタ ケース開放警報, SM Bus, SIR Smart Card Reader コネクタ フロントパネルオーディオ (音源搭載モデルのみ) Gameポート (音源搭載モデルのみ) S/PDIF入出力コネクタ (音源搭載モデルのみ) CD/AUX/モデム入力 (音源搭載モデルのみ) 2 x 1394ポート (1394モデルのみ) 1 x USB 2.0コネクタ、2 x USB 2.0増設コネクタ 2 x Serial ATAポート (serial ATAモデルのみ)</p>
BIOS 機能	<p>4Mb Flash ROM, Award BIOS, TCAV, PnP, DMI2.0, WfM2.0, SM BIOS2.3, Multi-language BIOS, ASUS EZ Flash, ASUS MyLogo2</p>
工業規格	<p>PCI 2.2, USB 2.0</p>
管理機能	<p>WfM 2.0, DMI 2.0, ケース開放警報, SMBus</p>
フォームファクタ	<p>ATXフォームファクタ: 12 in x 9.6 in (30.5 cm x 24.5 cm)</p>
サポートCD	<p>デバイスドライバ ASUS PC Probe Trend Micro™ PC-cillin 2002 アンチウィルス ASUS LiveUpdate ユーティリティ InterVideo WinCinema [WinDVD/WinRip/WinCorder/ WinProducer] ソフトウェア (オプション)</p>
アクセサリ	<p>ユーザーガイド (本書) サポートCD 2 x UltraDMA 133/100/66ケーブル IDE ケーブル FDD ケーブル I/O シールド 2ポート USB 2.0/ Game ポートモジュール 2ポート IEEE 1394 モジュール (1394 モデルのみ) 2 x IEEE 1394 ケーブル (1394 モデルのみ) 2 x Serial ATA ケーブル (Serial ATA モデルのみ)</p>

* 予告なしに仕様の一部を変更する場合があります。

第1章



A7V8X マザーボードの仕様と特徴について説明します。また、本マザーボードに採用された独自技術および最新技術について解説します。

はじめに

本章の内容

1.1 Welcome!	1-1
1.2 パッケージリスト	1-1
1.3 特別仕様	1-2
1.4 マザーボード概要	1-6

1.1 Welcome!

ASUS[®] A7V8X マザーボードをお買い上げありがとうございます!

ASUS A7V8X は、最新のテクノロジーを最大限に発揮できるように設計されたソケットA用マザーボードです。VIA KT400 チップセットを採用し、DDR 400 メモリをサポートします。また、ASUSの最新技術により、AGP 8X、serial ATA、USB 2.0、6チャンネルオーディオ、ギガビットLAN、IEEE 1394インターフェイスに対応します。さらに、ASUS C.O.P.、Q-Fan、MyLogo2 などの ASUS独自機能を搭載しています。ASUS A7V8X は、手軽に最新鋭パソコンを構築できるコストパフォーマンスに優れたマザーボードです。

ご使用になる前に、本書の内容をよくお読みになって末長くご愛用ください。

1.2 パッケージリスト

ASUS A7V8Xパッケージには以下が含まれています。ご確認ください。

- ✓ ASUS A7V8Xマザーボード
ATXフォームファクタ: 12 in x 9.6 in (30.5 cm x 24.5 cm)
- ✓ ASUS A7V8Xシリーズ サポートCD
- ✓ ASUS 2ポート USB 2.0/ GAMEポート モジュール
- ✓ ASUS 2ポート IEEE 1394 モジュール (1394モデルのみ)
- ✓ ASUS S/PDIF 入出力モジュール (音源搭載モデルのみ)
- ✓ 2本× 1394 ケーブル (1394モデルのみ)
- ✓ 2本× Serial ATA ケーブル (Serial ATAモデルのみ)
- ✓ 2本× 80UltraDMA/33/66/100/133 IDE用80芯40ピン フラットケーブル
- ✓ IDE用40ピン フラットケーブル
- ✓ 3.5インチFDD用フラットケーブル
- ✓ I/O シールド
- ✓ 予備ジャンパ(袋入り)
- ✓ ユーザーガイド(本書)
- ✓ クイックセットアップガイドとリファレンスカード(リテール版のみ)
- ✓ ジャンパ/コネクタ ステッカー (リテール版のみ)



万一、欠品や破損品があった場合は、販売店にご連絡ください。

1.3 特別仕様

1.3.1 ハイライト

333MHz FSB Athlon XP CPU 対応

AMD Athlon XP 2700+ 以降の CPU は、Front Side Bus (FSB) 333MHz に対応し、アプリケーションの生産性やデジタルメディアの実行能力が飛躍的に向上しました。

AGP 8X 対応

AGP 8X (AGP3.0) は新世代のグラフィックスインターフェイスです。帯域幅は 2.12 GB/s に達し、バスクロック 533MHz での AGP 8X インターフェイスは AGP 4X の 2 倍の性能を発揮します。

Serial ATA テクノロジー (オプション)

Serial ATA は次世代の ATA 規格です。データ転送速度は 150MB/s で、従来の Parallel ATA より高速です。また、100% のソフトウェア互換性があります。

DDR400 (PC3200) 対応

DDR400 (PC3200) は DDR メモリの最上級仕様で帯域幅 3.2 GB/s を発揮します。(注: PC2700 はメモリモジュール最大 2 本まで、PC3200 は最大 1 本までサポートします。)

ギガビット LAN (オプション)

A7V8X は、BroadCom Gigabit LAN を搭載し、従来の 10 倍のデータ転送速度を実現します。ギガビット LAN は、ブロードバンド時代に欠かせないネットワークテクノロジーです。

USB 2.0 テクノロジー

USB 2.0 は、最新の外部周辺機器用インターフェイスです。従来の USB インターフェイスの約 40 倍：480 MB/s のデータ転送速度を持ちます。デジタルビデオや大容量ストレージとの接続に威力を発揮します。USB 2.0 規格は、従来の USB 1.1 と上位互換性があります。

IEEE 1394 インターフェイス (オプション)



IEEE 1394 は、iLINK や FireWire と呼ばれるデジタルビデオ/オーディオに欠かせないインターフェイスです。

ASUS Q-Fan 機能

システムの状態に応じて、冷却ファンの回転数を自動的に調整する機能です。低騒音・省電力コンピュータを構築するのに役立ちます。詳しくは P.4-32 をご参照ください。



C.O.P. (CPUオーバーヒートプロテクション):

AMD^(R) Athlon XPTM/Athlon MPTM 対応のASUS C.O.P. はプロセッサのオーバーヒートを防止します。CPU温度が95°Cを越えるとシステムは自動でシャットダウンします。ハードウェアによる保護回路ですので、より速い反応でマザーボードを保護します。

ASUS POST ReporterTM (オプション)



コンピュータの起動時に実行される Power-On Self-Tests (POST) に音声メッセージを追加する機能です。POSTメッセージを「声」で聞くことができます。また、付属の Winbond Voice Editor を用いると、日本語のメッセージに変更したり、ユーザーが録音した独自のメッセージを使用することができます。

ASUS MyLogo2TM



コンピュータの起動時にロゴを表示するスペシャルユーティリティです。コンピュータのPOST中に画像をフルスクリーンで表示します。画像はあらかじめ用意されていますが、ユーザーが独自に作成することも可能です。

ASUS Multi-language BIOS



BIOSメッセージがマルチリンガル対応になりました。BIOSセットアップをよりわかりやすく簡単に行うことができます。対応言語は、ASUSのWEBサイトをご覧ください。

ASUS EZ Flash BIOS

ASUS EZ Flash は、ファームウェアレベルでBIOSアップデートを行う機能です。BIOSアップデートのためにフロッピーディスクから、DOSを起動する必要がなくなりました。

6-チャンネルオーディオ (オプション)

オンボードの Realtek CODEC により、別途サウンドカードを用意することなく、6チャンネルオーディオを楽しむことができます。

InterVideo WinCinema ソフトウェア (Goldバージョンのみ)

ASUSマザーボードに初めてフルバージョンのソフトウェアが添付されました。新しいマルチメディア世界をぜひご体験ください。

WinDVD: 世界で最もポピュラーなDVD再生ソフトウェアです。5.1チャンネルオーディオに対応しています。

WinRip: MP3 プレーヤー/エンコーダー/リッパーソフトウェアです。バーチャル5.1チャンネルとサラウンドサウンドに対応しています。

WinCoder: リアルタイムMPEG-1 & 2 ビデオエンコーダーです。

WinProducer: 簡単操作のMPEG-1 & 2 ビデオ編集ソフトウェアです。

1.4 マザーボード概要

A7V8Xマザーボードをお使いになる前に、その構成と特徴を理解してください。マザーボードの各コンポーネント(部品)の取り扱い方法をよく理解することにより、組立時のトラブルを防ぎ、また、将来のアップグレードにも役に立ちます。

1.4.1 各部の名称と機能

A7V8Xマザーボード上のパーツの名称です。数字は P.1-7 の図面に対応しています。

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. ノースブリッジコントローラ | 19. オーディオCODEC ^A |
| 2. CPU ソケット | 20. 10/100 / 1Gbit LAN コント
ローラ ^L |
| 3. DDR メモリソケット | 21. AGP スロット |
| 4. ATX 電源コネクタ | 22. マウスポート |
| 5. FDDコネクタ | 23. パラレルポート |
| 6. IDE コネクタ | 24. RJ-45 ポート ^L |
| 7. AGP 警告 LED | 25. Line In ジャック ^A |
| 8. サウスブリッジコントローラ | 26. Line Out ジャック ^A |
| 9. ASUS ASIC | 27. マイクロホンジャック ^A |
| 10. RAID IDE コネクタ* | 28. USB 2.0 ポート 3 & 4 |
| 11. SATA コネクタ* | 29. シリアルポート 1 & 2 |
| 12. Flash ROM | 30. USB 2.0 ポート 1 & 2 |
| 13. SATA コントローラ* | 31. キーボードポート |
| 14. スタンバイ LED | |
| 15. Super I/O コントローラ | |
| 16. IEEE 1394 コネクタ [#] | |
| 17. IEEE 1394 コントローラ [#] | |
| 18. PCI スロット | |

(注: ASUS BlueMagic PCI ス
ロットは一般の PCI スロットと
して使用でき、また、ASUS独自の無線カード - Spacelink B&W
とも互換性があります。)

* - SATA モデルのみ

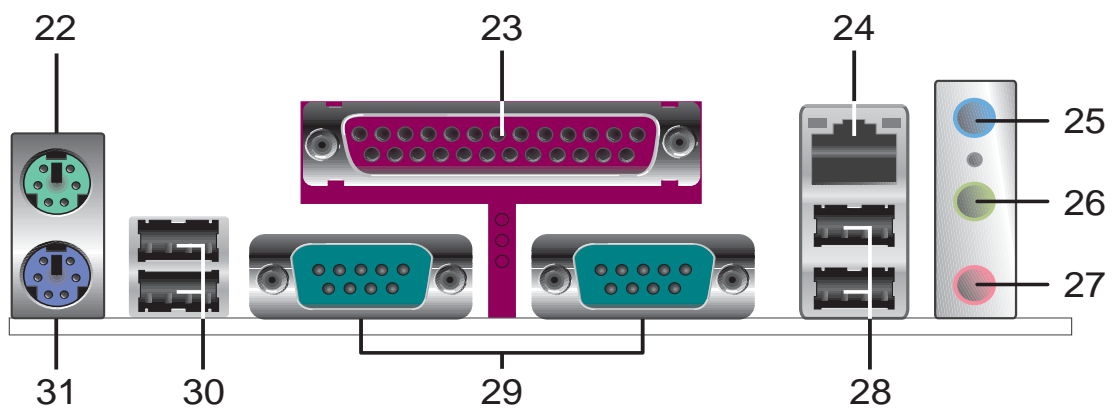
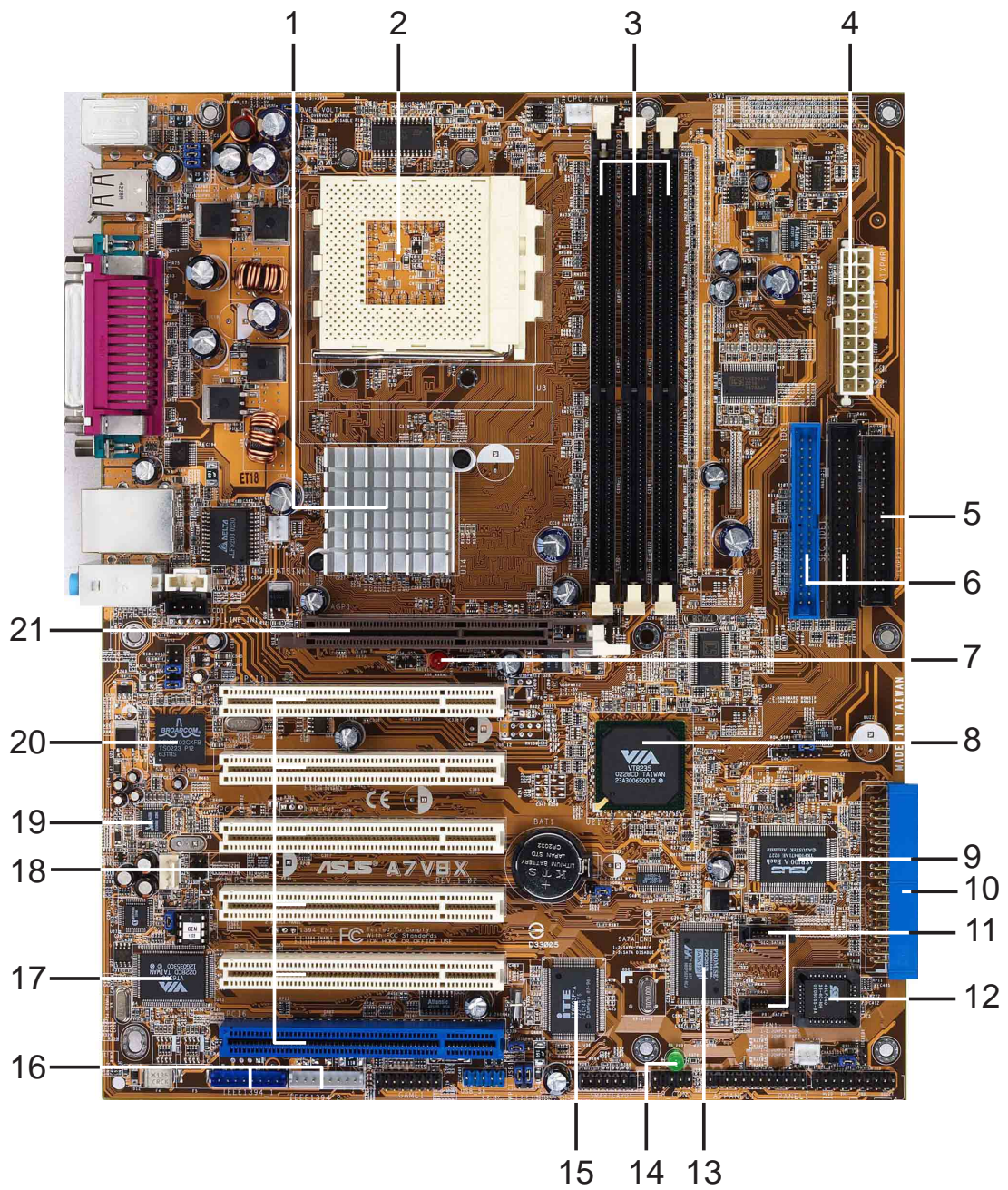
- IEEE モデルのみ

^L - LAN モデルのみ

^A - Audio モデルのみ



各パーツについては P.1-8 から解説があります。また、詳しい使用方法については第2章をご参照ください。



1.4.2 主な仕様

- 1 ノースブリッジコントローラ. VIA^(R) KT400 を採用し、AGP 8Xモード、FSB 266/200MHz、400/333/266/200MHz 64ビットメモリバスに対応します。
- 2 CPUソケット. AMD Athlon XP/Athlon/Duron プロセッサ、600 MHz ~ 2.4GHzシステムバスに対応した表面実装方式 Socket 462 (Socket A)、Zero Insertion Force (ZIF) ソケットです。(注: 333MHz FSB CPUを使用する場合は、DDR333 または DDR400メモリのみサポートします。)

表 1.4.2
FSB/DDR 対応
表

FSB	DDR 266	DDR 333	DDR 400
200/266 MHz	✓	✓	✓
333 MHz		✓	✓

- 3 DDR メモリソケット. 184ピン DIMMソケットが3本あり、unbuffered、non-ECC、PC2100/1600 DDRメモリを最大 3GB搭載することができます。(注: PC2700 はメモリモジュール最大2本まで、PC3200 は最大1本までサポートします。)

動作確認済みメモ

リについては ASUSのWEBサイトをご参照ください。

- 4 ATX電源コネクタ. ATX 12V電源用の20ピンコネクタです。電源装置の+5VSB(standby)端子に最低1Aの容量が必要です。
- 5 FDDコネクタ. フロッピーディスクドライブ(FDD)用のフラットケーブルを接続します。コネクタの逆差しを防止するために切り欠きがあります。
- 6 IDEコネクタ. デュアルチャンネル バスマスタIDE、Ultra DMA/100/66、PIO Modes 3 & 4に対応します。プライマリ(青色)およびセカンダリ(黒色)に各2台、計4台のIDE装置が接続可能です。コネクタの逆差しを防止するために切り欠きがあります。
- 7 AGP 警告 LED. 本マザーボードのAGPスロットは1.5V仕様専用のため、3.3V AGPカードを取り付けた場合、警告のためこのLEDが点灯します。また、この場合、システムの電源を投入することを防止します。
- 8 サウスブリッジコントローラ. VIA^(R) VT8235 を採用し、2チャンネル ATA/133バスマスタ IDEコントローラ、最大6ポートのUSB 2.0、LPC Super I/Oインターフェイス、AC'97インターフェイス、PCI 2.2規格に対応します。

- 9** ASUS ASIC. マザーボード上のハードウェアを制御するためのカスタマイズICチップです。システム電圧の監視、IRQルーティングなどを制御します。
- 10** RAID IDE コネクタ. 1チャンネルの Ultra ATA133/100/66 ハードディスクドライバ RAID 0 または RAID 1 を構築可能です。(SATAモデルのみ)
- 11** SATA コネクタ. Serial ATA 用のコネクタです。Serial ATAは、従来の Parallel ATAに変わる新しいインターフェイスです。コネクタは一方方向にしかさせないようになっています。(SATAモデルのみ)
- 12** Flash ROM. BIOSプログラムが格納されているプログラミング可能な4MビットEEPROMです。
- 13** SATA コントローラ. Promise コントローラにより、ATA133 1チャンネルおよび Serial ATA 2チャンネルをサポートします。(SATAモデルのみ)
- 14** スタンバイパワーLED. このLEDは、マザーボードにスタンバイ電源が供給されている時に点灯します。電源が入ったまま作業することを防止する警告用LEDです。
- 15** Super I/O コントローラ. Super I/Oと呼ばれる周辺機器を制御するLow Pin Count (LPC)インターフェイスです。LPCは、主にレガシーISAデバイスを制御するための規格です。フロッピーディスク(360K/720K/1.44M/2.88Mディスク対応)、パラレルポート(マルチモード対応)、UART(シリアル)×2、SIR(Standard Infrared標準赤外線通信)、MPU-401 UART 互換MIDI/gameポート、Flash ROMインターフェイスを制御します。
- 16** IEEE 1394 コネクタ. 2チャンネルの IEEE 1394 インターフェイス用コネクタです。(1394モデルのみ)
- 17** IEEE 1394 コントローラ. デジタルビデオなどに用いられる高速インターフェイス用のコントローラです。(1394モデルのみ)
- 18** PCI スロット. PCI 2.2対応拡張スロットが6本あります。すべてのスロットが、SCSI や LANカードなどのバスマスタ、最大スループット133MB/秒に対応します。(注: ASUS BlueMagic PCI スロットは一般の PCI スロットとして使用でき、また、ASUS独自の無線カード - Spacelink B&W と互換性があります。)
- 19** オーディオCODEC. Realtek ALC650 は、PCマルチメディア対応 AC'97オーディオCODECと互換性があります。(音源搭載モデルのみ)

- 20** Gigabit LAN / LAN コントローラ. BroadCom Gigabit LAN コントローラにより、高速なネットワークインターフェイスを実現します。従来の10/100 イーサネット機器も使用可能です。(LAN モデルのみ)
- 21** AGP スロット. Accelerated Graphics Port (AGP)とよばれるグラフィックス専用インターフェイスで、1.5V AGP 8Xモード ビデオカードに対応します。
- 22** PS/2 マウスコネクタ. PS/2マウス用の6ピン丸型コネクタです。PS/2マウスを接続します。
- 23** パラレルポート. パラレルポート用の25ピン D-subコネクタです。プリンタなどのパラレル対応機器を接続します。
- 24** RJ-45 ポート. ハブなどのネットワーク機器を接続します。(LANモデルのみ)
- 25** Line In ジャック. 水色に塗られたミニジャックで、オーディオ機器のライン入力と同様です。6chモードではリアスピーカ出力端子として使用します。(音源搭載モデルのみ)
- 26** Line Out ジャック. 緑色に塗られたミニジャックで、オーディオ機器のライン出力およびスピーカ出力と同様です。6chモードではフロントスピーカ出力端子として使用します。(音源搭載モデルのみ)
- 27** マイクロホンジャック. ピンク色に塗られたミニジャックで、オーディオ機器のマイクロホン入力と同様です。6chモードではサブウーファおよびセンタースピーカ(Bass/Center)出力端子として使用します。(音源搭載モデルのみ)
- 28** USB 2.0 ポート 3 および 4. USB 2.0対応のUSBポートが2個あります。
- 29** シリアルポート 1 および 2. COM1/COM2ポート用の9ピン D-subコネクタが2つあります。マウスなどのシリアル対応機器を接続します。
- 30** USB 2.0 ポート 1 および 2. USB 2.0対応のUSBポートが2個あります。
- 31** PS/2 キーボードコネクタ. PS/2キーボード用の6ピン丸型コネクタです。キーボードを接続します。

第2章

本マザーボードを用いた基本的な組み立て方法について説明します。また、マザーボードのレイアウト、スイッチ・ジャンパ設定、コネクタ配置についての詳細情報があります。

ハードウェアセットアップ

本章の内容

2.1	マザーボードの取り付け	2-1
2.2	マザーボードレイアウト	2-2
2.3	作業をはじめる前に	2-3
2.4	CPU(中央演算処理装置).....	2-4
2.5	メインメモリ	2-6
2.6	拡張スロット	2-11
2.7	スイッチとジャンパ	2-14
2.8	コネクタ	2-17

2.1 マザーボードの取り付け

作業の前に、お使いのケースにマザーボードが物理的に取り付け可能かどうかを確認してください。A7V8X は、ATXフォームファクタ、24.5 cm×30.5 cmで、標準的なATXケースに取り付け可能です。



マザーボードの取り付け作業を行う場合は、電源コネクタを接続しないでください。スタンバイパワーLEDが消灯していることを確認して、作業を行ってください。

2.1.1 取り付け方向

ケースとマザーボードの向きを合わせます。シリアルポートなどの外部コネクタがある辺が、ケースの背面パネルに向くようにします。下図を参照してください。

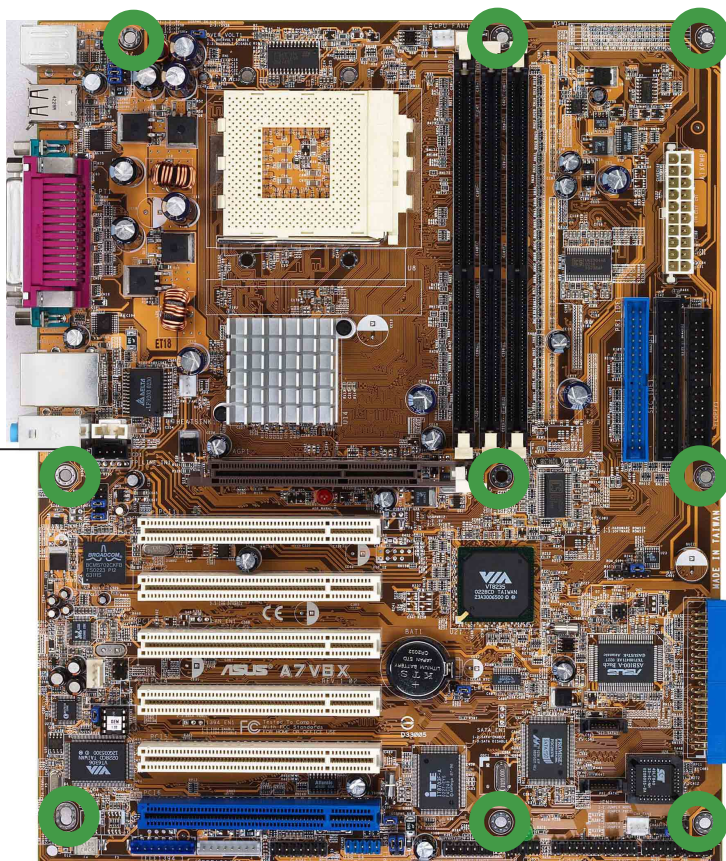
2.1.2 取り付け穴

マザーボード上にある9ヶ所の穴を使用して、マザーボードをケースにネジ止めします。

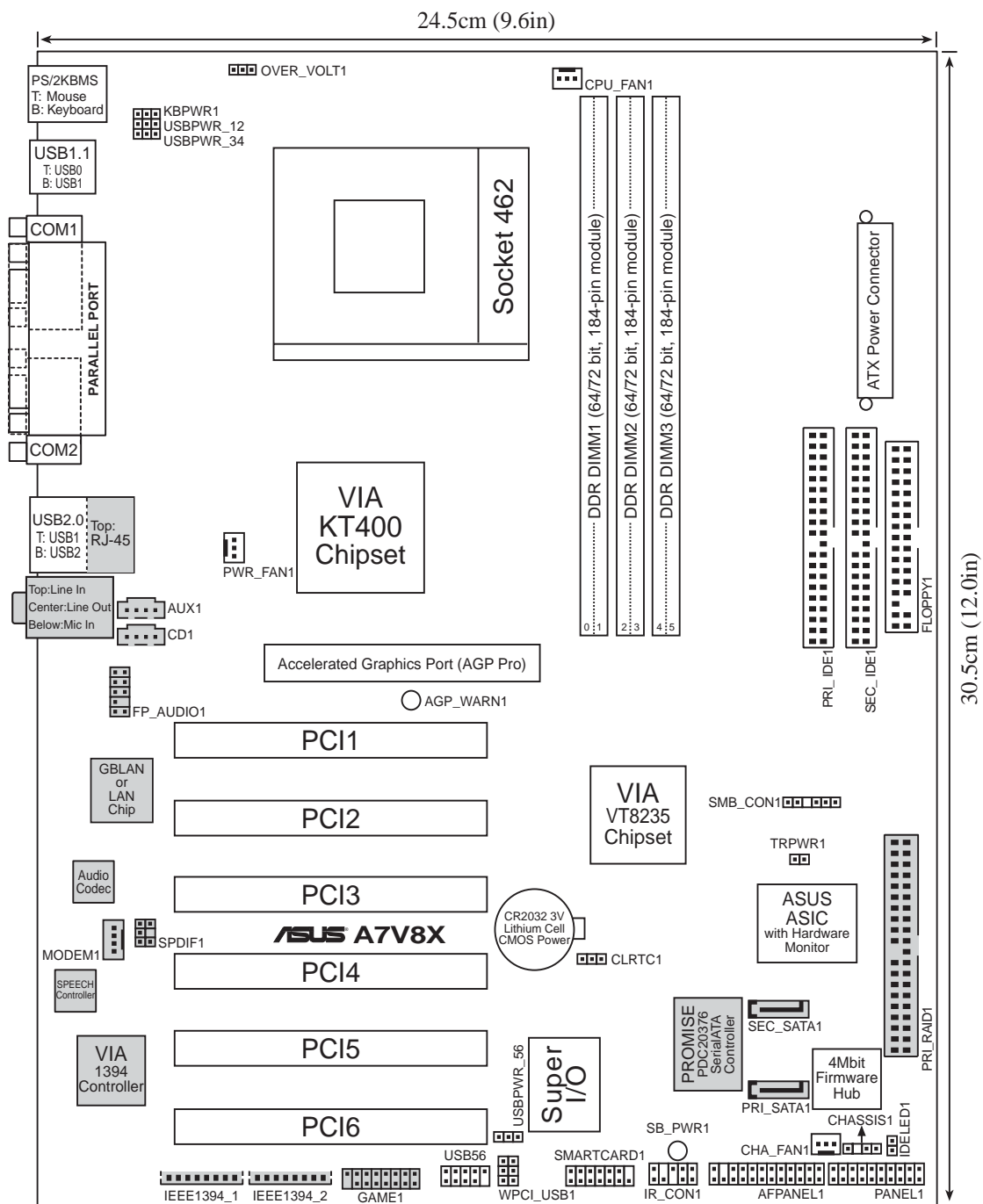


ネジは強く締めすぎないでください。マザーボードを破損する恐れがあります。

こちらの辺が、ケースの背面になる向きにします。



2.2 マザーボードレイアウト



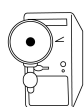
オーディオ、SATA、ギガビットLAN、IEEE1394はオプションです。これらのパーツは上図では灰色で示してあります。

2.3 作業をはじめる前に

マザーボードの取り付け作業および設定を行う前に、以下の注意事項をよくお読みください。

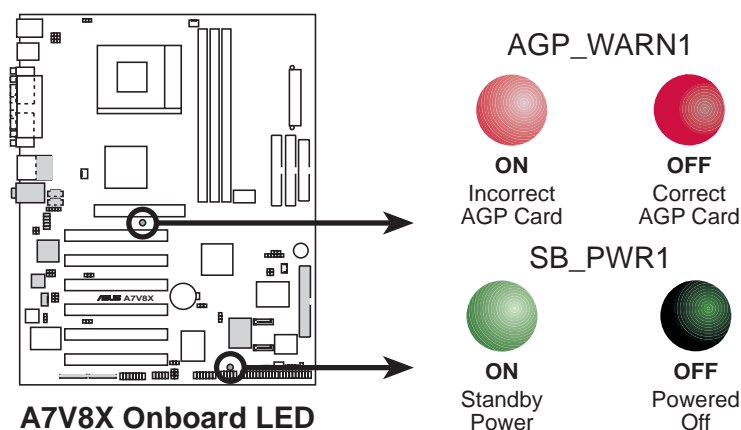


1. コンピュータ内部に触れる場合は、電源コンセントからプラグを抜いて下さい。
2. アースされたリストストラップを用いてください。ない場合は、電源シャーシ等金属部分に触れて、作業者の静電気を逃がしてください。
3. カード類を持つ時は、基板の端を持ち、基板やIC、コネクタ部分に触れないようにしてください。
4. 取り外したカード類はアースされたパッドの上に置いてください。例えば、カードが入っていた袋が利用できます。
5. マザーボードの電源コネクタを接続する際には、ATX電源装置がオフであることを確認してください。電源が入ったまま作業を行うと、マザーボードや他の部品が破損する恐れがあります。部品の取り付けを行わない場合でも、誤って部品やコネクタに触れて短絡事故などを起こす危険性があります。



オンボードの緑色のLEDは、サスペンドオフやソフトオフ等、元電源が入っている状態で点灯します。このLEDが消えていることを確認して作業を行ってください。

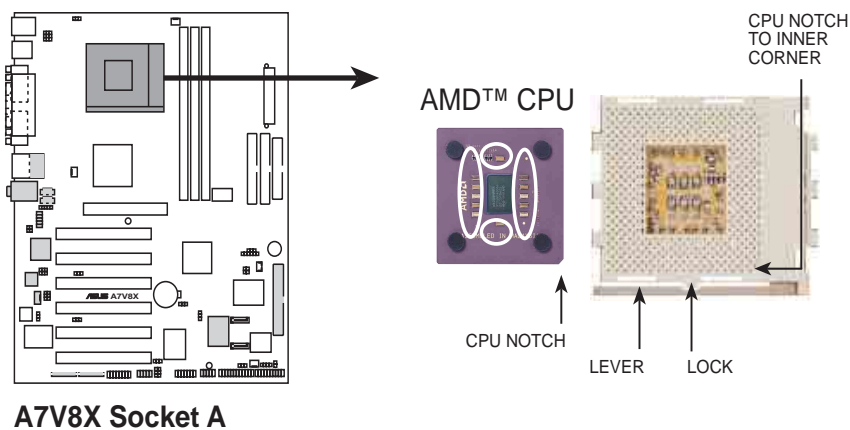
赤色のLED (AGP_WARN) は、3.3V仕様のAGPカードが取り付けられていた場合に点灯します。LEDが点灯している間はシステムの電源を入れることができません。1.5V仕様のAGPカードの場合は、赤色LEDは消灯します。



2.4 CPU (中央演算処理装置)

2.4.1 概要

本マザーボードは、Socket 462 あるいは Socket Aと呼ばれるCPUソケットを装備し、最新のAMD製CPUに対応しています。A7V8X は Athlon™ XP/Athlon™ および Duron™ プロセッサをサポートします。



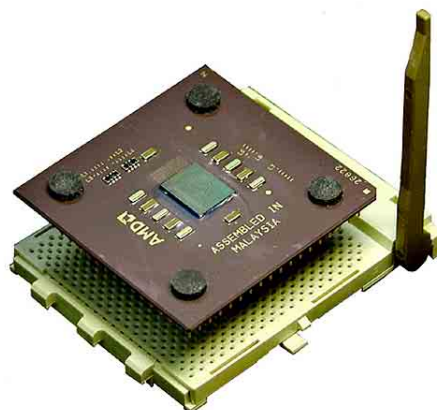
AMD CPUには取り付け方向を示す印(ノッチや矢印)があります。この印の向きに注意してCPUを取り付けます。詳しくは次ページをご覧ください。

CPUには、オーバーヒート防止のためヒートシンクとファンを必ず取り付けてください。

2.4.2 CPUの取り付け

以下の手順に従ってCPUを取り付けます:

1. ソケットの位置を確認したら、横手にあるレバーを、一旦押し込んで、横方向にずらし、90~100度の角度になるまで引き上げます。
2. 右図を参照してCPUを正しい向きにセットします。CPUの目印(NOTCH)のある角が、レバーの根元に向くように取り付けます。



CPUは一方向にしか取り付けられないようになっています。向きが正しければ力を入れなくてもCPUはソケットに挿入されます。間違った向きに取り付けようとするとCPUのピンを折る恐れがあります。

4. レバーを下げてCPUを固定します。
5. ヒートシンクとCPUファンを取り付けます。ヒートシンクがCPUに密着するように注意してください。ヒートシンクの取り付けレバーを確実にロックしてヒートシンクが固定されたことを確認してください。



ヒートシンクの取り付け金具(クランプ)でマザーボード基板に傷をつけないように注意してください。CPU上面のコンデンサがヒートシンクに触れないように注意してください。短絡事故の原因になります。

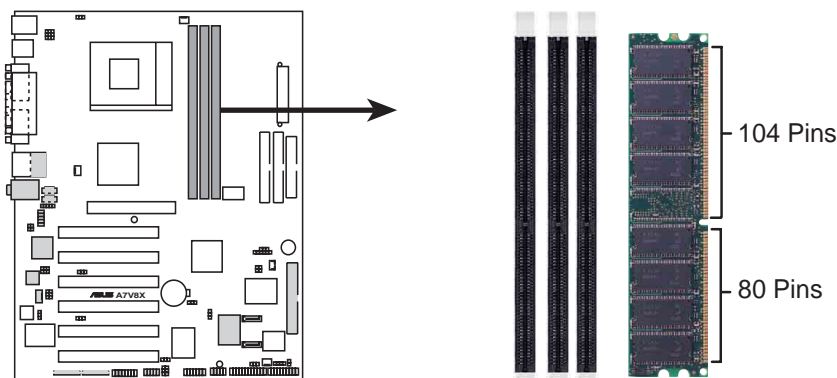


外部バスクロック周波数と倍率を正しく設定しないと、システムが起動できません。

2.5 メインメモリ

2.5.1 概要

本マザーボードは、DDRメモリ用のDIMM(Dual Inline Memory Module)ソケットを 3本持ち、最大容量は 3GBです。対応メモリは、184ピン、unbuffered、非ECC、PC3200/PC2700/2100/1600です。(注:DDR400は 1本、DDR333は 2本のみソケットに取り付け可能です。)



A7V8X 184-Pin DDR DIMM Sockets



メモリモジュールおよびソケットには刻み目があり、一方向にしか取り付けられないようになっています。間違った向きに無理に取り付けようとすると、メモリモジュールとソケットを破損する恐れがあります。

DDRメモリは、1つのクロックで2回のデータ転送を行い、従来のPC66, PC100, PC133メモリに比べ2倍のデータ転送速度を持ちます。例えば、200MHz DDRメモリは、バスクロック100MHz、266MHz DDRメモリは、バスクロック133MHzに対応します。

DDR データ転送速度		メモリバスクロック
400MHz	➡	200MHz
333MHz	➡	166MHz
266MHz	➡	133MHz
200MHz	➡	100MHz

DDRメモリは、SDRメモリと同じ形状ですが、ピンの数が164ピンから184ピンに増えていて、SDRメモリでは2つあった刻み目が、DDRメモリでは1つになっています。このため、DDRメモリとSDRメモリには互換性はありません。DDRメモリは、DDRメモリ専用スロットに取り付けてください。

2.5.2 メモリの構成

本マザーボードは、64MB, 128MB, 256MB, 512MB および 1GBメモリのDDRメモリをサポートします。



DDRメモリは以下の組み合わせで用いてください。これ以外の場合、システムが起動しなくなります。

DDR DIMM1 (Rows 0&1)	DDR DIMM2 (Rows 2&3)	DDR DIMM3 (Rows 4&5)
SS/DS	SS/DS	SS/DS
SS/DS	SS/DS	SS/DS

* SS - シングルサイド DIMM
DS - ダブルサイド DIMM

2.5.3 DDR400 動作確認リスト

本マザーボードでは、以下の PC3200-DDR400 メモリの動作確認を行っています。

ベンダー	モデル	サイズ
Samsung	M368L6423DTM-CC4	512MB
Samsung	M368L3223DTM-CC4	256MB
Kingston	KVR400X64C25/512	512MB



現時点では、DDR400は、1スロットのみ対応します。DDR400は、上記リストにあるものを使用してください。他のものでは動作しない場合があります。最新の動作確認情報については、ASUSのWEBサイトを参照してください。

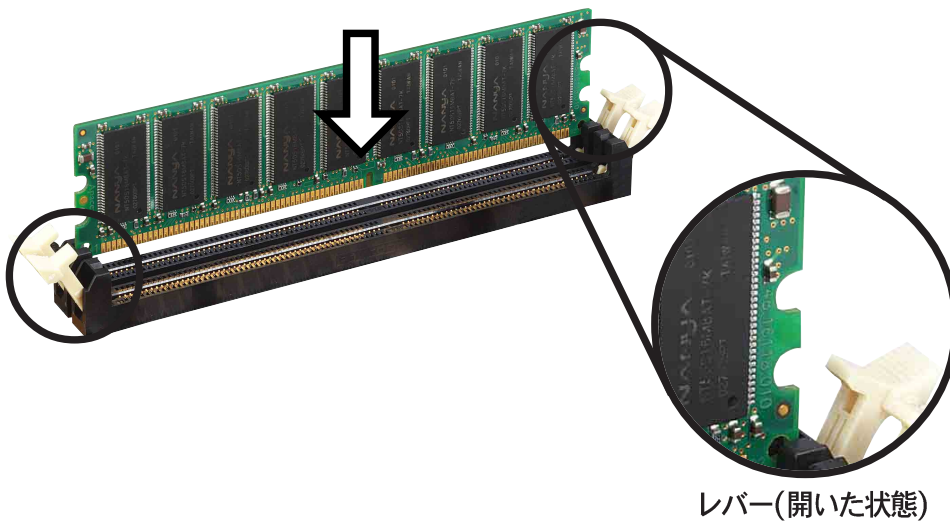
2.5.4 メモリモジュールの取り付け



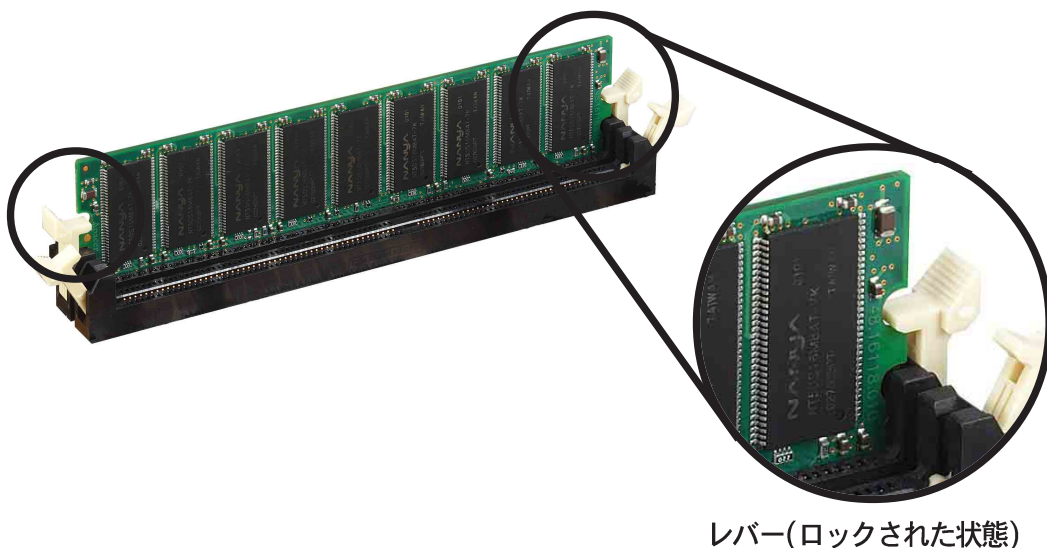
メモリを取り付け・取り外しする場合は、コンセントから電源プラグを抜いて作業してください。電源が入ったままメモリを抜き差しするとメモリおよびマザーボードが破損します。

以下の手順に従ってメモリを取り付けます。

1. メモリソケットの両端のレバーを外側に押し開きます。
2. メモリモジュールとソケットの刻み目の位置を合わせます。



3. メモリモジュールをソケットに押し込みます。最後まで押し込むと、レバーが自然に元の位置に戻りロックされます。



2.5.5 メモリモジュールの取り外し

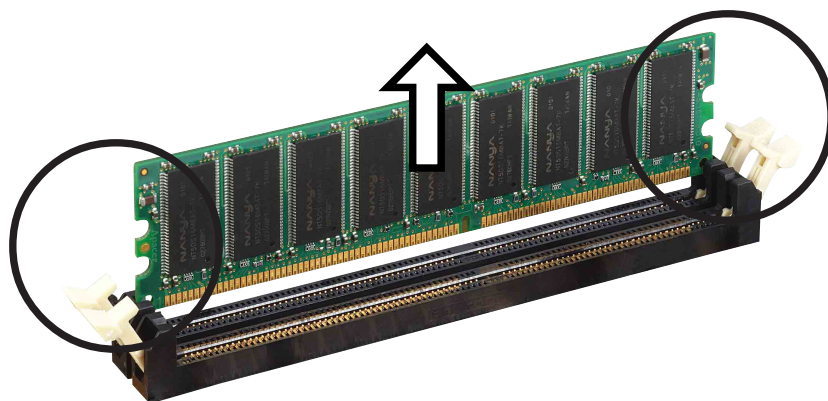
メモリを取り外す場合は以下の手順に従ってください。

1. ソケット両側のレバーを同時に押し開きます。



メモリを取り外す場合は、メモリモジュールに軽く手を添えてください。メモリモジュールを無理に引き抜こうとすると破損の恐れがあります。

2. メモリモジュールが自然に飛び出てきますので、ゆっくりと引き抜きます。



2.6 拡張スロット

拡張スロットは、拡張カードと呼ばれる増設カード用のコネクタです。本マザーボードには、PCIスロット×6、AGP(Accelerated Graphics Port)スロット×1があります。以下を参照して拡張カードを取り付けてください。



拡張カードを取り付け・取り外しする場合は、必ず電源プラグを抜いてください。マザーボードと拡張カードを破損する恐れがあります。

2.6.1 拡張カードの取り付け

以下の手順に従って、拡張カードを取り付けます。

1. 拡張カードの説明書をよく読んで、必要に応じてジャンパ等のハードウェア/ソフトウェアの設定を行います。
2. コンピュータのカバーを外します(マザーボードがケースに取り付け済みの場合)。
3. 使用するスロットのネジとブラケットを外します。ネジはあとで使用します。
4. カードとスロットのコネクタの向きを合わせ、しっかりと押し込みます。
5. 上記で外したネジを用いて、カードを固定します。
6. コンピュータのカバーを取り付けます。

2.6.2 拡張カードの設定

拡張カードを取り付けたあと、いくつかの設定とソフトウェアの調整が必要です。

1. 必要に応じてBIOSの設定を変更します。詳しくは第4章を参照してください。
2. 次ページの表を参考にして、拡張カードにIRQを割り当てます。
3. カードに必要なドライバ・ソフトウェアをインストールします。

標準的な割り込みの割り当て

IRQ	優先順位	一般的な機能
0	1	システムタイマ
1	2	キーボードコントローラ
2	N/A	プログラム可能な割り込み
3*	11	シリアルポート(COM2)
4*	12	シリアルポート(COM1)
5*	13	サウンドまたはパラレルポート2
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7*	15	パラレルポート(LPT1)
8	3	リアルタイムクロック
9*	4	ACPI モード
10*	5	PCIステアリング用IRQホルダ
11*	6	PCIステアリング用IRQホルダ
12*	7	PS/2マウス
13	8	コプロセッサ
14*	9	プライマリ IDE
15*	10	セカンダリ IDE

* これらのIRQは、通常PCIデバイス用のものです。

本マザーボードでの割り込み一覧表

	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI スロット1	-	-	-	共有	-	-	-	-
PCI スロット2	共有	-	-	-	-	-	-	-
PCI スロット3	-	共有	-	-	-	-	-	-
PCI スロット4	-	-	共有	-	-	-	-	-
PCI スロット5	-	-	-	共有	-	-	-	-
PCI スロット6	共有	-	-	-	-	-	-	-
AGP スロット	共有	-	-	-	-	-	-	-
USB 1.1 UHCI 1	-	-	-	-	-	共有	-	-
USB 1.1 UHCI 2	-	-	-	-	-	共有	-	-
USB 1.1 UHCI 3	-	-	-	-	-	共有	-	-
USB 2.0 EHCI	-	-	-	-	-	共有	-	-
AC97 Codec	-	-	-	-	-	-	単独使用	-
オンボードLAN	-	-	共有	-	-	-	-	-
オンボード1394	-	共有	-	-	-	-	-	-
オンボードSATA	-	共有	-	-	-	-	-	-
オンボードIDE	-	-	-	-	単独使用	-	-	-



IRQを共有するPCI スロットに複数のカードを挿す場合は、そのカードが「IRQ共有」に対応しているか、またはIRQを必要としないものかを確認してください。IRQが衝突すると、システムが不安定になったり、そのカードが使えなくなったりします。

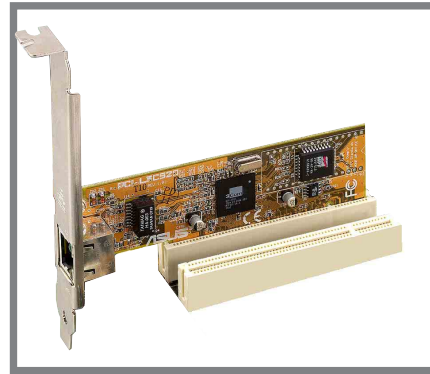
2.6.3 PCI スロット

本マザーボードは、6本の32ビット PCI スロットを持ちます。LAN、SCSI などのPCI 準拠の拡張カードを利用できます。

以下の写真はPCIスロットにLANカードを取り付けた例です。



ASUS BlueMagic PCI スロットは一般の PCI スロットとして使用でき、また、ASUS 独自の無線カード - Spacelink B&W と互換性があります。



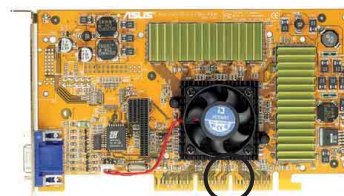
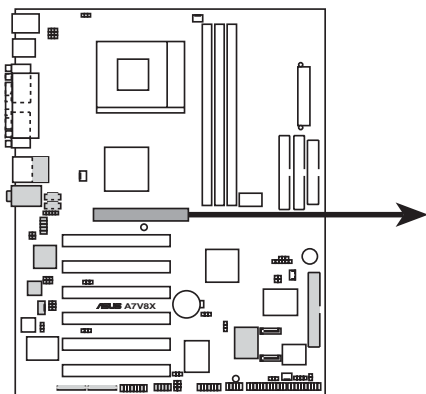
2.6.4 AGP スロット

本マザーボードでは、1.5V AGPカードのみサポートします。初期の 3.3V AGPカードは使用できません。AGPカードの種類はコネクタの形状で判別できます(下図を参考にしてください)。また、SiS305チップを搭載したカードもサポートしていません。

対応していないAGPカードを取り付けた場合、オンボードの赤い LED (AGP_WARN1)が点灯し、システムの電源を入れることができません(自動保護機能が働きます)。



本マザーボードでは、1.5V AGPカードのみサポートします。

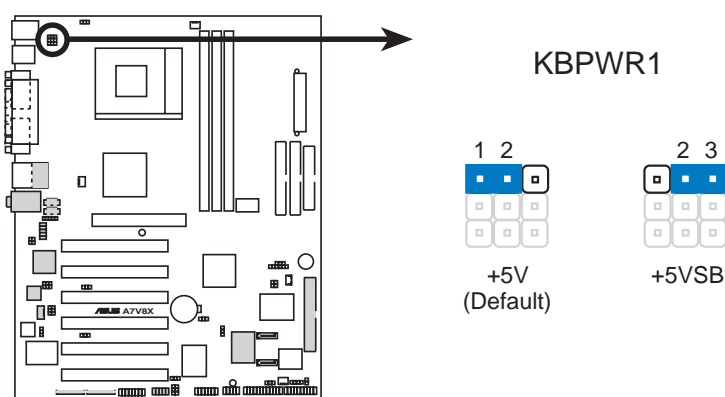


A7V8X Accelerated Graphics Port (AGP)

2.7 ジャンパ

1. キーボードパワー (3ピン KBPWR1)

キーボードパワーアップ機能の有効/無効を切り替えます。このジャンパを +5VSB にセットすると、キーボードのスペースバー(デフォルトは[Disabled])で電源をオンすることができます。この機能を用いるには、ATX電源の+5VSB に最低1Aの容量が必要です。適切な電源を用いずに、この機能を有効にすると電源が入らなくなります。また、同時に BIOS の設定が必要です(「4.5.1 Power Up Control」参照)。デフォルトは、+5V です。



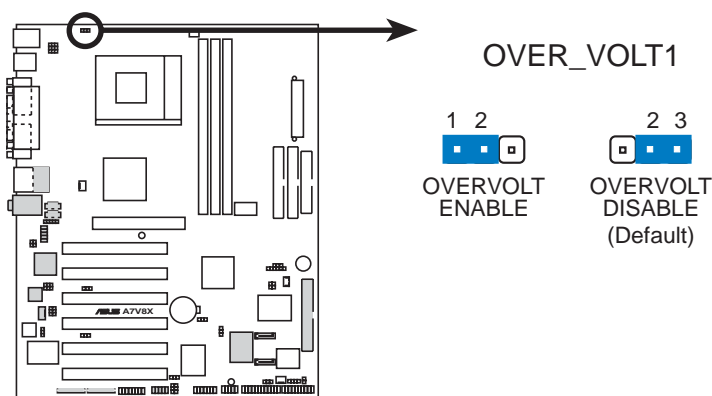
A7V8X Keyboard Power Setting

2. V_{CORE} 電圧設定 (3ピン OVER_VOLT1)

CPU Vcore電圧を 1.7V ~ 2.05V の範囲で変更できます。ジャンパが [Disable] の場合は、1.5V ~ 1.85V の範囲になります。電圧の変更は BIOS セットアップで行います。



高い電圧設定は、CPUにダメージを与える恐れがあります。デフォルトの [Disable] で使用することをお勧めします。



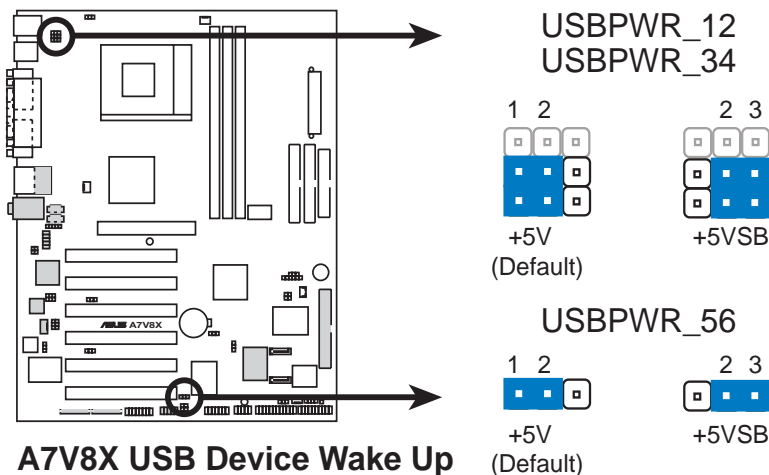
A7V8X CPU Over Voltage Setting

3. USB デバイス Wake-Up (3ピンUSBPWR_12, USBPWR_34, USBPWR_56)
 +5V に設定すると S1レベル(CPU停止・RAMリフレッシュ可能、低電力モード)のスリープモードから、+5VSB に設定すると S3レベル(CPUへの電力供給停止・RAMリフレッシュレート低下、省電力モード)のスリープモードから、それぞれUSB機器を用いての復帰が可能です。すべてのATX電源が適切な容量を持っているとは限りませんので、デフォルト設定は、+5Vです。

USBPWR_12 および USBPWR_34 ジャンパはリアパネルのUSBポートに、USBPWR_56 ジャンパは、内部USB端子.に対応しています。



1. +5VSB に設定した場合、ATX電源の+5VSBに最低1Aの容量が必要です。適切な電源を用いずに+5VSB に設定すると電源が入らなくなります。
2. 動作時およびスリープモードでのUSBデバイスの消費電力が、ATX電源の+5VSBの容量を越えないようにしてください。

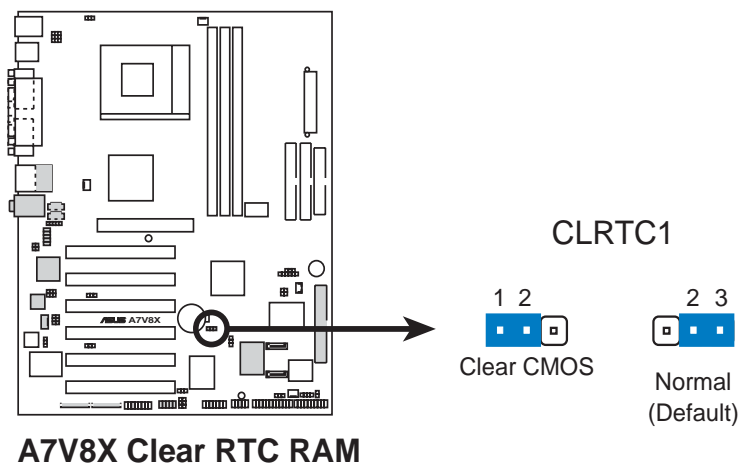


4. RTC RAM クリア (CLRTC1)

このジャンパを用いて CMOS内のReal Time Clock (RTC) RAMをクリアできます。このメモリには、システムの日付と時刻、BIOSの各種設定、パスワードなどが記憶されています。システムに問題があり、これらの設定を初期状態に戻したい場合、このジャンパをショートします。

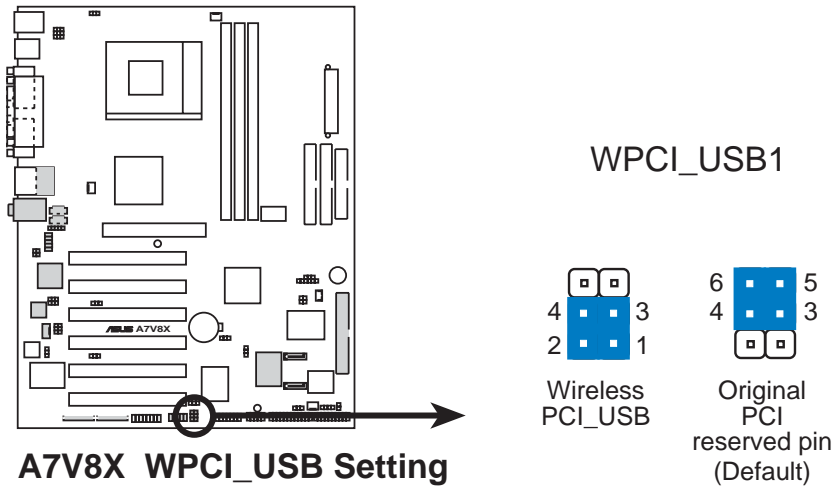
RTC RAM クリアの方法:

1. コンピュータの電源を切りコンセントから電源プラグを抜く。
2. バッテリー(ボタン電池)を取り外す。
3. CLRTC1 にジャンパをはめて数秒間ショートさせた後、ジャンパを取り外す。
4. バッテリーを取り付ける。
5. 電源を入れる。
6. <Delete>キーを押しながら起動させ、BIOSを再設定する。



5. WPCI_USB 設定 (6ピン WPCI_USB1)

ASUS wirelessカードを用いる場合、1セットのUSB信号をPCI スロット6に与えます。USB信号はPCIスロットのいくつかの信号を利用しており、また、他の PCIカードとの互換性を保つため、ASUS wireless カードを用いない場合は、デフォルトのままにしておいてください。



2.8 コネクタ

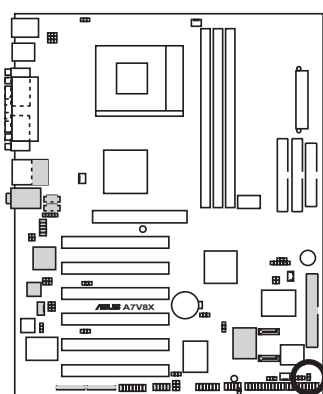
この項では、マザーボード上の内部機器接続用コネクタについて説明します。



フラットケーブルは通常1番ピン側が赤や青に塗られています。ハードディスクやCDドライブでは、通常電源コネクタ側が1番ピンとなりますが、フロッピードライブは逆の場合があります。

1. IDEアクセス LED (2ピン IDE_LED1)

ケースの IDEアクセスLEDをつなぐコネクタです。プライマリ/セカンダリコネクタに接続されている IDE機器が読み書きを行っている間、LEDが点灯します。



A7V8X IDE Activity LED

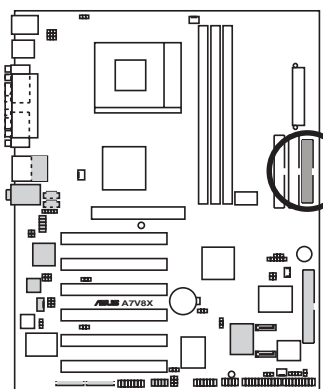
IDELED1



TIP: If the case-mounted LED does not light, try reversing the 2-pin plug.

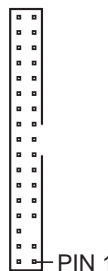
2. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンFLOPPY1)

FDドライブのフラットケーブルを接続します。ケーブルのコネクタが1つだけついている端をマザーボードにつなぎ、反対側をFDドライブにつなぎます。(誤接続防止のため、ケーブル側の5番ピンが埋められている場合がありますので、このコネクタの5番ピンもありません。)



A7V8X Floppy Disk Drive Connector

FLOPPY1



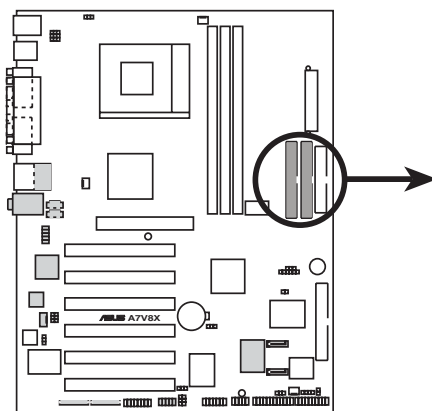
NOTE: Orient the red markings on the floppy ribbon cable to PIN 1.

3. IDE コネクタ (40-1ピンIDE1, IDE2)

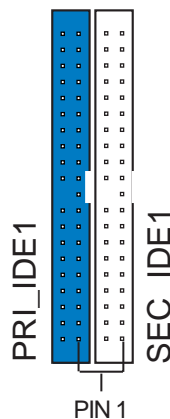
IDE UltraDMA/133/100/66ドライブのフラットケーブルをつなぐコネクタです。ケーブルを青いプライマリコネクタ(推奨)、または、セカンダリコネクタにつなぎます。反対側の灰色のコネクタをUltraDMA/133/100/66のスレーブドライブ、黒のコネクタをマスタードライブに接続します。1つのポートに2台のドライブを接続する時は、2台目がスレーブになるようにIDEドライブのジャンパを設定します。BIOSで、特定のドライブからブートさせることができます。3台以上のUltraDMA/133/100/66ドライブを接続する場合は、別途追加のUltraDMA/133/100/66用ケーブルをご用意ください。2台のHDDを1台はプライマリ、もう1台をセカンダリのそれぞれマスターとして設定できます。



1. ケーブル側の20番ピンが埋められている場合がありますので、このコネクタの20番ピンもありません。これにより、コネクタが間違った向きに接続できないようになっています。
2. UltraDMA/133/100/66ケーブルの青いコネクタ付近のケーブルの切れ目は設計上故意に切断されたものです。



A7V8X IDE Connectors



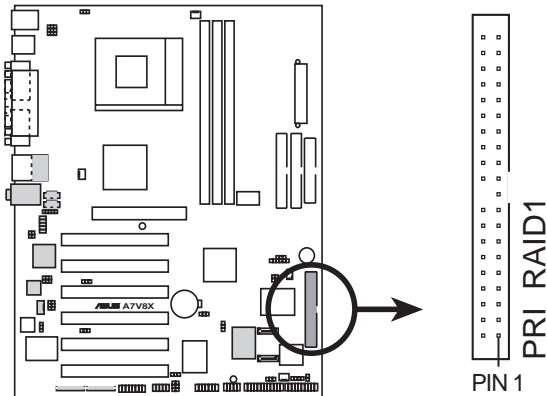
NOTE: Orient the red markings (usually zigzag) on the IDE ribbon cable to PIN 1.



UltraDMA/133/100/66デバイスで、その性能を得るためには、40ピン80芯のケーブルを用いる必要があります。付属のケーブルは、UltraDMA/133/100に対応しています。

4. RAID ATA/133/100/66/33 コネクタ (40-1ピン PRI_RAID)

オンボードSerial ATAコントローラによりRAID 0 または RAID 1をサポートします。ディスクアレイを構築してRAIDシステムとして用いることも、単なる増設HDDとして用いることもできます。接続できるのは、マスターモードのHDD 1台だけです。



NOTE: Orient the red markings (usually zigzag) on the IDE ribbon cable to PIN 1.

A7V8X PRI_RAID Connectors



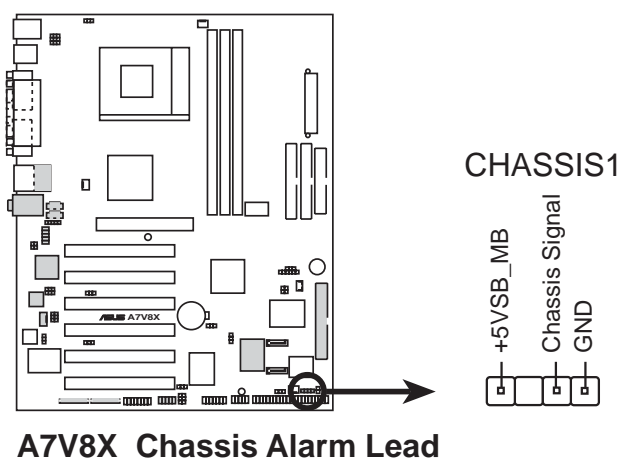
RAID機能に関する重要な注意:

1. 初期状態では、PRI_RAIDコネクタは通常のATA133/100/66/33プロトコルに設定されており、RAIDには対応していません。
2. このコネクタには、CD-ROM や DVD-ROM などの ATAPIデバイスは接続できません。
3. RAID 1 の場合は、Parallel ATA および Serial ATAコネクタの2つを使用します。RAID 0 の場合は、Parallel ATA および Serial ATAコネクタの2つまたは3つを選択して使用します。

5. ケース開放警報用コネクタ (4-1ピンCHASSIS1)

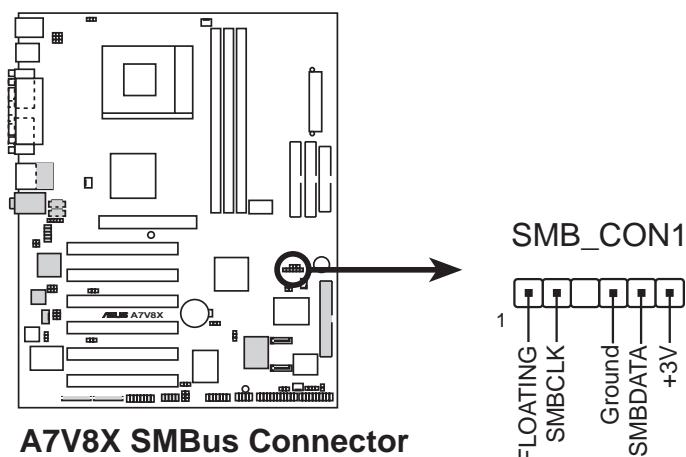
ケースが開放されたことを検出するためのコネクタです。ケースのカバーや他の取り外し可能な機器に市販のトグルスイッチを取り付けて使います。内部のパーツが取り外されるとスイッチが開放されマザーボードにそのことが通報されます。さらにLDCM等のソフトウェアに通知します。

この機能を用いない場合は、ジャンパをはめて、「Chassis Signal」と「Ground」をショートさせておいてください。ケース開放警報を使用する場合は、上記ジャンパを取り外してください。



6. SMBus コネクタ (6-1ピンSMB_CON1)

SMBus(System Management Bus) デバイス接続用コネクタです。SMBus デバイスは、SMBusホストとSMBus機器間の通信を行います。これは、I²Cバスとして定義されたマルチデバイスバスで、1つのバスに複数の機器を接続でき、それぞれが同時にマスタとしてデータ転送できます。

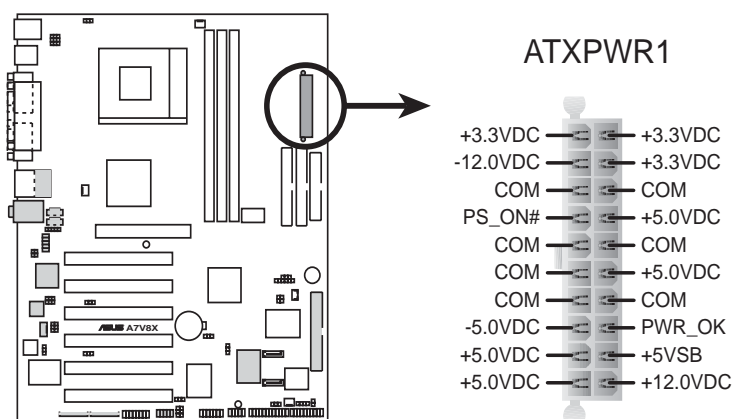


7. ATX 電源コネクタ (20ピン ATXPWR1)

ATX 12V電源装置用を接続するコネクタです。各コネクタは一方向にしかさならないようになっています。正しい向きを確認してコネクタを接続してください。



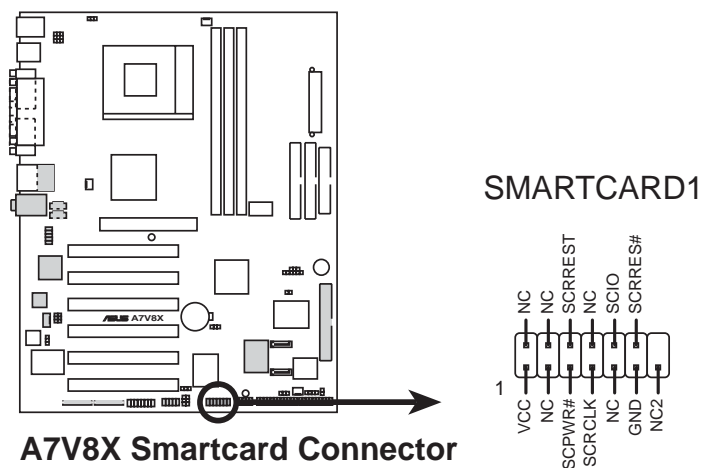
電源装置の容量を確認してください。+12Vに最低 8A、+5VSBに最低 1Aの容量が必要です。ワット数は最低230W、マザーボードのすべての機能を使用する場合は 300W必要です。電源容量が足りない場合、電源が入りにくくなったり、システムが不安定になったりします。



A7V8X ATX Power Connectors

8. Smart Card Reader コネクタ (14-1ピン SMARTCON1)

オプションのSmartCardリーダーを接続する端子です。SmartCardリーダーを直接制御することができます。Smart Cardを用いると、電子商取引、電話、旅行などの様々なアプリケーションを利用することができます。



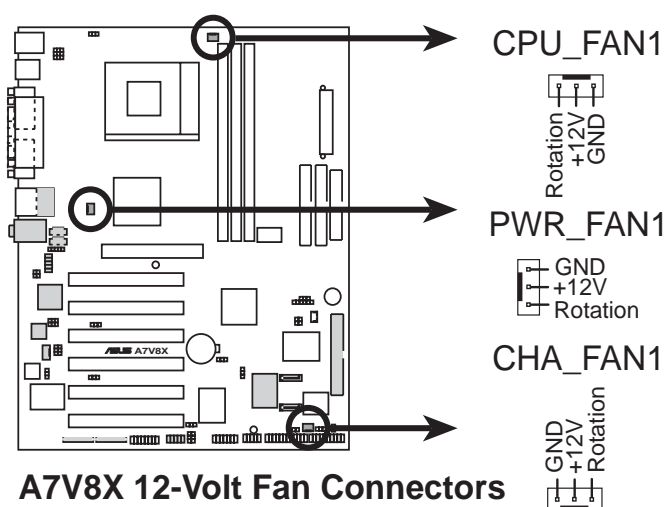
A7V8X Smartcard Connector

9. CPU,電源、ケース冷却ファンコネクタ(3ピンCPU_FAN1,PWR_FAN1,CHA_FAN1)

各350mA~740mA(最大8.88W)または合計1A~2.22A(最大26.64W)の12Vファンに対応しています。拡張カードではなく、マザーボード上のヒートシンクに風があたるように、ファンの向きを調節してください。ファンの種類により、取り付け方や配線は異なります。通常、赤がプラス、黒がグラウンドです。極性に注意してコネクタを接続してください。

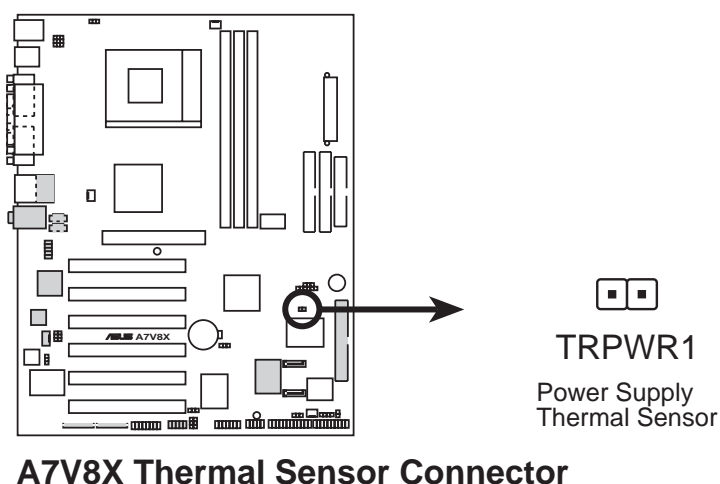


マザーボードのヒートシンクに風があたるようにしないと、オーバーヒートを起こします。このコネクタはジャンパではありません。ジャンパキャップをはめないようにしてください。



10. 電源用温度センサコネクタ(2ピンTRPWR1)

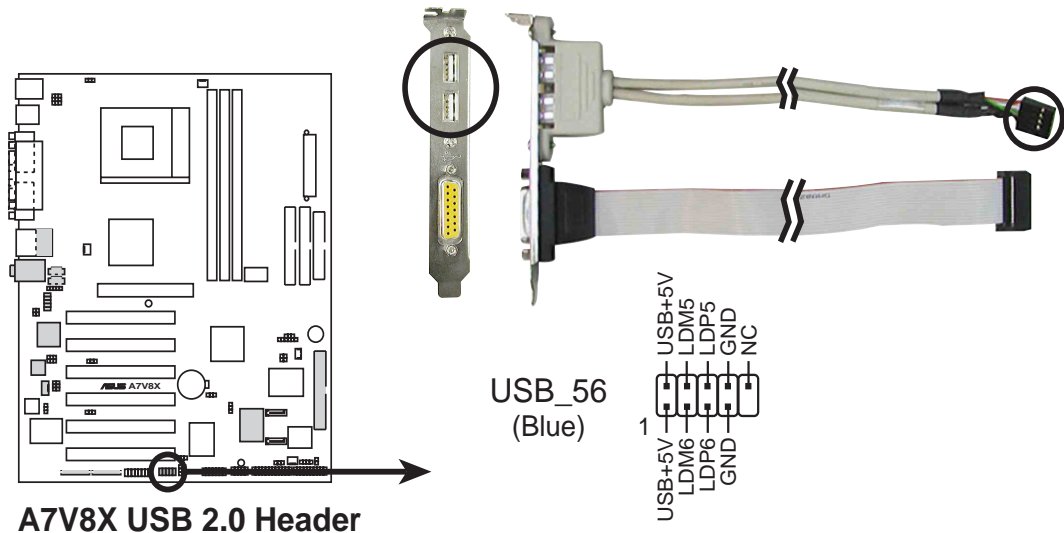
温度監視機能付きの電源を使用している場合は、その温度センサのケーブルをこの端子に接続します。



11.USB増設端子 (10-1ピン USB_56)

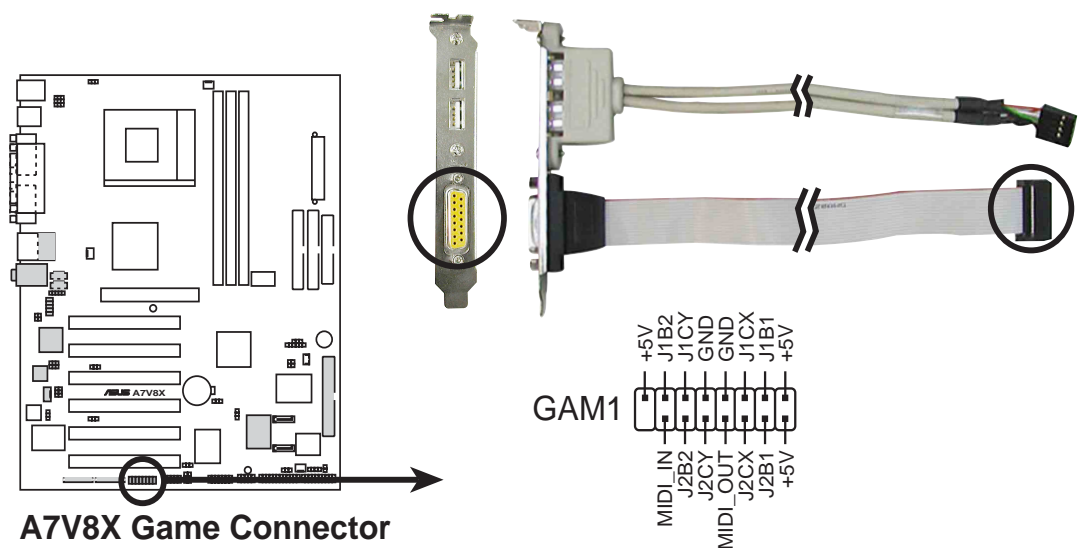
USBコネクタの数が足りない場合には、この端子により2個のUSBポートを増設できます。このUSB端子はUSB 2.0に対応し、USB 1.1の12 Mbpsより高速な 480 Mbpsで周辺機器との通信が可能です。

マザーボードのモデルによっては、USB 2.0/GAMEモジュールが同梱されている場合があります。この場合は、USB 2.0/GAMEモジュールの2つのUSB 2.0ポートを接続します。



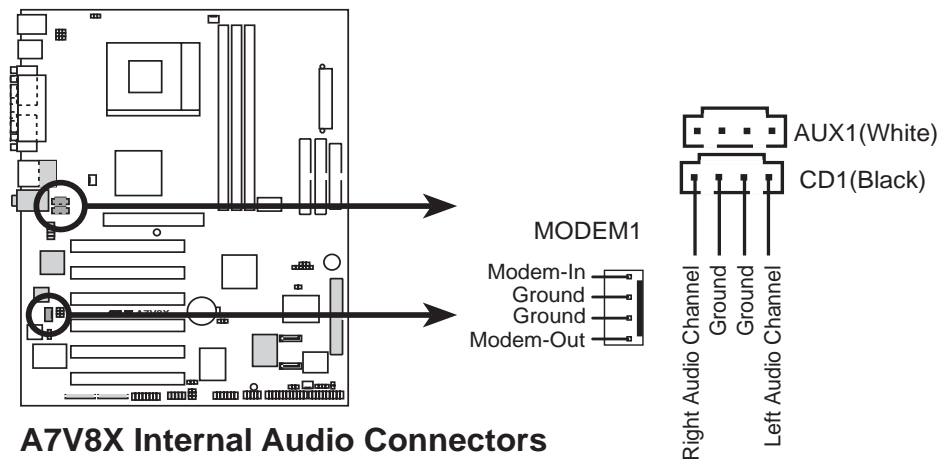
12.GAME/MIDI コネクタ (16-1ピン GAME1) (音源搭載モデルのみ)

Gameポートを利用する場合は、付属のUSB/Gameポートモジュールのフラットケーブルをマザーボードのコネクタにつなぎ、モジュールを空きスロットに取り付けます。



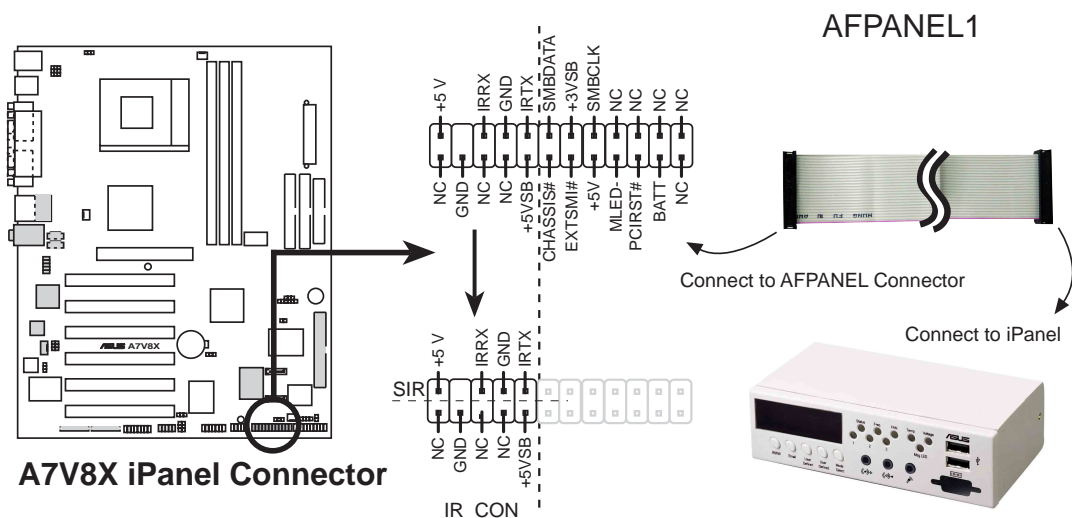
13. 内蔵音源用コネクタ (4ピン CD1, AUX1, MODEM1) (音源搭載モデルのみ)

CD-ROM、TVチューナ、MPEGカードからのステレオ入力用のコネクタです。MODEMコネクタは、オンボード音源をボイスモデムのように機能させることができます。また、オーディオおよびボイスモデムで mono_in (電話)とmono_out (スピーカ)を共用することもできます。



14. ASUS iPanel コネクタ (24-1ピン AFPANEL1)

ASUS iPanel (オプション)接続用のコネクタです。ドライブベイに取り付けて、I/Oコネクタ、監視LED、HDDのスペース確保に利用できます。ASUS iPanelを使わない場合は、SIRコネクタにオプションの赤外線モジュール、CIRとSIRコネクタに市販の赤外線コネクタを接続できます。双方とも、外部の赤外線機器と通信することができます。

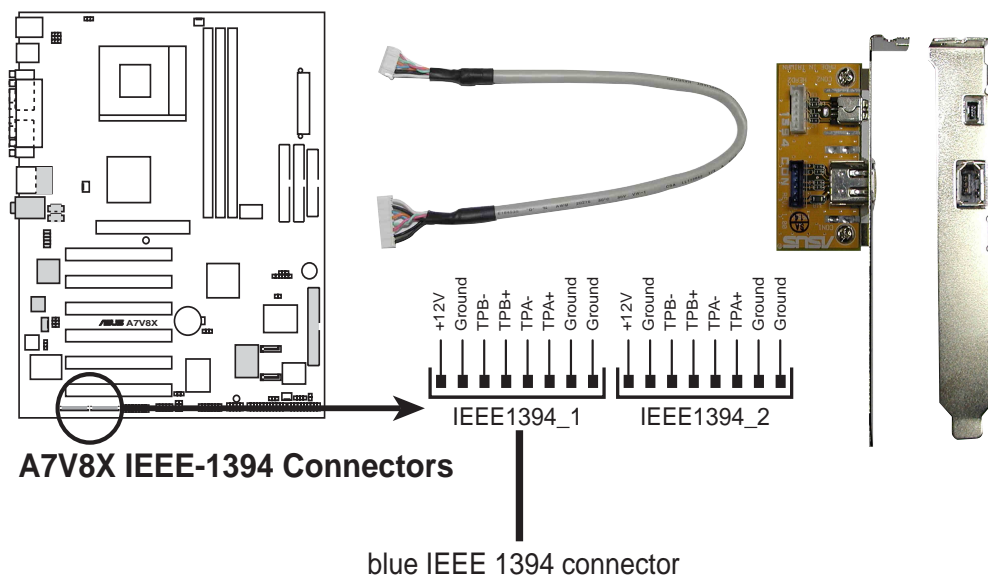


15. IEEE 1394 コネクタ (8-1 pin IEEE1394_1, IEEE1394_2) (1394モデルのみ)

このコネクタにより 2 ポートの IEEE 1394 が利用できます。付属の IEEE 1394ポートブラケットをケースに取り付け、専用ケーブルで接続します。



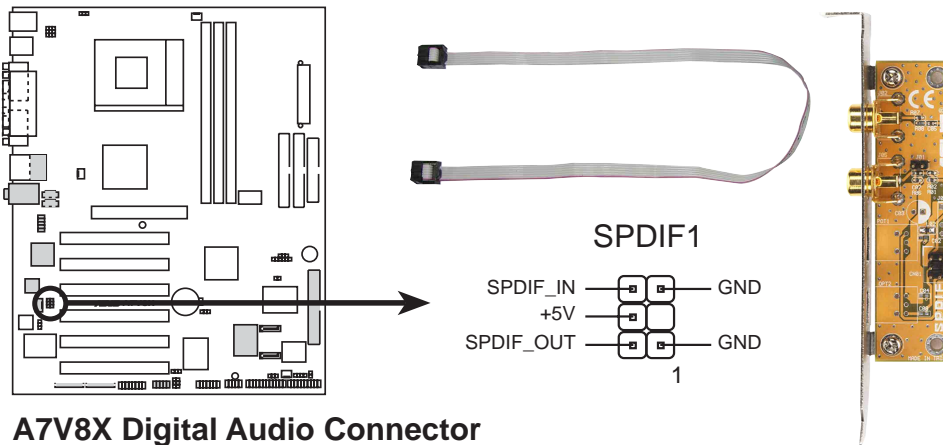
オンボードの青い IEEE 1394コネクタ(IEEE1394_1)に接続する IEEE 1394機器が内部電源を必要とするものかを確認してください。内部電源を必要としない IEEE 1394機器はオンボードの白い IEEE 1394 コネクタ (IEEE1394_2) に接続してください。



16. デジタルオーディオコネクタ (6-1ピン SPDIF1)

(音源搭載モデルのみ)

添付の SPDIF オーディオモジュールを接続するコネクタです。SPDIF モジュールをケースに取り付け、モジュールに付属のケーブルで接続します。高品質のデジタルオーディオを利用できるようになります。



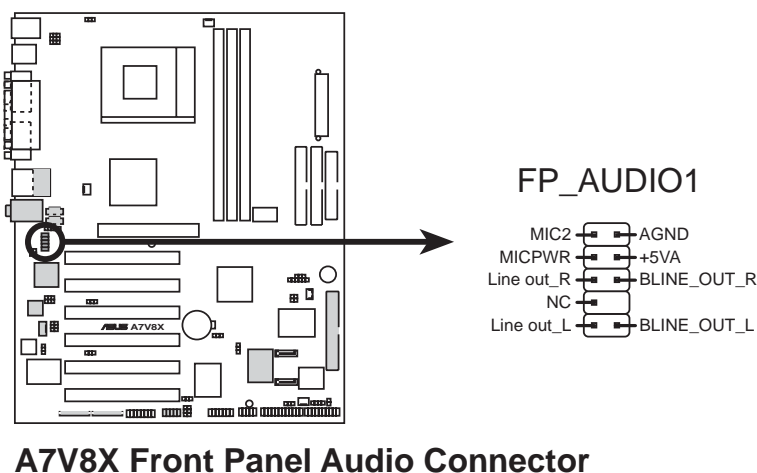
17. フロントパネルオーディオコネクタ(10-1ピンFP_AUDIO)

(音源搭載モデルのみ)

フロントパネルオーディオ用のコネクタです。

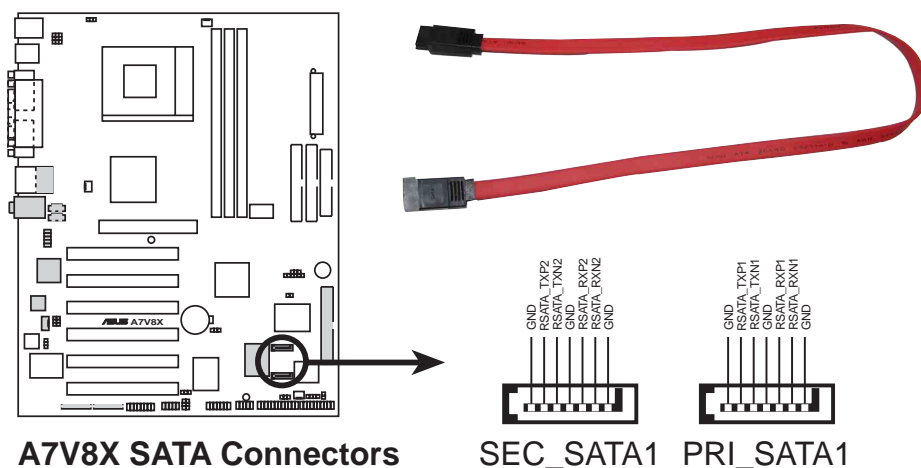


工場出荷状態では、Line out_R, BLINE_OUT_R および Line out_L, BLINE_OUT_L にジャンパキャップがはめられています。フロントパネルオーディオを用いない場合は、このジャンパをショートさせたままにしておいてください。



18. Serial ATA コネクタ (7ピン PRI_SATA1, SEC_SATA1) (SATA モデルのみ)

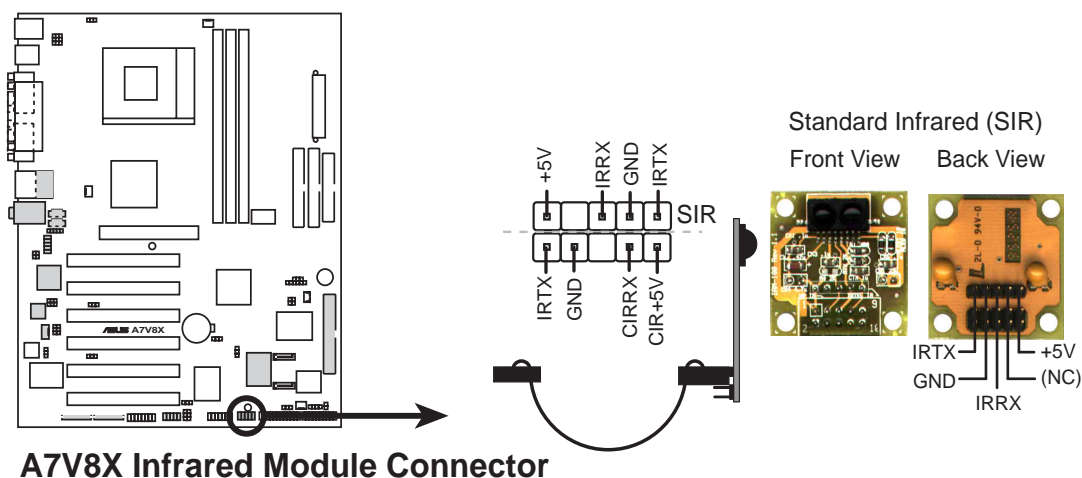
それぞれプライマリ Serial ATA (PRI_SATA1) および セカンダリ Serial ATA (SEC_SATA1) に対応したコネクタです。添付のケーブルを用いて Serial ATA 機器と接続します。



19. 赤外線モジュールコネクタ (10-1 または 10-2 ピン SIR)

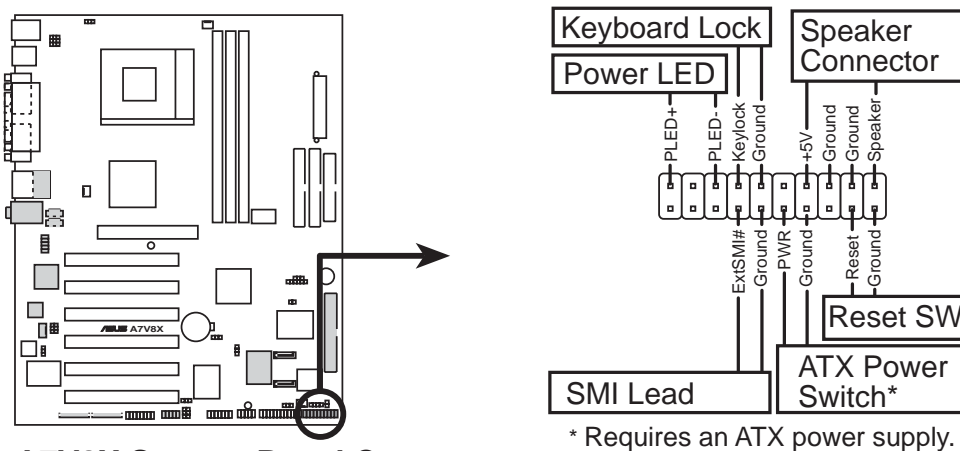
オプションの赤外線モジュールを接続する端子です。モジュールをケースに取り付け、付属のケーブルを接続します。ピンの割り当てを参照して向きを間違えないようにしてください。赤外線機能を用いる場合は、BIOS セットアップの「UART2 Use As」を「UART2」に設定してください。(「4.4.2 I/O Device Configuration」参照。)

以下のピン配列図を参照して、マザーボードの SIR コネクタと赤外線モジュールをフラットケーブルで接続してください。



20. システムPANELコネクタ (20ピンPANEL1)


ケースのスイッチやLEDを接続するコネクタです。



A7V8X System Panel Connectors

- ・ 電源LED用端子 (3-1ピンPLED)
ケースの電源LEDを接続する端子です。システムの電源入で点灯し、スリープ状態の時には点滅します。+/-の向きに注意してください。
- ・ キーボードロックスイッチ端子 (2ピンKEYLOCK)
ケースにキースイッチがついている場合は、ここに接続します。このスイッチにより、キーボードをロック(入力不可)できます。
- ・ ビープ音用スピーカ端子 (4ピン SPKR)
ケース付属のスピーカに接続します。音声メッセージやビープ音を聞くことができます。極性がありますが逆向きにつないでも音は鳴ります。
- ・ システム管理割り込みSMI用端子 (2ピンSMI)
システムを手動でサスペンドモードや「グリーン」モードにする端子です。コンピュータを使用していない時の節電やパーツの延命措置に有効です。ケースのサスペンドスイッチの2端子のコネクタを接続します。
- ・ ATX電源スイッチ用端子 (2ピン PWR)
ケースの電源スイッチを接続します。AT電源とは違ってモーメンタリ型(押し続けている間だけオンになる)スイッチを使用します。スイッチを一度押しと電源が入り、もう一度押しとソフト的にオフになります。電源LEDによりオンオフ状態を確認できます。極性はありません。
- ・ リセットスイッチ用端子 (2ピンRESET)
ケースのリセットスイッチを接続します。これもモーメンタリ型スイッチを使用します。システムの電源を切らずに再起動しますので、電源ユニットの寿命を延ばすために適切な再起動方法です。極性はありません。スイッチの故障などでショートしているとコンピュータが起動できなくなります。

第3章



電源の入れ方・切り方、および起動時のPOSTコードについて説明します。

基本操作

本章の内容

3.1 電源の入れ方	3-1
3.2 POST音声メッセージ	3-2
3.3 電源の切り方	3-4

3.1 電源の入れ方(最初の電源投入時に)

1. すべての結線を確認し、PCケースのカバーを閉じます。
2. すべての機器の電源スイッチがオフになっていることを確認します。
3. AC電源コードをコンピュータに接続します。
4. AC電源プラグをサージプロテクタ付きのコンセントに接続します。
5. 以下の順番で機器の電源を入れます。
 - a. ディスプレイ
 - b. 外付けSCSI装置(コンピュータから遠い順番に)
 - c. コンピュータ本体。ATX電源の場合は、電源自身に電源スイッチがあるものがあります。ケース前面のスイッチを入れる前に、これをオンにします。
6. ケースの電源LEDが点灯します。ATX電源の場合は、ATX電源スイッチを押した時点で点灯します。システムはパワーオンテスト(POST)に移行します。テスト中にBIOSはビーブ音を発したり、画面にメッセージを表示します。電源投入後、30秒たっても画面に何も表示されない時は、パワーオンテストに失敗しています。ジャンパやコネクタの接続を再度チェックし、必要に応じて販売店にご相談ください。

ビーブ音(Award BIOS)

ビーブ音	意味
短い音 1 回 (ロゴ表示中)	正常(エラーなし)
長い音の繰り返し	メインメモリの異常
短い音 3 回 +長い音 1 回	ビデオカードまたはビデオメモリの異常
短い音の繰り返し (コンピュータ稼働中)	CPUのオーバーヒート (システム周波数を下げている状態)



ASUS POST Reporter™ を使用している場合は、ビーブ音のかわりに音声メッセージが再生されます。

7. 起動中に <Delete>キーを押し続けるとBIOSセットアップが起動します。第4章を参照してBIOSの設定を行います。

3.2 POST音声メッセージ

本マザーボードは、ASUS POST Reporter™ 対応 Winbondスピーチコントローラ機能を持ちます。これは、起動時のPOSTメッセージを「声」にして、その内容を知らせてくれる機能です。

POST音声メッセージは、サポートCDに収録されている Winbond Voice Editor で編集することが可能です。ご自分で録音した音声を用いることもできます。

以下の表は、POST音声メッセージの一覧です。デフォルトの音声メッセージは英語です。

POST メッセージ	意味 / 対策
No CPU installed	<ul style="list-style-type: none">AMD Thoroughbred/Athlon XP/Athlon/ DuronプロセッサがCPUソケットに正しく取り付けられているか確認してください。
System failed CPU test	<ul style="list-style-type: none">CPUテストで異常がありました。CPUをチェックしてください。ASUSサポートにご連絡ください。 (「ASUSサポート情報」参照)
System failed memory test	<ul style="list-style-type: none">PC3200/2700/2100/1600メモリがソケットに正しく取り付けられているか確認してください。メモリに異常がないか確認してください。メモリの種類が正しいか確認してください。 (「2.5 メインメモリ」参照)
System failed VGA test	<ul style="list-style-type: none">ビデオカードに異常があります。AGPビデオカードの場合は、1.5V仕様のものかどうかチェックしてください。
System failed due to CPU over-clocking	<ul style="list-style-type: none">CPUのクロックオーバーです。BIOSの設定を確認してください。 (「4.4 Advancedメニュー」参照)
No keyboard detected	<ul style="list-style-type: none">キーボードが接続されていません。キーボードがリアパネルのPS/2ポート(紫色)に接続されているか確認してください。 (「1.4 各部の名称と機能」参照)

POST メッセージ	意味 / 対策
No floppy disk detected	<ul style="list-style-type: none"> ・ FDDが接続されていません。 ・ FDドライブがマザーボードのFDDコネクタに接続されているか確認してください。 (「2.8 コネクタ」参照)
No IDE hard disk detected	<ul style="list-style-type: none"> ・ IDE HDDが接続されていません。ハードディスクがマザーボードのIDEコネクタに接続されているか確認してください。 (「2.8 コネクタ」参照)
CPU temperature too high	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUの温度が上限を越えました。 ・ CPUファンが動作しているか確認してください。
CPU fan failed	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUファンの故障です。 ・ CPUファンの電源コネクタが正しく接続されているか確認してください。
CPU voltage out of range	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUの電圧異常です。 ・ ATX電源が正常に動作しているか確認してください。 ・ ASUSテクニカルサポートにご連絡ください。 (「ASUSサポート情報」参照)
System completed Power-On Self Test	<ul style="list-style-type: none"> ・ POSTが完了しました。 ・ 確認メッセージです。対策は不要です。
Computer now booting from operating system	<ul style="list-style-type: none"> ・ OSを起動します。 ・ 確認メッセージです。対策は不要です。



音声メッセージが必要ない場合は、ASUS POST Reporter を無効にすることもできます。詳しくは、BIOSセットアップの「4.4.2 I/O Device Configuration」を参照してください。


3.3 電源の切り方

スイッチで電源を切る前にOSをシャットダウンしてください。Windows 9XやWindows 2000の場合、「スタート」ボタンをクリックし「Windowsの終了」－「電源を切れる状態にする」を選択します。Windowsが終了すると同時にコンピュータの電源も自動で切れます。Windows NTやその他のOSの場合は、OSを終了させてから電源スイッチを用いて電源を切ります。



ATX電源を用いている場合は、「電源を切る準備ができました」というメッセージは表示されません。

第4章



BIOSの取り扱い方法と、セットアッププログラムを用いたシステムの設定方法について解説します。また、BIOSパラメータの詳細情報があります。

BIOSセットアップ

本章の内容

4.1	BIOSの取り扱いとアップデート	4-1
4.2	BIOS セットアップ	4-7
4.3	Main メニュー	4-10
4.4	Advanced (詳細) メニュー	4-17
4.5	Power (電源管理) メニュー	4-27
4.6	Boot (起動)メニュー	4-33
4.7	Exit (終了) メニュー	4-35

4.1 BIOSの取り扱いとアップデート



再インストールに備えて、オリジナルのBIOSをブート可能なフロッピーディスクにバックアップすることを推奨します。

4.1.1 ASUS EZ Flash を用いる場合

ASUS EZ Flash は、BIOSに組み込まれたファームウェアで、簡単にBIOSアップデートを行うことができます。起動用のFDを用いたり、DOSを起動しなおしたりする必要はありません。EZ Flash を起動するには、コンピュータの起動(POST)中に <Alt> + <F2> を押します。

以下は、ASUS EZ Flash を用いたBIOSアップデート方法です。

1. ASUSのWWWまたはFTPサイトから、BIOSファイルをダウンロードし、フロッピーディスクに保存します。(詳細は「ASUS サポート情報」参照。)



BIOSのファイル名を控えておいてください。EZ Flash の exact BIOS file name でBIOSファイル名を入力します。

2. コンピュータを再起動します。
3. POST中に <Alt> + <F2> を押します。以下のメッセージが表示されます。

```
ASUS EZ Flash V1.00
Copyright (C) 2002, ASUSTeK COMPUTER INC.

[Onboard BIOS Information]
BIOS Version      : ASUS A7V8X ACPI BIOS Revision 1001 Beta 003
BIOS Model       : A7V8X
BIOS Built Date  : 07/29/02

Please Enter File Name for NEW BIOS: _
*Note: EZ Flash will copy file from A:\, Press [ESC] to reboot
```



上記の画面写真は一例です。お使いの環境によりメッセージの内容は異なります。

4. BIOSファイルの入ったフロッピーディスクをセットします。ドライブにディスクがないと、エラーメッセージ「WARNING! Device not ready.」が表示されます。
(次ページへつづく)

- 「Please Enter File Name for NEW BIOS:」プロンプトに対し、アップデートしたいBIOSファイル名を入力して <Enter> を押します。EZ Flash は、自動でドライブ A からファイルを探します。ファイルがあった場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
[BIOS Information in File]
BIOS Version:  A7V8X Boot Block

WARNING! Continue to update the BIOS (Y/N)? _
```

BIOSファイル名を間違った場合は「WARNING! File not found.」と表示されますので、<Enter>を押し、正しいファイル名を再入力して<Enter>を押します。

- 上記のメッセージに対して Y を押すとアップデートが開始されます。N を押すと、アップデートは中止され、コンピュータが再起動します。Y を押した場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
Flash Memory:  SST 49LF004

1. Update Main BIOS area      (Y/N)? _
2. Update Boot Block area     (Y/N)? _
```

- 各プロンプトに対して Y を押してください。ブートブロックの書き換えが始まります。



ブートブロックの書き換え中には、絶対電源を切ったりリセットしないでください。再起動不可能になります。

- アップデートが完了すると「Press a key to reboot」と表示されます。何かキーを押すと、コンピュータが再起動し、新しいBIOSが有効になります。

4.1.2 AFLASHを用いる場合

ブートディスクの作成とバックアップ

AFLASH.EXE はフラッシュメモリ用のライターユーティリティでマザーボードのBIOSをディスクに保存したり、新しいBIOSをマザーボード上のROMに書込む場合に使用します。このユーティリティはDOS専用です。BIOSのバージョンは起動時のメッセージで確認できます。数字の大きなものほど新しいバージョンです。

1. DOSプロンプトで `FORMAT A:/S` を実行します。
AUTOEXEC.BAT と CONFIG.SYS は、コピーしないでください。
2. 上記のフロッピーディスクにAFLASH.EXEをコピーします。
例： `COPY D:¥AFLASH¥AFLASH.EXE A:¥` (D は、CD-ROMドライブのドライブレター)。



AFLASHは DOSモード専用です。WindowsのDOSプロンプト、ハードディスクから起動したメモリマネージャを含むDOS、WindowsMEの起動用FDでは動きません。DOS 6.2, WIN95 / WIN98の起動用FDをお使いください。

3. 上記のフロッピーディスクでコンピュータを再起動します。



「BIOS セットアップ」の「boot sequence」メニューで、「first item」にFloppyを設定しておいてください。

4. DOSプロンプトに対し `A:¥AFLASH <Enter>` と入力します。

```
ASUS ACPI BIOS
FLASH MEMORY WRITER V2.0
Copyright (C) 1994-2001 ASUSTeK COMPUTER INC.

Flash Memory: Winbond W29C020 or SST 29EE020 or Intel 82802AB

Current BIOS Version: ASUS XXX-XX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model          : XXX-XX
BIOS Built Date     : 12/25/01

Choose one of the followings:

1. Save Current BIOS To File
2. Update BIOS Including Boot Block and ESCD

Enter choice: [1]

Press ESC To Exit
```



Flash Memory 項目に「unknown」と表示された場合、最新版のAFLASHを用いてみてください。AFLASHはASUSのサイトからダウンロードできます。

(次ページへつづく)

5. メインメニューで「1. Save Current BIOS to File」を選択し、<Enter>キーを押します。「Save Current BIOS To File」画面に切り換わります。

```
Save Current BIOS To File
Flash Memory: Winbond W29C020 or SST 29EE020 or Intel 82802AB
Current BIOS Version: ASUS XXX-XX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model          : XXX-XX
BIOS Built Date     : 12/25/01
Please Enter File Name to Save: XXX-XX.XXX

BIOS Saved Successfully
Press ESC To Continue
```

6. パスとファイル名を入力します。例)A:¥XX-XX.XXX<Enter>

BIOSアップデート手順



BIOSアップデートは、マザーボードに問題があり新しいBIOSでそれが解決出来る場合に行ってください。不用意なアップデートは、問題をさらに拡大させる可能性があります。

1. ASUSのWWWまたはFTPサイトから、BIOSファイルをダウンロードし、先に作成したフロッピーディスクに保存します。(詳細は「ASUS サポート情報」参照。)
 2. そのフロッピーディスクでコンピュータを起動します。
 3. A:¥>プロンプトに対し、AFLASH<Enter>と入力します。
 4. Main Menuで2 <Enter>と入力します。「Update BIOS Including Boot Block and ESCD」画面に切り換わります。
 5. 新しいBIOSのパスとファイル名を入力します。例:A:¥XXX-XX.XXX<Enter>
- この操作を取り消すには、何も入力せずに <Enter>を押します。

```
Update BIOS Including Boot Block and ESCD
Flash Memory: Winbond W29C020 or SST 29EE020 or Intel 82802AB
Current BIOS Version: ASUS XXX-XX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model          : XXX-XX
BIOS Built Date     : 12/25/01
Please Enter File Name for NEW BIOS: A:\XXX-XX.XXX
```

6. 確認メッセージに対して、<Y>を押すとアップデート開始です。

```
Update BIOS Including Boot Block and ESCD
Flash Memory: Winbond W29C020 or SST 29EE020 or Intel 82802AB
BIOS Version
[CURRENT ] ASUS XXX-XX ACPI BIOS Revision 100X
[test.awd] ASUS XXX-XX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model
[CURRENT ] XXX-XX
[test.awd] XXX-XX
Date of BIOS Built
[CURRENT ] 09/25/99
[XXXX.XXX] 05/29/00
Check sum of 1001.010 is F266.
Are you sure (Y/N) ? [Y]
Press ESC To Return to Main Menu
```

(次ページへつづく)

7. フラッシュROMに新しいBIOSの情報が書き込まれます。ブートブロックについては、必要に応じて自動で更新されます。これは、アップデート失敗による再起動不能のリスクを最小限に押さえます。「*Flashed Successfully*」と表示されたら、プログラミング終了です。

```
Update BIOS Including Boot Block and ESCD

Flash Memory: Winbond W29C020 or SST 29EE020 or Intel 82802AB

BIOS Version
[CURRENT ] ASUS XXX-XX ACPI BIOS Revision 100X
[test.awd] ASUS XXX-XX ACPI BIOS Revision 100X

BIOS Model
[CURRENT ] XXX-XX
[test.awd] XXX-XX

Date of BIOS Built
[CURRENT ] 12/25/01
[XXXX.XXX] 05/29/00

Check sum of 1001.010 is F266.

Are you sure (Y/N) ? [Y]
Block Erasing -- Done
Programming -- 3FFFF
Flashed Successfully

Press ESC To Continue
```

8. 画面の指示に従って続けます。

```
ASUS ACPI BIOS
FLASH MEMORY WRITER V2.0
Copyright (C) 1994-2001 ASUSTeK COMPUTER INC.

Flash Memory: Winbond W29C020 or SST 29EE020 or Intel 82802AB

Current BIOS Version: ASUS XXX-XX ACPI BIOS Revision 100X
BIOS Model           : XXX-XX
BIOS Built Date      : 12/25/01

Choose one of the followings:

1. Save Current BIOS To File
2. Update BIOS Including Boot Block and ESCD

Enter choice: [1]

You have flashed the EPROM:It is recommended that you turn off
the power, enter SETUP and LOAD Setup Defaults to have CMOS
updated with new BIOS when exits.

Press ESC To Exit
```



アップデート中に問題が発生しても、絶対に電源を切ってはいけません。再起動不可能になります。もう一度同じ手順を繰り返して、それでも問題あるなら保存してある元のBIOSファイルを用いてください。BIOSファイルが完全に書き込まれない状態で中断すると、コンピュータは起動できなくなります。万一、この状態になった場合は修理が必要になります。

4.2 BIOS セットアップ

本マザーボードは、書換え可能なEEPROMを用いており、「4.1 BIOSの取り扱いとアップデート」で述べたツールでアップデート可能です。

このツールは、マザーボードの交換、システムの再構築、または「Run Setup」と表示された時に使います。この章では、このツールを用いたシステム構築方法について述べます。

セットアッププログラムを使うように表示されない場合でも、将来コンピュータの設定を変える必要が出てくるかもしれません。例えば、セキュリティのためにパスワードを設定したり、省電力の設定を変えたりできます。システム設定を変更するには、BIOSセットアップを用いて、変更をコンピュータに教え、EEPROMのCMOSメモリに書き込む必要があります。

マザーボードのEEPROM内にセットアッププログラムが内蔵されています。コンピュータのパワーオンテスト(POST)中に、<Delete>キーを押すことにより、このプログラムを呼び出すことができます。もし、少しでもキーを押すのが遅れた場合は、自己診断が実行されセットアッププログラムを呼び出すことができません。

POSTが終了したあとにBIOSセットアップを呼び出したい場合は、<Ctrl> + <Alt> + <Delete>またはリセットボタンを押してシステムを再起動してください。または、電源を一旦切って再起動してもいいですが、これは、先の2つの方法に失敗した時にしてください。

セットアッププログラムは、できる限り使いやすいようにデザインされています。メニュー方式になっており、様々なサブメニューから目的の項目を選択することができます。



BIOSは、常に最新のものにアップデートされているため、次ページからの画面は一例であり、お使いのものとは異なる場合があります。

4.2.1 BIOS メニューバー

BIOS画面の上部には、以下のメニューがあります。

MAIN	基本的なシステムの設定と変更
ADVANCED	詳細なシステムの設定と変更
POWER	電源管理・省電力の設定と変更
BOOT	起動デバイスの設定
EXIT	設定の保存方法についてとセットアップの終了

メニューを選択するには、左右の矢印キーを用いて、目的のメニュー項目が強調表示されるようにします。

4.2.2 リジेंटバー

画面の下端には、古い方式のメニューがあります。キー操作によって直接セットアッププログラムを操作する方式です。以下は、キーのリストとそれに相当するメニューの機能の一覧です。

操作キー	機能の説明
<F1> or <Alt + H>	ヘルプ画面の呼び出し(どのメニューからでも有効)
<Esc>	Exitメニューの呼び出し、または、親メニューに戻る
←または→(矢印キー)	左右のメニュー項目(カテゴリ)の選択
↑または↓(矢印キー)	上下のメニュー項目(カテゴリ)の選択
-(マイナス)	選択中の項目を1つもどす
+(プラス)、スペース	選択中の項目を1つすすめる
<Enter>	選択項目の選択肢を呼び出す
<Home> or <PgUp>	最初の項目へ
<End> or <PgDn>	最後の項目へ
<F5>	画面に表示されている項目をデフォルトにもどす
<F10>	保存して終了

General help (ヘルプ)

「Item Specific Help」ウィンドウに加え、BIOSセットアッププログラムは、General Help画面を持っています。この画面は、どのメニューからでも <F1> または <Alt> + <H> キーで呼び出すことができます。General Help画面には、キー操作による操作方法が記されています。

Saving changes and exiting the Setup program

設定の保存と終了方法の詳細については「4.7 Exit メニュー」をご覧ください。

スクロールバー

ヘルプ画面の右にスクロールバーが表示された場合は、画面に表示しきれない項目があることを示しています。<PgUp> および <PgDn>、または、上下の矢印キーを用いると、画面をスクロールさせてすべての項目が見れます。<Home> キーで最初のページ、<End> キーで最後のページ、<Enter> または <Esc> キーで終了、です。

サブメニュー



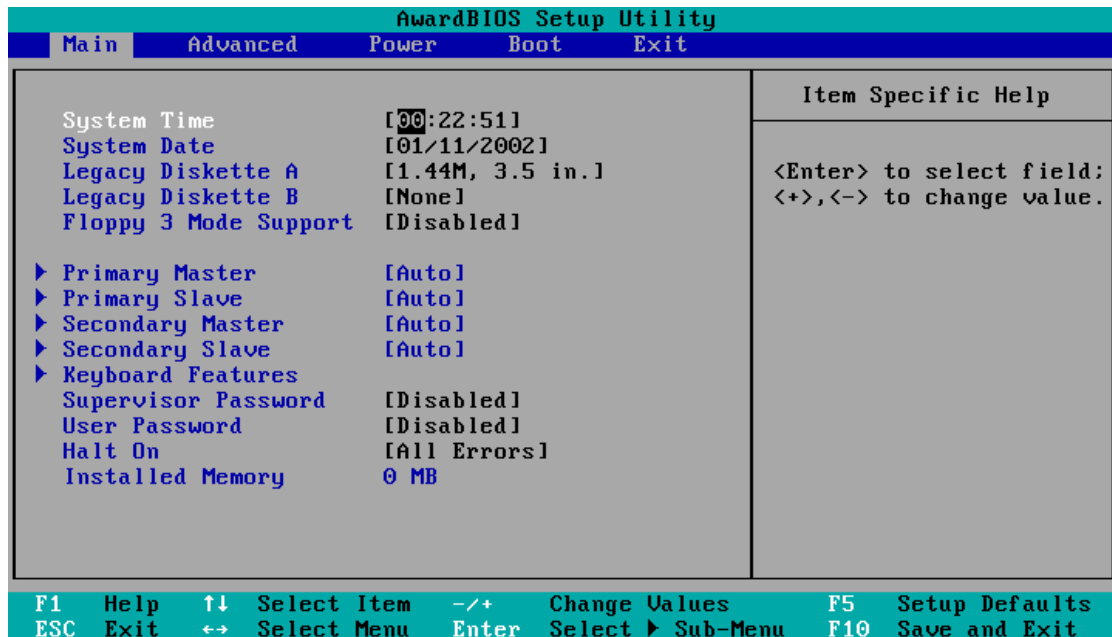
特定の項目に右矢印(左図参照)が表示されることがあります。これは、この項目にサブメニューがある印です。サブメニューにはその項目の追加項目があります。サブメニューを呼び出すには、その項目を強調表示させ<Enter> キーを押します。サブメニューが表示されます。サブメニュー内の操作方法は、メインメニューのものと同じです。<Esc> キーでメインメニューに戻ります。

どのキーが何の機能を持つのか、いろいろなメニューやサブメニューについて、少し練習してみてください。項目に間違っただけの変更を加えてしまった場合は、<F5> キーを押すと、デフォルト値に戻ります。セットアッププログラムでは、各項目が強調表示されている時に右側のウィンドウにヘルプ画面 (Item Specific Help) が表示されます。これは、その強調表示されている項目についての説明です。

各項目にある角括弧 [] 内は、デフォルト値を表しています。また、[Disabled] は無効、[Enabled] は有効、[Auto] は自動の意味です。

4.3 Main メニュー

セットアッププログラムを起動すると以下の画面になります。



System Time [XX:XX:XX]

現在の時刻をセットします。時、分、秒の順になっています。設定できる値の範囲は、時が00から23、分が00から59、秒が00から59です。<Tab>キーまたは<Shift> + <Tab>キーで、時分秒の項目間を移動できます。

System Date [XX/XX/XXXX]

現在の日付をセットします。月、日、年の順で、設定できる値の範囲は、月が1から12、日が1から31、年が西暦の4桁です。<Tab>キーまたは<Shift> + <Tab>キーで月日年の項目間を移動できます。

Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.];

Legacy Diskette B [1.44M, 3.5 in.]

フロッピーディスクドライブの種類を設定します。設定できる値は：[None] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]です。

Floppy 3 Mode Support [Disabled]

NEC98シリーズの1.2MBフロッピーを読み書きする場合に設定します。設定出来る値は：[Disabled][Enabled]です。

Language [English US]

BIOS言語をオプションリストの中から選択してください。

Supervisor Password [Disabled] / User Password [Disabled]

パスワードの設定です。該当する項目を強調表示させ、<Enter>を押します。パスワードを入力して<Enter>を押します。8文字の英字が有効で、記号や他の文字は無視されます。確認のためもう一度入力して<Enter>を押します。これで、パスワードが *Enabled* に設定されます。このパスワードでBIOSのすべての設定が行えます。パスワードをクリアするには、該当する項目を強調表示させ、<Enter>を押します。上記の入力欄が表示されますので、何も入力せずに<Enter>を押します。これで、パスワードが *Disabled* に設定されます。

パスワードについて

BIOSセットアップのメインメニューでパスワード入力が必要されます。正しいパスワードを入力した場合のみ、BIOSセットアップに入ることができます。大文字小文字の区別はありません。Supervisor password(管理者用)と User password(ユーザー用)の2種類があります。パスワードを設定しないと、誰もがBIOSセットアップを行うことができます。パスワードを設定した場合、BIOSセットアップの起動時にSupervisorパスワードを入力する必要があります。パスワードが正しければ、BIOSセットアップのすべての項目を変更できるようになります。

パスワードを忘れた場合は?

パスワードをクリアするには、CMOS内の Real Time Clock (RTC) RAMをクリアする必要があります。クリア方法は「2.7 スイッチとジャンパ」を参照してください。RTC RAMには、BIOSセットアップの設定値が保存されており、これもクリアされますのでご注意ください。

Halt On [All Errors]

どのような種類のエラーでシステムを停止させるかを設定します。設定できる値は： [All Errors] [No Error] [All but Keyboard] [All but Disk] [All but Disk/Keyboard]です。

Installed Memory [XXX MB]

システムが起動時に検出したメインメモリ容量を表示します。表示のみで変更する必要はありません。

4.3.1 Primary&Secondary / Master & Slave (IDEドライブ)

AwardBIOS Setup Utility	
Main	
Primary Master [Auto]	Item Specific Help
Type [Auto]	<Enter> to select the type of the IDE drive. [User Type HDD] allows you to set each entry on your own. WARNING: Ultra DMA mode 3/4/5 can be enabled only when BIOS detects shielded 80-pin cable.
Cylinders [1024]	
Head [255]	
Sector [63]	
CHS Capacity 8422MB	
Maximum LBA Capacity 25590MB	
Multi-Sector Transfers [Maximum]	
SMART Monitoring [Disabled]	
PIO Mode [4]	
ULTRA DMA Mode [Disabled]	
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F5 Setup Defaults ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ► Sub-Menu F10 Save and Exit	

Type[Auto]

[Auto] を選択すると、IDEドライブを自動認識します。自動認識が成功すると、サブメニューに設定値(ジオメトリなど)が表示されます。自動認識できない場合は、そのドライブが古い形式のものか、または最新のものである可能性があります。また、他のシステムで使用していたHDDの場合、間違ったパラメータで認識される可能性があります。[User Type HDD] を選択して手動でパラメータを入力してみてください。(詳しくは、次ページを参照してください。)



ハードディスクを手動で設定する場合は、ドライブに適した正しい値を入力する必要があります。間違ったパラメータを設定した場合、そのドライブを使用することができなくなります。

[User Type HDD]

AwardBIOS Setup Utility		
Main		
Primary Master [User Type HDD]	Item Specific Help	
Type [User Type HDD]	<p><Enter> to select the type of the IDE drive. [User Type HDD] allows you to set each entry on your own.</p> <p>WARNING: Ultra DMA mode 3/4/5 can be enabled only when BIOS detects shielded 80-pin cable.</p>	
Translation Method [LBA]		
Cylinders [1024]		
Head [255]		
Sector [63]		
CHS Capacity 8422MB		
Maximum LBA Capacity 25590MB		
Multi-Sector Transfers [Maximum]		
SMART Monitoring [Disabled]		
PIO Mode [4]		
ULTRA DMA Mode [Disabled]		
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F5 Setup Defaults		
ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ► Sub-Menu F10 Save and Exit		

シリンダ・ヘッド・セクタの値を手動で入力します。ドライブ自身に書かれている値を参照してください。



ハードディスクを実際に使用するためには、BIOSで設定を行ったあと、OSのユーティリティを用いて、FDISKでパーティションを確保し、フォーマットを行う必要があります。また、起動ドライブのパーティションを「active」に設定する必要があります。

IDEドライブを使用しない場合や、取り外した場合は、[None]を選択してください。

「Type:」項目の他のオプション:

[CD-ROM] - IDE CD-ROM ドライブ

[LS-120] - LS-120(スーパーディスク)互換ドライブ

[ZIP] - ZIP-100 互換ドライブ

[MO] - IDE光磁気ドライブ(MO)

[Other ATAPI Device] - その他のIDEドライブ

このサブメニューで設定を行ったら、<Esc>キーでメインメニューにもどります。メインメニューにもどったら、IDEドライブの項目が設定した値に変わっていることを確認してください。

TranslationMethod [LBA]

ドライブの種類を設定します。LBAモードの場合、シリンダ・ヘッド・セクタの値に関らず、28ビットアドレッシングが採用されます。504MB以上のドライブには、LBAモードが必要です。設定できる値は：[LBA] [LARGE] [Normal] [Match Partition Table] [Manual] です。

Cylinders

シリンダ値を設定します。ドライブを参照して正しい値を入力してください。注：この項目を変更するには、Type 項目が [User Type HDD] に、Translation Method 項目が [Manual] に設定されている必要があります。

Head

ヘッド値を設定します。ドライブを参照して正しい値を入力してください。注：この項目を変更するには、Type 項目が [User Type HDD] に、Translation Method項目が [Manual] に設定されている必要があります。

Sector

セクタ値を設定します。ドライブを参照して正しい値を入力してください。注：この項目を変更するには、Type 項目が [User Type HDD] に、Translation Method項目が [Manual] に設定されている必要があります。

CHS Capacity

この項目は、設定したドライブ情報をもとに、BIOSが自動で計算した最大CHS数が表示されます。表示のみで変更できません。

Maximum LBA Capacity

この項目は、設定したドライブ情報をもとに、BIOSが自動で計算した最大LBA数が表示されます。表示のみで変更できません。

Multi-Sector Transfers [Maximum]

この項目は、ドライブがサポートする最大のブロックあたりのセクタ数が自動でセットされます。これを手動で設定することもできます。自動で設定された値がドライブが最も性能を発揮する値とは限らないことに注意してください。ハードディスク付属の資料を参考にして最適な値を設定してください。設定できる値は： [Disabled] [2 Sectors] [4 Sectors] [8 Sectors] [16 Sectors] [32 Sectors] [Maximum] です。
注：この項目を変更するには、Type が、 [User Type HDD] に設定されている必要があります。

SMART Monitoring [Disabled]

S.M.A.R.T.の有効/無効を設定します。これは、Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technologyの略で、内蔵HDD診断プログラムです。リソース節約のため、通常はDisabled(無効)になっています。設定できる値は： [Disabled] [Enabled] です。

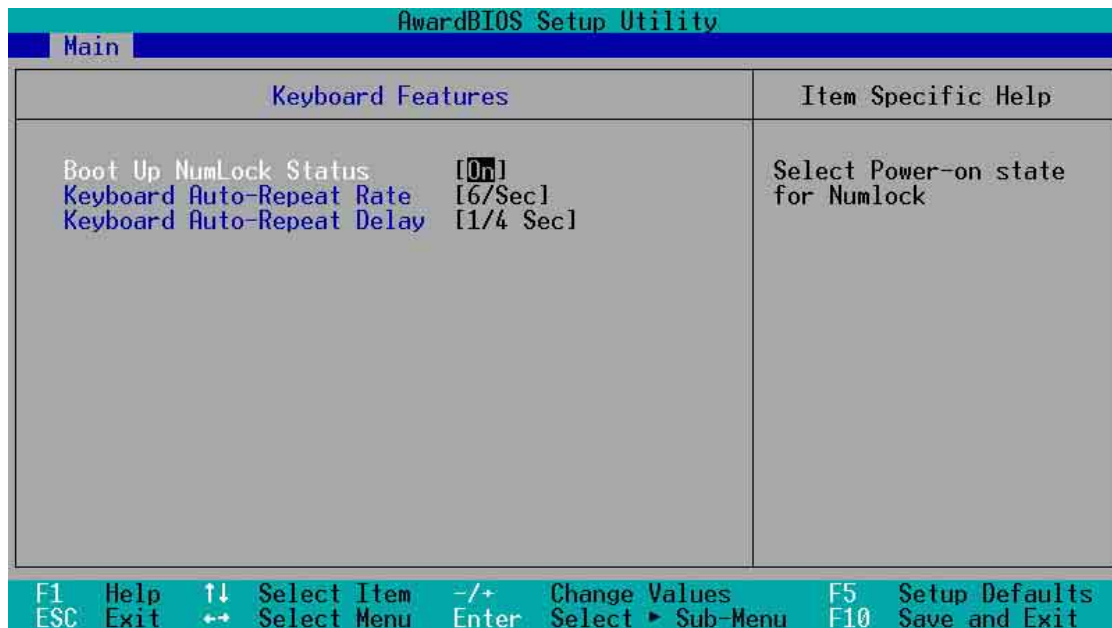
PIO Mode [4]

IDEデバイスのPIOモードの設定を行います。値が大きいほど高速です。設定できる値は： [0] [1] [2] [3] [4] です。

Ultra DMA Mode [Disabled]

Ultra DMAは、IDE完全互換のデータ転送高速化技術です。 [Disabled] に設定するとUltra DMA機能を無効にします。設定できる値は： [0] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [Disabled] です。注： この項目を変更するには、Type 項目が [User Type HDD] に設定されている必要があります。

4.3.2 Keyboard Features (キーボード)



Boot Up NumLock Status [On]

起動時のNumLockの状態を設定します。設定できる値は：[Off] [On]です。

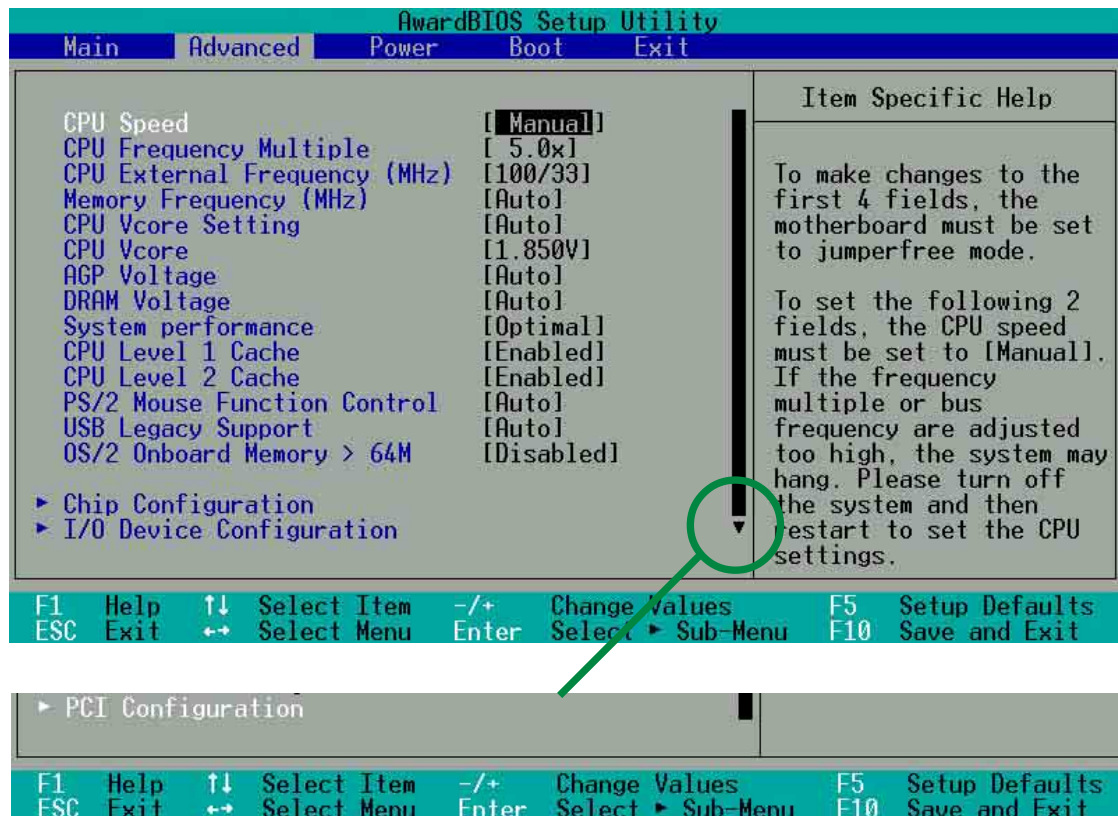
Keyboard Auto-Repeat Rate [6/Sec]

キーを押し続けた時、連続で入力される文字のスピードを設定します。設定できる値は：[6/Sec][8/Sec][10/Sec][12/Sec][15/Sec][20/Sec][24/Sec][30/Sec]です。

Keyboard Auto-Repeat Delay [1/4 Sec]

上記のオートリピートが開始されるまでの時間です。設定できる値は：[1/4 Sec][1/2 Sec][3/4 Sec][1 Sec]です。

4.4 Advanced (詳細) メニュー



CPU Speed [Manual]

JumperFree™モードの場合、CPUの内部クロックを設定することができます。以下の2項目について設定したい場合は、[Manual]に設定します。CPUの規定クロックより高い値に設定するとシステムがハングアップしたり、クラッシュする危険性があります。



メインメモリは、CPUのFSBと同じ、またはそれ以上のクロックでのみ動作します。詳しくはP.1-8の表1.4.2「FSB/DDR対応表」を参照してください。

CPU Frequency Multiple (CPU Speed が [Manual]の場合)

CPUの内部と外部クロックの倍率を設定します。CPUに適した値に設定してください。



CPU Frequency Multiple 項目は、倍率を変更できるCPUのみ有効な項目です。それ以外の場合は、この項目は変更できません。

CPU External Frequency (MHz) (CPU Speed が [Manual]の場合)
クロック発生器が PCIバスに供給するクロック周波数を設定します。CPUに
適した値に設定してください。この値を「CPU Frequency Multiple」倍し
たものがCPUの内部クロック周波数になります。

Memory Frequency (Mhz) [Auto]

メモリのクロック周波数を設定します。ポップアップメニューに表示される
内容は CPU Frequency (MHz)の設定と実装されているDDRメモリの種
類に依存します。設定できる値は : [Auto][200][266][333][400]です。

CPU VCore Setting [Auto]

[Manual]に設定すると、CPUのコア電圧を変更することができます(次項
参照)。[Auto]に設定すると自動でコア電圧が設定されます。通常は、
[Auto]に設定してください。設定できる値は : [Manual] [Auto]です。

CPU VCore [1.750V]

前項が [Manual] の場合の設定電圧です。[Auto] の場合は変更できませ
ん。CPUに適した値に設定してください。

AGP Voltage [Auto]

AGP の動作電圧を設定できます。JmpreFree モードでのみ変更できま
す。それ以外の場合は [Auto] に設定してください。設定できる値は :
[1.8V] [1.7V] [1.6V] [1.5V] [Auto] です。

DRAM Voltage [Auto]

DRAMの動作電圧を制御します。JmpreFreeモードでのみ変更することがで
きます。それ以外の場合は [Auto] に設定してください。設定できる値は :
[Auto] [2.85V] [2.75V] [2.65V] [2.55V] です。

System Performance [Optimal]

DRAM SPD のタイミングを調整します。[TURBO] に設定するとメモリ
の能力を最大限に発揮させることができます。設定できる値は : [Optimal]
[Turbo] です。

CPU Level 1 Cache, CPU Level 2 Cache [Enabled]

CPU内蔵の1次および2次キャッシュを無効にすることができます。通常は [Enabled] ですが、 [Disabled] にするとキャッシュが無効になります。設定できる値は： [Disabled] [Enabled] です。

PS/2 Mouse Function Control [Auto]

デフォルトは [Auto] で、起動時にPS/2マウスを検出します。検出されるとIRQ12が割り当てられます。検出されなかった場合はIRQ12を拡張カードのために使用できます。 [Enabled] にするとPS/2マウスが検出されなくてもIRQ12が使用されます。設定できる値は： [Enabled] [Auto] です。

USB Legacy Support [Auto]

デフォルトの [Auto] の場合、起動時にマザーボード上のUSBポートに接続されているUSB機器を自動で検出します。これが検出されるとUSBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないと無効になります。 [Disabled] に設定すると、USB機器の有無にかかわらずレガシーモードは無効になります。設定できる値は： [Disabled] [Enabled] [Auto] です。

OS/2 Onboard Memory > 64M [Disabled]

OS/2で、64MB以上のメモリを搭載している場合は [Enabled] に、それ以外は [Disabled] にします。設定できる値は： [Disabled] [Enabled] です。

4.4.1 Chip Configuration

AwardBIOS Setup Utility		
Advanced		
Chip Configuration	Item Specific Help	
SDRAM Configuration	[By SPD]	<Enter> to select SDRAM configuration. [By SPD] is recommended. [User Defined] allows you to set each configuration on your own.
SDRAM CAS Latency	[2.5T(DDR)]	
SDRAM RAS to CAS Delay	[3T]	
SDRAM RAS Precharge Delay	[3T]	
SDRAM Active Precharge Delay	[6T]	
SDRAM 1T Command Control	[Auto]	
SDRAM Bank Interleave	[Auto]	
Graphics Aperture Size	[64MB]	
AGP Capability	[Auto]	
AGP Drive Strength	[Auto]	
AGP Drive N Control	[E]	
AGP Drive P Control	[F]	
AGP performance control	[Disabled]	
AGP Fast Write Control	[Disabled]	
Video Memory Cache Mode	[UC]	

F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F5 Setup Defaults
ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

SDRAM Configuration [By SPD]

実装されているDDRメモリの最適なタイミングを設定します。デフォルトは [By SPD]で、SPD (Serial Presence Detect)内の値により、以下の4項目の値が決まります。メモリモジュール内のEEPROMに書き込まれているメモリの種類・サイズや速度・電圧・バンク値などの臨界値に従って最適なタイミングが設定されます。設定できる値は：[User Defined] [By SPD]です。



以下の4項目(2~5)は、SDRAM Configuration が [User Defined] の時に有効です。

SDRAM CAS Latency (SDRAM SPDの値による)

CAS遅延(CL)：メモリにアドレスを与えてから、実際に読み取りを行えるまでの時間です。設定できる値は：[1.5T] [2T] [2.5T] です。

SDRAM RAS to CAS Delay (SDRAM SPDの値による)

RAS-CAS遅延時間 (t_{RCD})：行アドレスを与えてから列アドレスを与えるまでの時間です。設定できる値は：[2T] [3T] です。

SDRAM RAS Precharge Delay (SDRAM SPDの値による)

プリチャージコマンドが発行されたあとのアイドル時間です。設定できる値は：[2T] [3T] です。

SDRAM Active Precharge Delay (SDRAM SPDの値による)

DDR SDRAMパラメータ用の DDR SDRAMクロックを設定します。設定できる値は : [5T] [6T] [7T] [8T] です。

SDRAM 1T Command Control

設定できる値は : [Disabled] [Enabled] [Auto] です。

SDRAM Bank Interleave

設定できる値は : [Disabled] [2 Bank] [4 Bank] [Auto] です。

Graphics Aperture Size [64MB]

AGPがテキストチャマッピングのためにメインメモリを使用する容量です。設定できる値は : [4MB] [8MB] [16MB] [32MB] [64MB] [128MB] [256MB] [512MB] [1024MB] です。



[1024MB] および [512MB] は AGP 8X グラフィックスカードを用いている場合にのみ設定できます。

AGP Capability [8X Mode]

マザーボード上のAGPモードを設定します。AGP 8X モードの場合、最大データ転送速度は 2.12GB/秒です。AGP 8X は上位互換性がありますので、AGP 4X以下のグラフィックスカードを用いる場合でも、デフォルトの[8X Mode]で問題ありません。[1X Mode]に設定するとAGP 8Xグラフィックスカードを用いてもデータ転送速度は 266MB/秒になります。設定できる値は : [Auto] [1X Mode] [2X Mode] [4X Mode] [8X Mode] です。

AGP Drive Strength [Auto]

設定できる値は : [Auto] [Manual] です。

AGP Drive N Control [E]

設定できる値は : [0][1][2][3][4][5][6][7][8][9][A][B][C][D][E][F]です。

AGP Drive P Control [F]

設定できる値は : [0][1][2][3][4][5][6][7][8][9][A][B][C][D][E][F]です。

AGP performance control [Disabled]

設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。

AGP Fast Write control [Disabled]

設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。

Video Memory Cache Mode [UC]

USWC (Uncacheable, Speculative Write Combining) は、ビデオメモリのための新しいキャッシュ技術です。描画データをキャッシュすることにより表示速度を飛躍的に向上させます。この機能に対応していないビデオカードを用いる場合は UC (UnCacheable) にセットしてください。コンピュータが起動しなくなる場合があります。設定できる値は：[UC] [USWC] です。

Memory Hole At 15M-16M	[Disabled]
Delayed Transaction	[Disabled]
Onboard PCI IDE	[Both]
DRAM Burst Length	[4]
S2K Bus Driving Strength	[Auto]
S2K Strobe P Control	[2]
S2K Strobe N Control	[3]

F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F5 Setup Defaults
ESC Exit	+→ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

Memory Hole At 15M-16M [Disabled]

ISA機器が使用するメモリアドレスを予約します。システムが使用できないメモリ空間をリザーブし、拡張カードのみが16MBまでのアドレスを使用できるようになります。設定できる値は：[Disabled] [Enabled] です。

Delayed Transaction [Disabled]

デフォルトのままにしておいてください。[Enabled] に設定すると、8ビットISAデバイス(これは、PCI遅延処理なしに50~60 PCIクロックを消費します)にアクセスした時に、PCIバスを開放します。ISAバスのために [Disabled] を選ぶと、PCI 2.1互換性がなくなります。設定できる値は：[Enabled] [Disabled] です。

Onboard PCI IDE [Both]

オンボードの IDEコントローラを設定します。プライマリ、セカンダリ、または両方を有効/無効に設定できます。設定できる値は：[Both] [Primary] [Secondary] [Disabled] です。

DRAM Burst Length

設定できる値は：[4] [Auto] です。

S2K Bus Driving Strength

設定できる値は：[Auto] [Manual] です。

S2K Strobe P Control

設定できる値は：[0][1][2][3][4][5][6][7][8][9][A][B][C][D][E][F] です。

S2K Strobe N Control

設定できる値は：[0][1][2][3][4][5][6][7][8][9][A][B][C][D][E][F] です。

4.4.2 I/O Device Configuration

AwardBIOS Setup Utility			
Advanced			
I/O Device Configuration		Item Specific Help	
Onboard FDC Swap A & B Floppy Disk Access Control	[No Swap] [R/W]	<Enter> to select whether or not to switch drive letter assignments.	
Onboard Serial Port 1	[3F8H/IRQ4]		
Onboard Serial Port 2	[2F8H/IRQ3]		
UART2 Use As	[COM Port]		
Onboard Parallel Port	[378H/IRQ7]		
Parallel Port Mode	[ECP+EPP]		
ECP DMA Select	[3]		
Onboard AC97 Audio Controller	[Auto]		
Onboard Game Port	[200H-207H]		
Onboard MIDI I/O	[Disabled]		
Speech POST Reporter	[Enabled]		
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F5 Setup Defaults			
ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit			

Onboard FDC Swap A & B

フロッピーディスクドライブのドライブレターを物理的に入れ換えます。設定できる値は：[No Swap] [Swap AB]です。

Floppy Disk Access Control [R/W]

[Read Only] に設定するとフロッピーにライトプロテクトがかかり、書き込み禁止になります。デフォルト値は [R/W] で読み書き可能です。設定できる値は：[R/W] [Read Only]です。

Onboard Serial Port 1 [3F8H/IRQ4]

Onboard Serial Port 2 [2F8H/IRQ3]

オンボードのシリアルポートのIRQとI/Oアドレスを設定します。シリアルポートの1と2は、それぞれ別の値に設定しなければいけません。設定できる値は：[3F8H/IRQ4] [2F8H/IRQ3] [3E8H/IRQ4] [2E8H/IRQ10] [Disabled]です。

UART2 Use As [COM Port]

オンボードのUART2に割り当てるデバイスを指定します。設定できる値は：[COM Port] [IR] [Smart Card Reader] です。

Onboard Parallel Port [378H/IRQ7]

オンボードの平行ポートのIRQとI/Oアドレスを指定します。
[Disabled]にすると、以下のParallel Port Mode とECP DMA Select
設定も無効になります。設定できる値は : [Disabled] [378H/IRQ7]
[278H/IRQ5]です。

Parallel Port Mode [ECP+EPP]

平行ポートの動作モードを設定します。[Normal]は一方向の通常の速
度の通信、[EPP]は双方向通信、[ECP] は双方向でDMAモード、
[ECP+EPP]は双方向で通常の設定に設定します。設定できる値は :
[Normal] [EPP] [ECP] [ECP+EPP]です。

ECP DMA Select [3]

ECPモードで、平行ポートが使用するDMAチャンネルを指定します。
Parallel Port Modeで[ECP]または[ECP+EPP]を選択した場合のみ有効
です。設定できる値は : [1] [3] です。

Onboard AC97 Audio Controller [Auto]

オンボードの AC'97音源の有効/無効を切り替えます。設定できる値は :
[Auto] [Disabled] です。

Onboard Game Port [200H-207H]

GAMEポートの I/Oアドレスを指定します。他のポートと重複しない値に
設定してください。設定できる値は : [200H/207H] [208H-20FH]
[Disabled] です。

Onboard MIDI I/O [Disabled]

MIDI ポートの I/Oアドレスを指定します。他のポートと重複しない値に設
定してください。設定できる値は : [330H-331H] [300H-301H]
[Disabled] です。

Speech POST Reporter [Enabled]

ASUS POST Reporter™ の設定です。これを利用する場合は、
[Enabled]に設定します。詳しくは「3.2 POST 音声メッセージ」をご覧
ください。設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。



POST Reporter™ を有効にすると起動時のビープ音は無効になりま
す。

4.4.3 PCI Configuration

AwardBIOS Setup Utility	
Advanced	
PCI Configuration	Item Specific Help
Slot 1/5 IRQ [Auto]	<Enter> to select an IRQ.
Slot 2/6 IRQ [Auto]	
Slot 3 IRQ [Auto]	
Slot 4 IRQ [Auto]	
PCI/VGA Palette Snoop [Disabled]	
PCI Latency Timer [32]	
USB Function [Enabled]	
Primary VGA BIOS [PCI VGA Card]	
Onboard LAN Boot ROM [Disabled]	
▶ PCI IRQ Resource Exclusion Onboard ATA device First [No]	

F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F5 Setup Defaults
ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Slot 1/5, Slot 2, Slot 3, Slot 4, Slot 6 IRQ [Auto]

IRQをどのようにPCIスロットに割り当てるかを設定します。デフォルトは [Auto]で、IRQは自動で割り当てられます。設定できる値は : [Auto] [NA] [3] [4] [5] [7] [9] [10] [11] [12] [14] [15]です。

PCI/VGA Palette Snoop [Disabled]

MPEGビデオカードのような非標準のVGAカードでは、適切に色を再現できません。この項目を [Enabled]にすると、この問題を解決できます。それ以外は [Disabled]に設定します。設定できる値は : [Disabled] [Enabled]です。

PCI Latency Timer [32]

性能と安定性のため、デフォルトの [32]のままにしておいてください。(値を小さくすると性能重視、大きくすると安定性重視になります。)

USB Function [Enabled]

マザーボード上の Universal Serial Bus (USB) コントローラを設定します。USBデバイスを用いる場合は [Enabled] に設定します。USB機器を用いない場合は [Disabled] にします。設定できる値は : [Disabled] [Enabled]です。

Primary VGA BIOS [PCI VGA Card]

プライマリグラフィックスカードを選択します。設定できる値は : [PCI VGA Card] [AGP VGA Card] です。

Onboard LAN Boot ROM

オンボードの LAN Boot ROM の有効/無効を切り替えます。設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。

Onboard ATA device First [No]

オンボードの ATAを優先するかどうかを設定します。設定できる値は : [No] [Yes] です。

4.4.3.1 PCI IRQ Resource Exclusion

AwardBIOS Setup Utility			
Advanced			
PCI IRQ Resource Exclusion			Item Specific Help
IRQ	3	Reserved [No/ICU]	Select [Yes] if this IRQ is required by a legacy ISA card and you are not using ICU; otherwise, select [No/ICU].
IRQ	4	Reserved [No/ICU]	
IRQ	5	Reserved [No/ICU]	
IRQ	7	Reserved [No/ICU]	
IRQ	9	Reserved [No/ICU]	
IRQ	10	Reserved [No/ICU]	
IRQ	11	Reserved [No/ICU]	
IRQ	12	Reserved [No/ICU]	
IRQ	14	Reserved [No/ICU]	
IRQ	15	Reserved [No/ICU]	

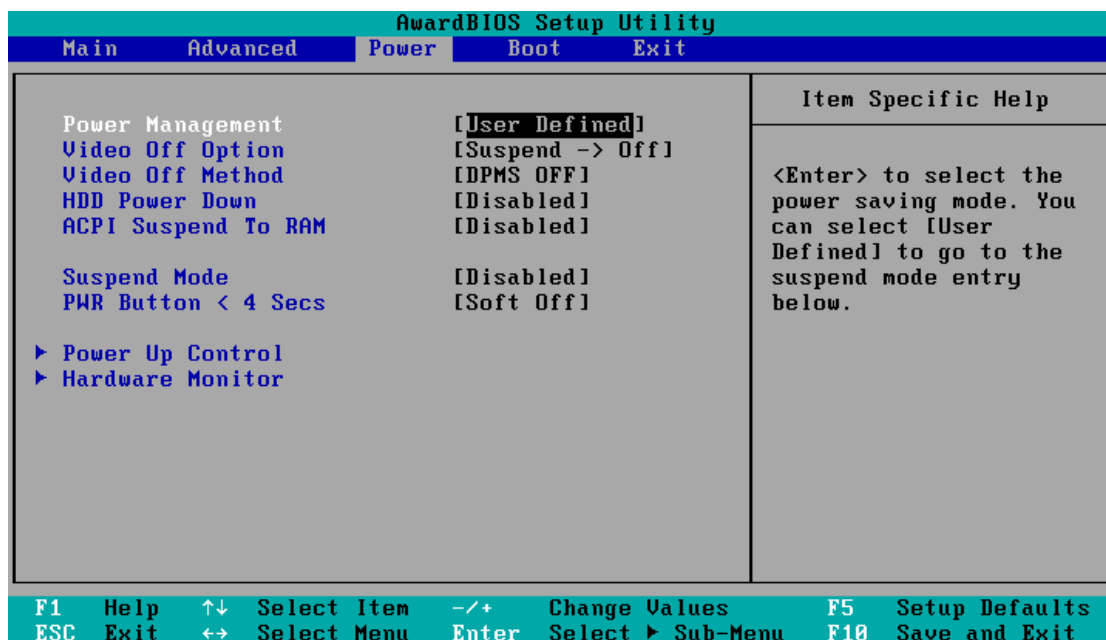
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F5 Setup Defaults
ESC Exit ↔ Select Menu Enter Select ► Sub-Menu F10 Save and Exit

IRQ XX Reserved [No/ICU]

表示されているIRQの値がオンボードのレガシー(非PnP)ISAデバイスで使用されることを示します。デフォルトでは、IRQは使用しない、またはICU (ISA Configuration Utility)が自動で割り当てる、となっています。設定できる値は : [No/ICU] [Yes]です。

4.5 Power (電源管理) メニュー

Powerメニューは、省電力のための設定です。一定時間使われていないディスプレイやハードディスクの電源を自動でオフにします。



Power Management [User Defined]

以下の省電力設定を使う場合に有効にします。[Disabled]にすると他の項目の設定に関らず省電力機能は働きません。[User Define]で独自の設定ができます。[Max Saving]にすると最大に節電できます。Suspend Mode欄は、最大に節電できるようにあらかじめ設定されています。

この項目は節電機能の総合的な設定です。[Max Saving]では少しの時間で節電モードに入ります。[Min Saving]は、[Max Saving]と同じ内容で節電しますが、節電モードに入るまでの時間が長くなります。[Disabled]は節電機能を無効にします。[User Define]は、各項目をユーザーがカスタマイズできます。設定できる値は：[User Define] [Disabled] [Min Saving] [Max Saving]です。

Video Off Option [Suspend -> Off]

ビデオ信号を自動でオフにするかしないかを設定します。設定できる値は：[Always On] [Suspend -> Off]です。

Video Off Method [DPMS OFF]

ビデオ信号オフの内容を設定します。DPMS (Display Power Management System : ディスプレイ電源管理システム)は、DPMS対応のディスプレイをBIOSがコントロールします。[Blank Screen] は節電機能に対応していないディスプレイに使用します。



この場合、スクリーンセーバーに「模様なし」を選択します。スクリーンセーバーが働くとディスプレイは節電モードに入ります。

[V/H SYNC+Blank]は、さらに垂直水平同期信号もオフにします。設定できる値は : [Blank Screen] [V/H SYNC+Blank] [DPMS Standby] [DPMS Suspend] [DPMS OFF] [DPMS Reduce ON]です。

HDD Power Down [Disabled]

この項目の時間だけ、オンボードの IDEコネクタに接続されたハードディスクがアクセスされなかった場合、ハードディスクの回転を停止させます。SCSIハードディスクや追加の IDEコントローラに接続されたハードディスクには影響ありません。設定できる値は : [Disabled] [1 Min] [2 Min] [3 Min]...[15 Min]です。

ACPI Suspend To RAM [Disabled]

ACPI RAMサスペンド(STR)という節電機能です。ATX電源の+5VSBに最低720mAの容量が必要です。設定できる値は : [Disabled] [Enabled]です。

Suspend Mode [Disabled]

サスペンドモードに移行するまでの時間を設定します。設定できる値は : [Disabled] [1~2 Min] [2~3 Min] [4~5 min] [8~9 Min] [20 Min] [30 Min] [40 Min] です。

PWR Button < 4 Secs [Soft Off]

[Soft off]に設定すると、ATX電源スイッチは、4秒以下押された時、通常の電源オフボタンとして働きます。[Suspend]の場合は、4秒以下押された場合、スリープモードに移行します。どちらの場合でも、4秒以上押した場合は、電源オフになります。設定できる値は : [Soft off] [Suspend]です。

4.5.1 Power Up Control

AwardBIOS Setup Utility			
Power			
Power Up Control		Item Specific Help	
AC Power Loss Restart	[Disabled]	<Enter> to select whether or not to restart the system after AC power loss.	
Wake/Power Up On External Modem	[Disabled]		
Wake/Power Up By PS/2 Keyboard	[Disabled]		
Wake/Power Up By PS/2 Mouse	[Disabled]		
Power Up On PCI Card	[Disabled]		
Automatic Power Up	[Disabled]		
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F5 Setup Defaults
ESC Exit	↔ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

AC PWR Loss Restart [Disabled]

AC電源が一旦切れて復旧した場合、システムをどうするかを設定します。[Disabled]の場合はオフのままです。[Enabled]の場合は必ず再起動します。[Previous State]の場合はAC電源が切れる前の状態に従います。[Enabled]の場合、ATXの元電源を入れただけでコンピュータが起動します。設定できる値は：[Disabled] [Enabled] [Previous State]です。

Wake/Power Up On Ext. Modem [Disabled]

コンピュータがソフトオフの時、外付けモデム着信で起動するかどうか設定します。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。



コンピュータが起動を完了するまで、データ受信はできません。従って最初のコールでは、接続できません。また、コンピュータがオフの時、外付けモデムの電源を入れなおすと、モデムから初期化信号が入り、これによってもコンピュータが起動してしまいます。

Wake/Power Up By PS/2 Keyboard [Space Bar]

キーボードを用いてコンピュータの電源を入れたい場合、どのキーを使うかを設定します。ATX電源の+5VSBに最低1 Aの容量が必要です。設定できる値は：[Disabled] [Space Bar] [Ctrl-Esc] [Power Key] です。

Wake/Power Up By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled] に設定すると PS/2マウスを用いてコンピュータの電源を入れることができます。ATX電源の+5VSBに最低1 Aの容量が必要です。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

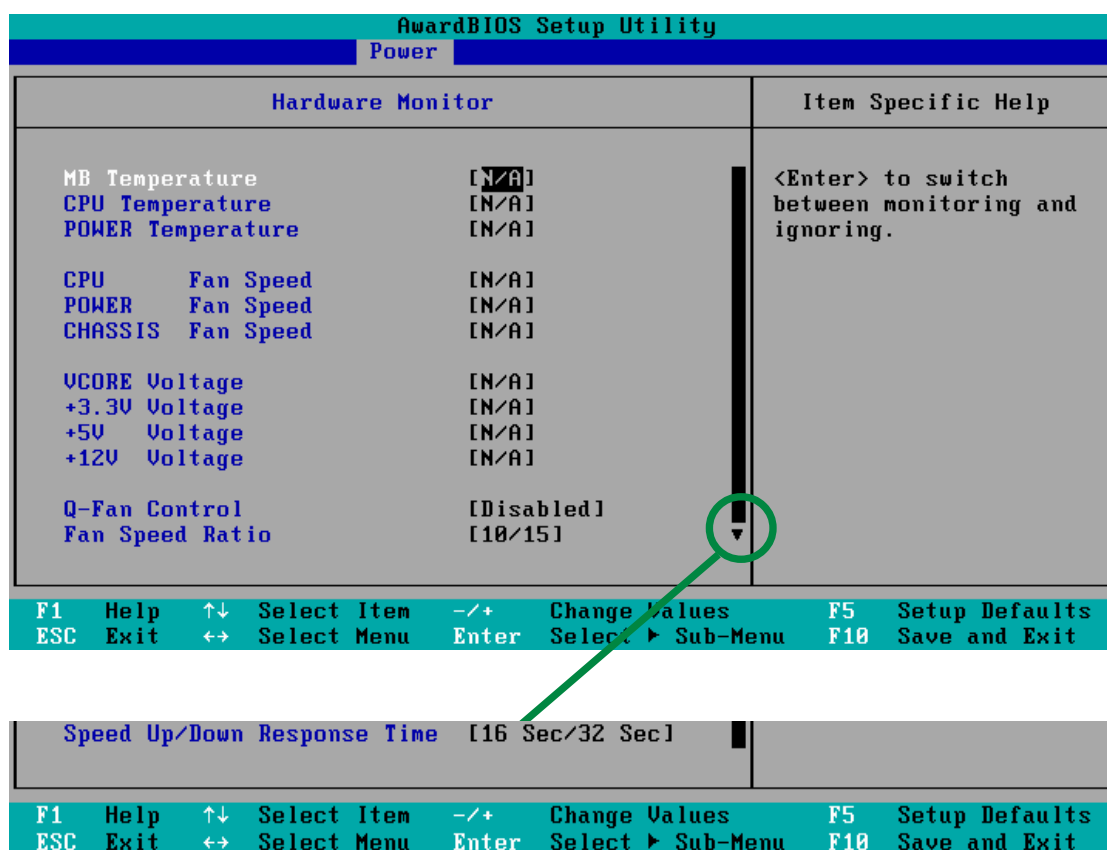
Power Up On PCI Card [Disabled]

[Enabled] に設定すると PCI LANカードまたは PCI モデムカードを用いてコンピュータの電源を入れることができます。ATX電源の+5VSBに最低1 Aの容量が必要です。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

Automatic Power Up [Disabled]

コンピュータを無人状態で自動起動します。[Everyday]で毎日の決まった時間に、[By Date]で決まった日付の決まった時間に起動できます。設定できる値は：[Disabled] [Everyday] [By Date]です。

4.5.2 Hardware Monitor (ハードウェアモニタ)



MB Temperature [xxxC/xxxF]

CPU Temperature [xxxC/xxxF]

POWER Temperature [N/A]

マザーボード(MB)、CPUの温度を自動で検出して表示します。

温度センサ付きの電源をお使いの場合は、その2ピンのコネクタをマザーボードの TRPWR1 コネクタに接続します(P.2-23参照)。センサを接続しない場合は、POWER項目は、N/Aと表示されます。各項目を無視する必要がある場合にのみ、[Ignore]に設定してください。

CPU Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

Chassis Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

Power Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

CPU、電源、ケースの冷却ファンの毎分あたりの回転数をRPMで表示します。ファンが接続されているかどうかは自動で検出されます。接続されていない場合は N/A と表示します。

VCORE Voltage, +3.3V Voltage, +5V Voltage, +12V Voltage
マザーボードのレギュレータが発生する各電圧をモニターします。

Q-Fan Control [Disabled]

ASUS Q-Fan はシステムの状態に応じて、ファンの回転数を制御する機能です。[Enabled] に設定すると、Fan Speed Ratio および Speed Up/Down Response Time 項目が有効になりますので、必要な値を設定してください。設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。

FanSpeedRatio [10/15]

ファンの回転数を下げる場合の比率を決めます。デフォルトの [10/15] は最も低い比率です。これより高く設定すると冷却能力は上がりますが、騒音や振動は増加することになります。この項目は Q-Fan Control が [Enabled] の場合に有効です。設定できる値は : [10/15][11/15][12/15][13/15][14/15] [Full Speed] です。

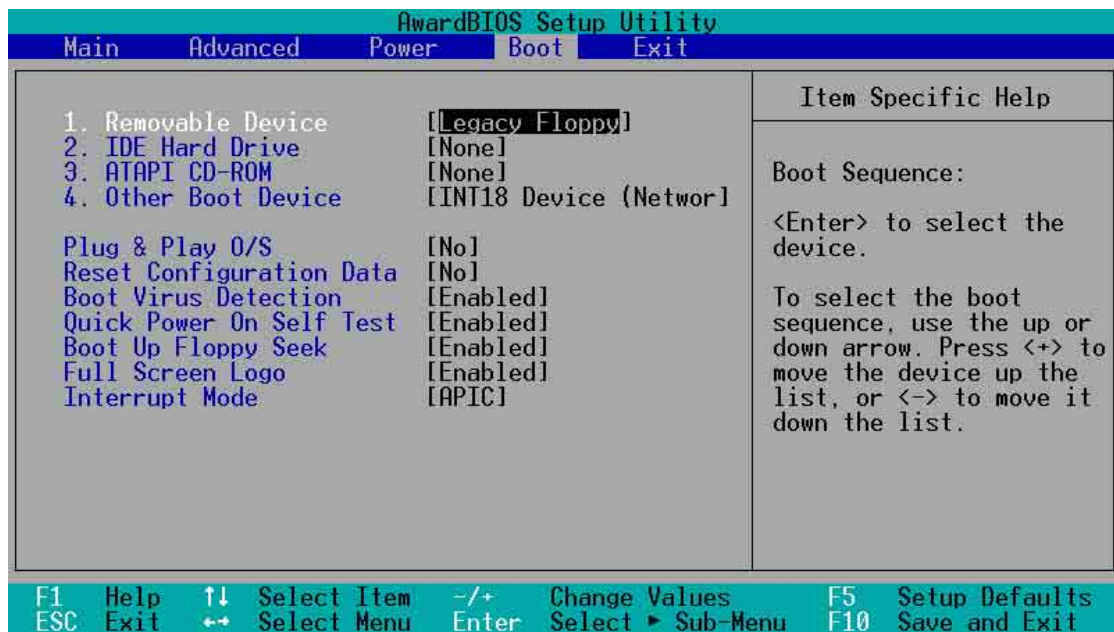
Speed Up/Down Response Time [16 Sec/32Sec]

Fan Speed Ratio 項目で設定した値にファンの回転数を下げる場合の応答時間を設定します。この項目は Q-Fan Control が [Enabled] の場合に有効です。設定できる値は : [16 Sec/32 Sec] [32 Sec/64 Sec] [48 Sec/96 Sec] [64 Sec/128 Sec] です。



各項目において、値が上下限を越えた場合は「*Monitor found an error. Enter Power setup menu for details*」というエラーメッセージが表示されます。<F1>キーで続行、キーでBIOSセットアップ画面になります。

4.6 Boot (起動)メニュー



Boot Sequence

4種類の起動デバイスを選択できます。上下矢印キーで選択します。<+>または<Space>で1つ上へ、<->で1つ下に移動できます。上に表示されているデバイスから順番に起動可能かをチェックしていき、起動可能であればそのデバイスから起動します。項目としては、Removable Devices、IDE Hard Drive、ATAPI CD-ROM、Other Boot Deviceがあります。

Removable Device [Legacy Floppy]

リムーバブルデバイスの選択です。設定できる値は：[Disabled] [Legacy Floppy] [LS-120] [ZIP] [ATAPI/MO] [USB FDD] [USB ZIP] です。

IDE Hard Drive

ブートさせるIDEハードディスクを選択します。[Enter]キーを押すと接続されているドライブ名が表示されます。

ATAPI CD-ROM

ブートさせるATAPI CD-ROMドライブを選択します。[Enter]キーを押すと接続されているATAPI CD-ROMドライブ名が表示されます。

Other Boot Device Select [INT18 Device (Network)]

その他のデバイスです。設定できる値は：[Disabled] [SCSI Boot Device] [INT18 Device (Network)]です。

Plug & Play O/S [No]

プラグアンドプレイ(PnP)対応OSがBIOSに代わってPCIバスを設定できるようになります。[Yes]に設定すると、OSがIRQを割り当てるようになります。PnP非対応OSや、OSによるIRQの再割り当てを行わない場合は[No]に設定します。設定できる値は：[No] [Yes]です。

Reset Configuration Data [No]

ESCD(拡張システム設定データ)は、PnP非対応ISAデバイスの情報を持っています。また、最後に起動した時のシステムの設定情報も保持しています。POST(起動時の自己診断)中にこのデータを破棄させたい場合にのみ、[Yes]を選択してください。設定できる値は：[No] [Yes]です。

Boot Virus Detection [Enabled]

ブートセクタに感染するウィルスの検出を行います。ウィルスが検出されるとシステムは停止し、警告メッセージが表示されます。そのまま続行するか、ウィルス除去を行うか決めます。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

Quick Power On Self Test [Enabled]

[Enabled]にすると、起動時の自己診断(POST)を簡単にします。例えば、メモリチェックを通常4回行うところが1回になり起動時間を短縮できます。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

Boot Up Floppy Seek [Enabled]

[Enabled]にすると、起動時に、フロッピーディスクが40トラックか80トラックかを検出します。80トラックのFDのみを用いる場合は、[Disabled]に設定すると起動時間を短縮できます。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。

Full Screen Logo [Enabled]

[Enabled]に設定すると起動時にマザーボード固有の画像を表示します。設定できる値は：[Disabled] [Enabled]です。



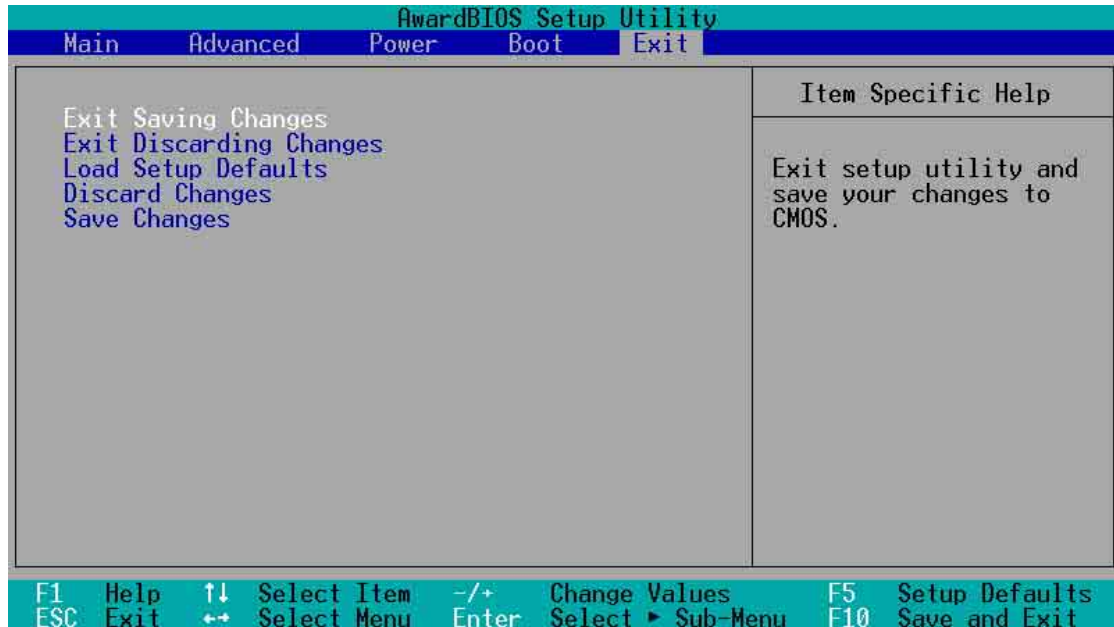
ASUS MyLogo2™ をお使いになる場合は、[Enabled] に設定してください。

Interrupt Mode [APIC]

APICは、Advanced Programmable Interrupt Controllerの略で、IRQを16個以上に拡張する機能です。PICは、Programmable Interrupt Controllerの略で、従来の16個のIRQをそのまま用います。APICはWindows 2000 および XP でサポートされています。設定できる値は：[PIC] [APIC]です。

4.7 Exit (終了) メニュー

BIOSの各項目を設定したら、それを保存して終了する必要があります。メニューバーでExitを選ぶと以下のメニューが表示されます。



<Esc>では、このメニューから抜けることはできません。いずれかの項目を選択するか<F10>で終了させます。

Exit Saving Changes

各項目で設定した値をCMOSメモリに書き込み終了する場合は、このメニューを選択します。このメモリはバッテリーバックアップされているので、コンピュータの電源を切ってもその内容は保存されています。確認メッセージが表示されますので、[Yes]を選んで保存終了します。



設定変更を保存せずにBIOSセットアップを終了しようとした場合も確認メッセージが出ますので、保存する場合は <Enter>を押して設定変更を保存します。

Exit Discarding Changes

設定変更を保存せずに終了する場合は、このメニューを選んでください。システムの日付・時刻、パスワードの変更以外の場合、確認メッセージが表示されます。

Load Setup Defaults

これは、各設定項目について、そのデフォルト(既定)値を読み込むものです。<F5>キーを押した場合も同様です。確認メッセージが出ますので、デフォルト値にもどりたい場合は、[Yes]を選択します。このあと、Exit Saving Changes で終了したり、改めて変更を加えて保存終了したりできます。

Discard Changes

今回の設定変更を破棄し、変更前の値にもどします。確認メッセージが出ますので、前回の設定値にもどす場合、[Yes]を選択します。

Save Changes

終了せずに、変更値の保存のみを行います。続けて、BIOSセットアップの作業を行うことができます。確認メッセージが出ますので、ここで設定を保存する場合、[Yes]を選択します。

第5章

OSのインストール、サポートCDのドライバとユーティリティのインストールについて説明します。また、付属アプリケーションの使用方法について解説します。

サポートソフトウェア

本章の内容

5.1 OSのインストール	5-1
5.2 サポートCD情報	5-1
5.3 ソフトウェア情報	5-9
5.4 RAID 0/RAID 1 の設定	5-26
5.5 IDE/RAIDドライバの手動インストール	5-34

5.1 OSのインストール

本マザーボードは Windows 98/ME/NT/2000/XP 対応しています。ハードウェアの最新機能を利用するには、各OSは最新バージョンのものをういてください。



マザーボードの設定やオプション、拡張カードには様々な種類があります。次章からの説明は一般的な例で、お使いのシステムと異なる場合があります。

5.2 サポートCDについて

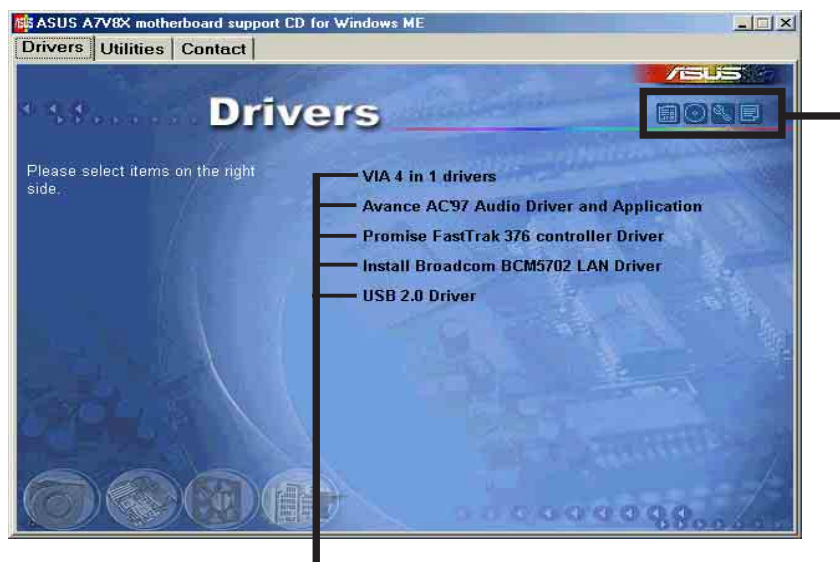
添付のサポートCDには、本マザーボードに必要なドライバ、ソフトウェアおよびユーティリティが含まれています。OSのインストール後に必ずインストールしてください。



サポートCDの内容は、予告なしに変更される場合があります。最新情報についてはASUSのWEBサイトをご覧ください。

5.2.1 サポートCDの起動方法

サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにCDを挿入します。インストールメニューが自動起動します。



このアイコンをクリックすると各サブメニューが表示されます。

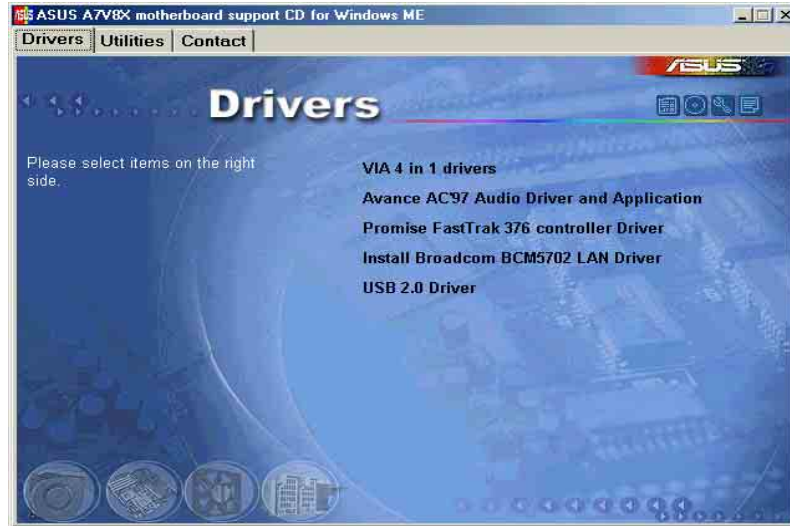
このボタンをクリックするとオプション画面が表示されます。



メニューが起動しない場合は、BINフォルダ内の ASSETUP.EXE を実行してください。

5.2.2 ドライバメニュー

マザーボードに搭載されているデバイス用のドライバです。各デバイスの機能を有効にするために必要です。



VIA 4 in 1 drivers

以下のドライバをインストールします。

- VIA Registry (INF) ドライバ
- VIA AGP VxD ドライバ
- VIA ATAPI ベンダーサポートドライバ
- VIA PCI IRQ Miniport ドライバ。

Avance AC'97 Audio Driver Application

Avance AC'97 準拠オーディオコントローラとアプリケーションです。

Promise FastTrak 376 Controller Driver

Serial ATA および RAID用の Promise FastTrak 376 コントローラドライバの詳細なインストール情報を表示します。

BroadCom 5702 LAN Drivers or BroadCom 4401 LAN Drivers

Gigabit モデルでは、1000Mbps Gigabit LAN 用のBroadCom^(R) BCM5702 LAN ドライバをインストールします。

Fast Ethernet モデルでは、10BASE-T/100BASE-TXネットワーク用のBroadCom^(R) BCM4401 ドライバをインストールします。

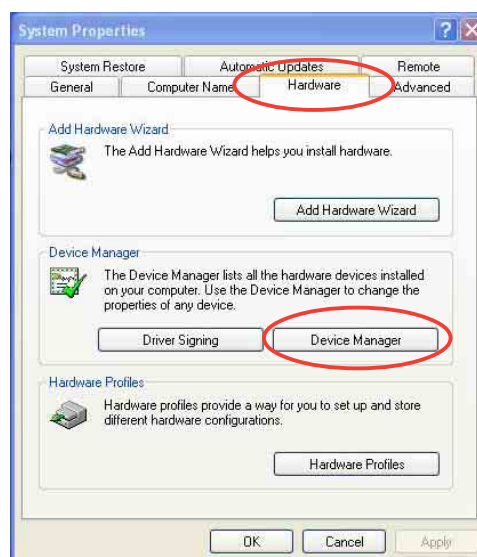
BCM4401 コントローラドライバをインストールすると、デフォルトで S1, S3 および S4スリープモードから復帰できる Wake Up Frame, に設定されています。S5 モード(シャットダウンモード)から復帰させたい場合は、Wake-On-LAN 設定を Magic Frame.に変更する必要があります。

Wake-On-LAN 設定の調整方法:

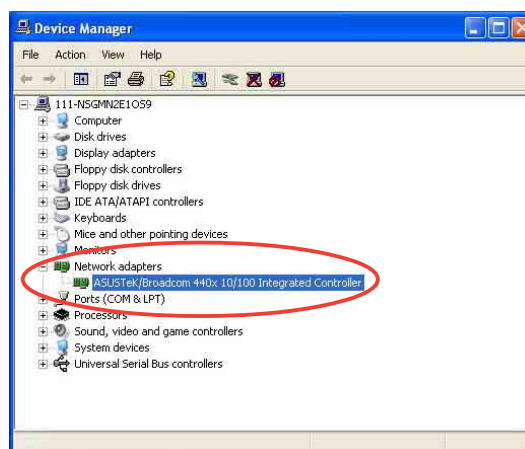
1. マイコンピュータを右クリックし、プロパティを選択し、システムのプロパティを表示します。



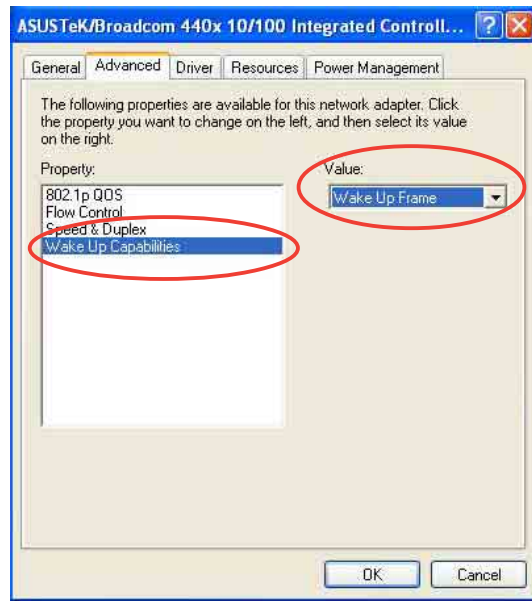
2. システムのプロパティで、ハードウェアタブを選択し、デバイスマネージャのデバイスマネージャボタンをクリックします。



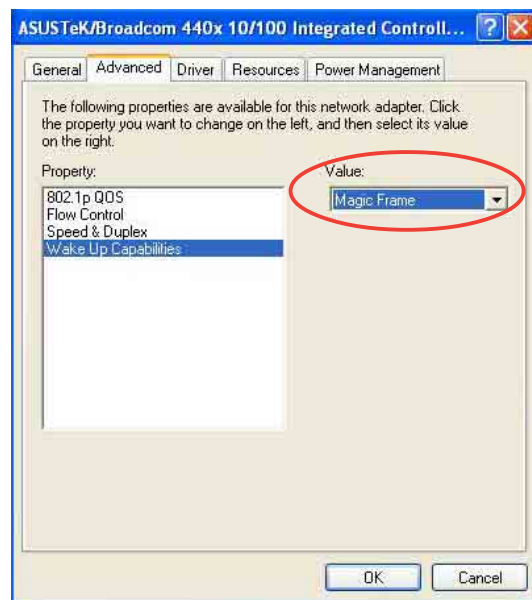
3. デバイスマネージャで、ネットワークアダプタの左側にある (+) 印をクリックし、ASUSTeK/BroadCom 440x 10/100 Integrated Controller.を表示させ、これをクリックします。



4. プロパティの Wake Up Capabilities をクリックします。デフォルトでは Wake Up Frame.に設定されています。これはS1, S3 および S4スリープモードから復帰できるモードです。



5. 右側の矢印をクリックし Magic Frame.に設定して、OK.をクリックします。これはS1, S3, S4 および S5スリープモードから復帰できるモードです。



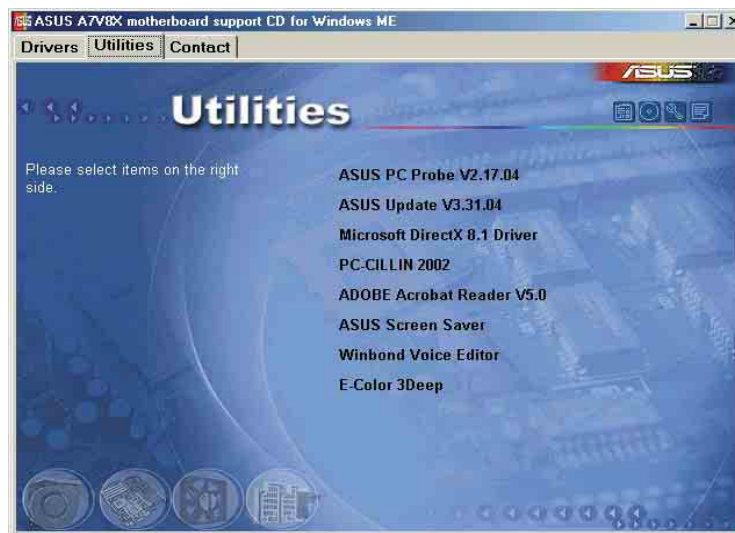
BCM4401 LAN コントローラがオンボードに搭載されていない場合は、Wake-On-LAN機能はDOSモードで動作しません。

USB 2.0 Driver

USB 1.1 ポートを USB 2.0 にアップデートするためのドライバです。

5.2.3 ユーティリティメニュー

マザーボードのサポートユーティリティに関するメニューです。強調表示されている項目が、本マザーボードで有効なユーティリティです。各項目をクリックするとインストールウィザードが開始されます。



ASUS PC Probe

コンピュータのファン回転数・温度・電圧などのハードウェア情報をモニターすることができるユーティリティです。システムの監視に役立ちます。

ASUS Update

最新バージョンのBIOSをWEBサイトから自動でダウンロードするユーティリティです。



ASUS Update を使用するには、あらかじめインターネットに接続しておく必要があります。

Microsoft Direct X 8.0 Driver

Microsoft V8.0 ドライバです。

PC-cillin 2002

PC-cillin 2002 アンチウィルスソフトウェアをインストールします。詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

Adobe Acrobat Reader

PDF形式のマニュアルを見るために必要な Adobe Acrobat Reader をインストールします。

ASUS Screen Saver

ASUS特製スクリーンセーバーをインストールします。

Promise Array Management Utility

FastTrak Mirrored (RAID 1) または Striped/Mirrored (RAID 0/1) でモニタリングおよびメンテナンスを行う RAIDユーティリティです。

Winbond Voice Editor

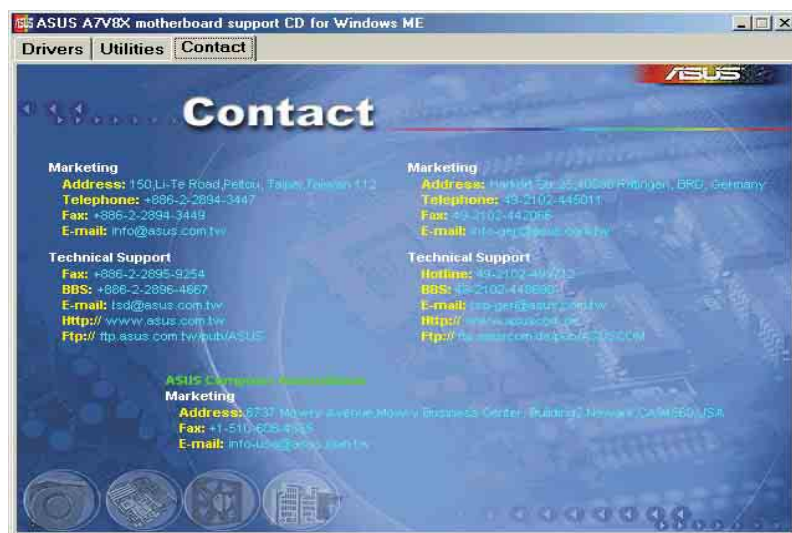
ASUS POST Reporter™ 用の WAVEファイルを記録・編集するユーティリティです。POST音声メッセージを編集する場合に使います。詳しくは「3.2 POST音声メッセージ」をご覧ください。

E-Color 3Deep

3Deep ソフトウェアをインストールします。マルチ対戦型オンラインゲームの画面のノイズを除去しクリアな画像を得ることができます。

5.2.4 ASUS サポート情報

ASUSのサポート情報です。本書にあるサポート情報とあわせてご利用ください。

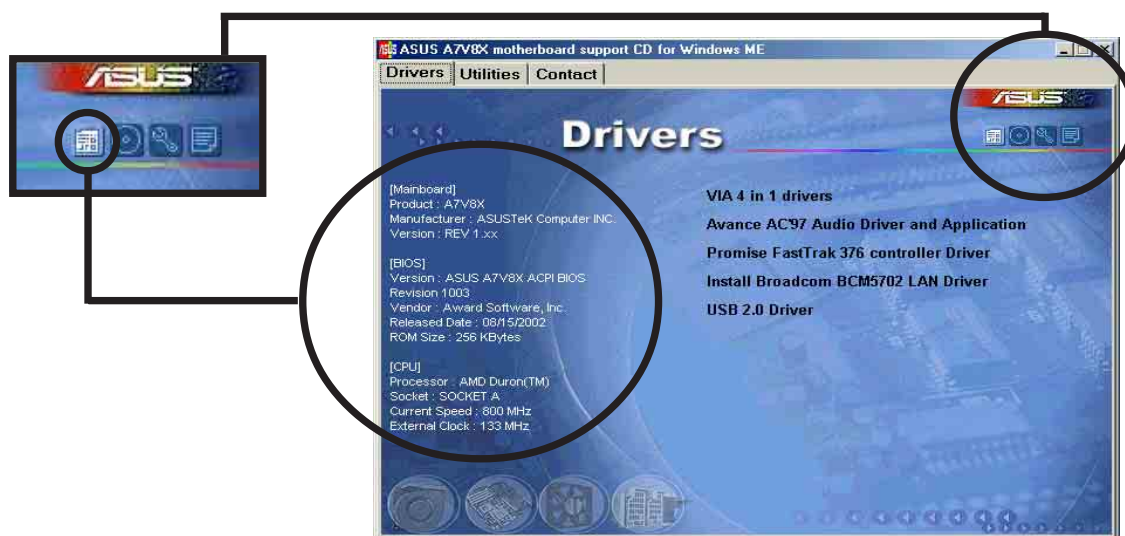


5.2.5 その他の情報

メインメニューの左下にあるアイコンは、マザーボードおよびサポートCDに関する追加情報です。このアイコンをクリックするとポップアップ画面が表示されます。

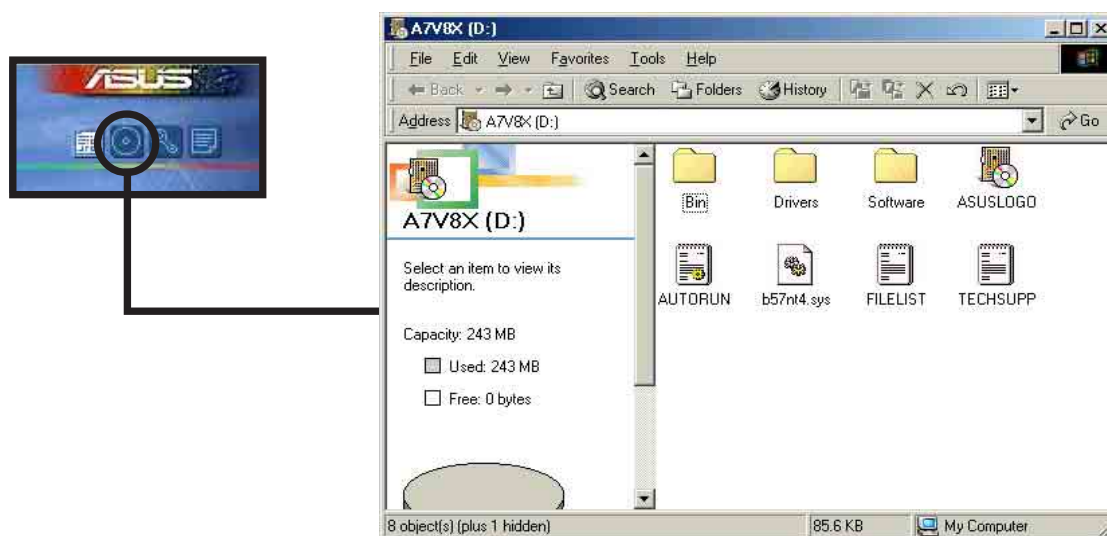
Motherboard Info

A7V8X マザーボードの仕様が一覧表示されます。



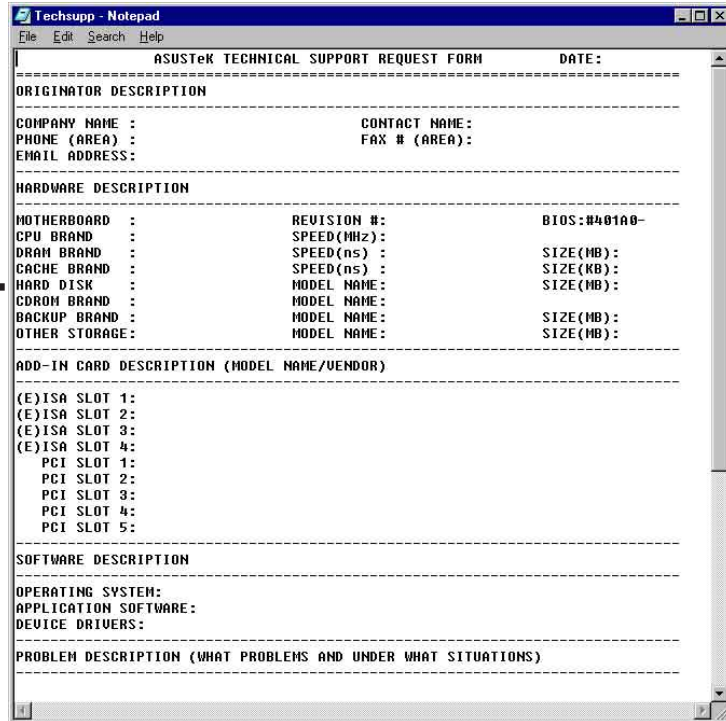
Browse this CD

サポートCDの内容を表示します。



Technical Support Form

ASUSのテクニカルサポート用の書式です。テキスト形式になっていますので、サポートをうける場合、必要な項目を記入します。



ASUSTeK TECHNICAL SUPPORT REQUEST FORM DATE: _____

=====

ORIGINATOR DESCRIPTION

=====

COMPANY NAME : CONTACT NAME :
PHONE (AREA) : FAX # (AREA) :
EMAIL ADDRESS :

=====

HARDWARE DESCRIPTION

=====

MOTHERBOARD : REVISION # : BIOS:#401A0-
CPU BRAND : SPEED(MHz) :
DRAM BRAND : SPEED(ns) : SIZE(MB):
CACHE BRAND : SPEED(ns) : SIZE(KB):
HARD DISK : MODEL NAME : SIZE(MB):
CDROM BRAND : MODEL NAME :
BACKUP BRAND : MODEL NAME : SIZE(MB):
OTHER STORAGE: MODEL NAME : SIZE(MB):

=====

ADD-IN CARD DESCRIPTION (MODEL NAME/VENDOR)

=====

(E)ISA SLOT 1:
(E)ISA SLOT 2:
(E)ISA SLOT 3:
(E)ISA SLOT 4:
PCI SLOT 1:
PCI SLOT 2:
PCI SLOT 3:
PCI SLOT 4:
PCI SLOT 5:

=====

SOFTWARE DESCRIPTION

=====

OPERATING SYSTEM:
APPLICATION SOFTWARE:
DEVICE DRIVERS:

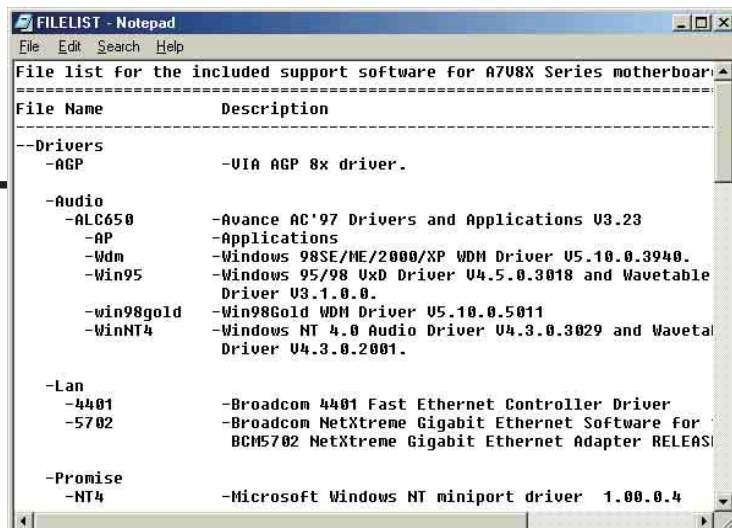
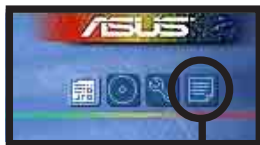
=====

PROBLEM DESCRIPTION (WHAT PROBLEMS AND UNDER WHAT SITUATIONS)

=====

Filelist

サポートCDの内容や簡単なドキュメントを記載したテキストファイルです。



FILELIST - Notepad

File Edit Search Help

File list for the included support software for A7U8X Series motherboar:

=====

File Name	Description
--Drivers	
-AGP	-VIA AGP 8x driver.
-Audio	
-ALC650	-Avance AC'97 Drivers and Applications V3.23
-AP	-Applications
-Wdm	-Windows 98SE/ME/2000/XP WDM Driver U5.10.0.3940.
-Win95	-Windows 95/98 UxD Driver U4.5.0.3018 and Wavetable Driver U3.1.0.0.
-win98gold	-Win98Gold WDM Driver U5.10.0.5011
-WinNT4	-Windows NT 4.0 Audio Driver U4.3.0.3029 and Wavetal Driver U4.3.0.2001.
-Lan	
-4401	-Broadcom 4401 Fast Ethernet Controller Driver
-5702	-Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Software for BCM5702 NetXtreme Gigabit Ethernet Adapter RELEASE
-Promise	
-NT4	-Microsoft Windows NT miniport driver 1.00.0.4

=====

5.3 ソフトウェア情報

サポートCDのソフトウェアの多くはウィザード形式のインストーラーに対応しています。詳しい情報は各ソフトウェアのオンラインドキュメントを参照してください。

この章では、サポートCD内のいくつかのソフトウェアの詳しい使用方法を説明します。

5.3.1 ASUS Update

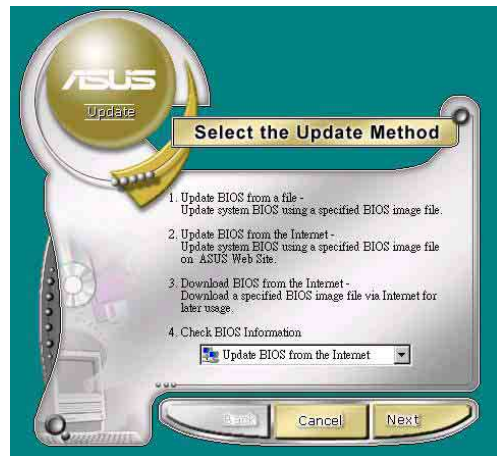
ASUS Update は、マザーボードのBIOSとドライバをアップデートするユーティリティです。アップデート作業を行う前にあらかじめインターネットに接続しておいてください。

アップデート方法:

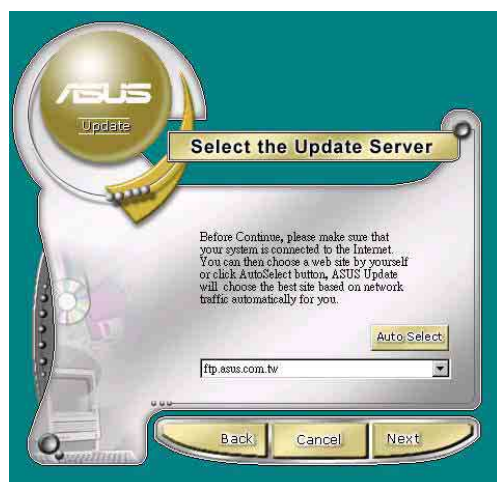
1. Windows のスタートメニューから以下を実行します:
プログラム / AsusUpdate Vx.xx.xx / AsusUpdate

ASUS Update画面が表示されます。

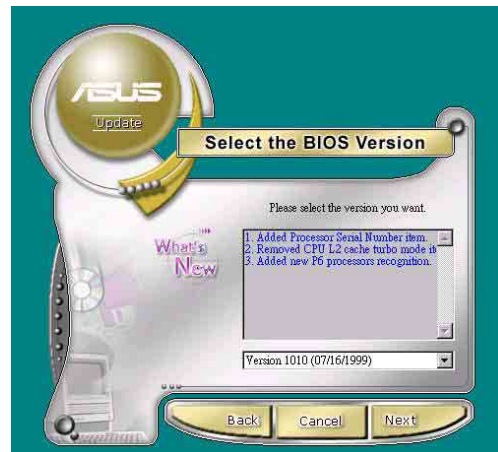
2. アップデート方法を選択し「Next」をクリックします。



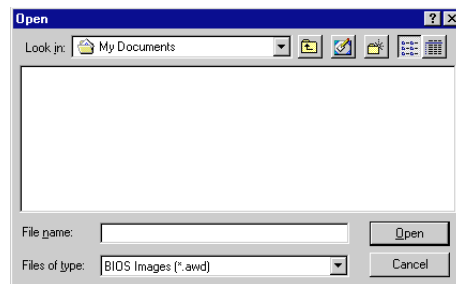
3. 「Updating/downloading from the Internet」を選択した場合、適当な ASUS FTPサイトを選択するか「Auto Select(自動選択)」を選択します。「Next」をクリックします。



4. FTPサイトから、希望のBIOSのバージョンを選択します。
5. 画面の指示に従ってアップデートを行います。

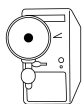


ファイルからアップデートする場合、BIOSファイルが保存されている場所を選択します。BIOSファイルを選択し「保存」をクリックします。画面の指示に従ってアップデートを行います。



5.3.2 ASUS MyLogo2™

ASUS MyLogo2™ は ASUS Update と同時に自動でインストールされます。インストールについては「5.2.3 ソフトウェア メニュー」を参照してください。



ASUS MyLogo2™ を使用する前に、AFLASHなどを用いて現在のBIOSのバックアップをとっておいてください。

BIOSセットアップの「Full Screen Logo」を [Enabled] に設定してください(P.4-34参照)。

ASUS MyLogo2 の使い方 :

1. ASUS Updateを起動します (5.3.1 ASUS Update 参照)。
2. BIOSのアップデート方法で、「Update BIOS from a file」を選択します。
3. BIOSファイルの場所(FDなど)を指定します。Next をクリックします。



4. ロゴイメージの選択画面になります。Next をクリックします。



自作のイメージ(GIF, JPG, BMP形式)を使用することもできます。



5. 選択したイメージは MyLogo2 スクリーンに拡大表示されます。

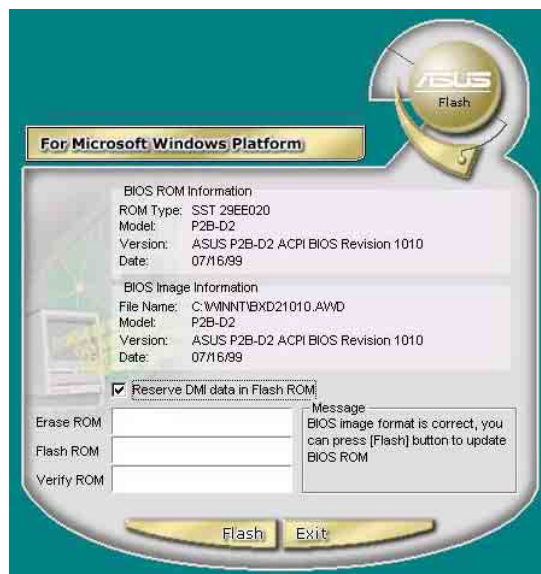


MyLogo2 は複雑なイメージを取り扱うことができます。問題が発生した場合は、より簡単なイメージを用いてください。



6. BIOSイメージを新しいロゴイメージのものに書き換えます。Flash をクリックします。

7. 書き換えが完了したら、Exit をクリックします。コンピュータを再起動すると、起動時に新しいロゴが表示されるようになります。



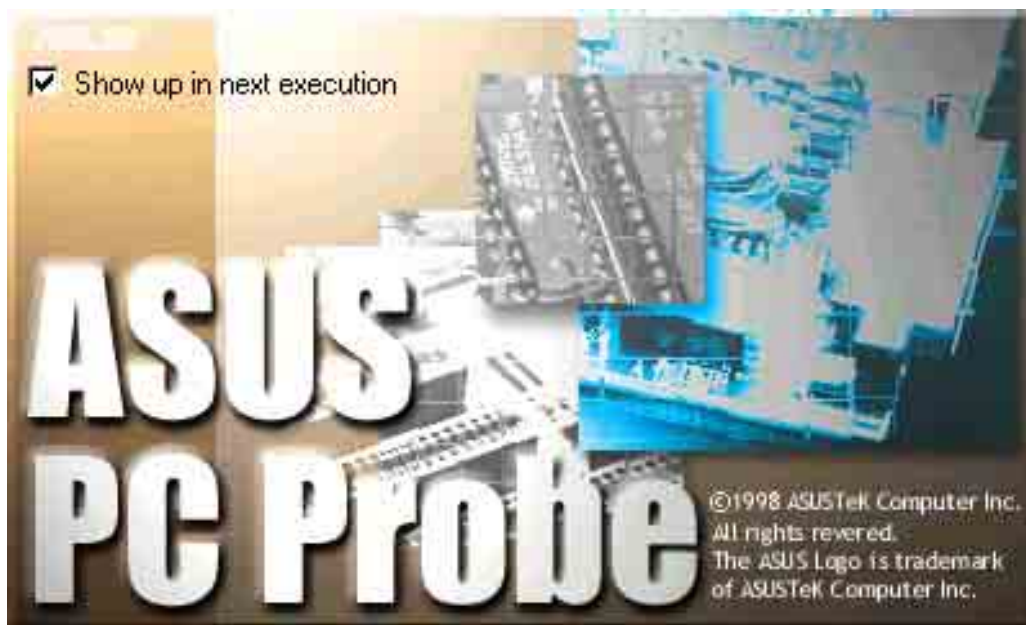
ASUS Update の代わりに ASUS MyLogo2 を直接起動して、ロゴイメージの書き換えを行うこともできます。この場合は、BIOSファイルを書き換えた後、ASUS Update を用いて、BIOSファイルをEEPROM に書き込む必要があります。

5.3.3 ASUS PC Probe


「ASUS PC Probe」は、コンピュータの重要な部品の電圧・温度およびファンの回転数をモニタできる便利なユーティリティです。さらに「DMI Explorer」を用いて、ハードディスクの空き量、メモリの使用状況、CPUの種類、内部/外部クロックを知ることができます。

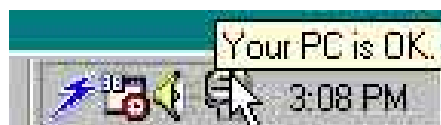
ASUS PC Probe をはじめよう

「ASUS PC Probe」を起動すると、オープニングビデオが始まります。これは次回の起動時に表示しないようにもできます。表示しないようにするには「Show up in next execution」のチェックを外します。



「ASUS PC Probe」を起動するには、Windowsの「スタート」 - 「プログラム」 - 「ASUS Utility」 - 「Probe Vx.xx」と選択します。

「PC Probe」のアイコン  がタスクバーに表示され「ASUS PC Probe」が動作していることを示します。このアイコンにマウスポインタを重ねると、コンピュータの状態を表示します。



ASUS PC Probe を使う

Monitoring

Monitor Summary

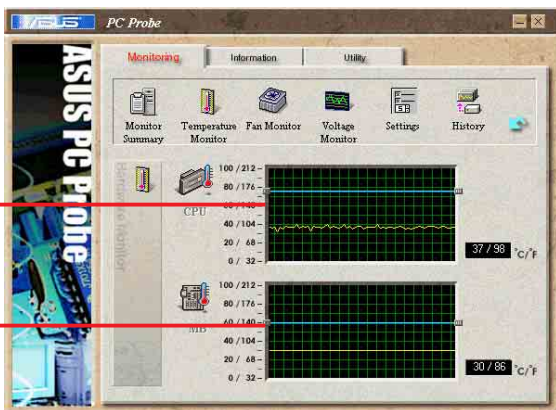
モニタ中のアイテムの概要を表示します。



Temperature Monitor

コンピュータ各所の温度です。

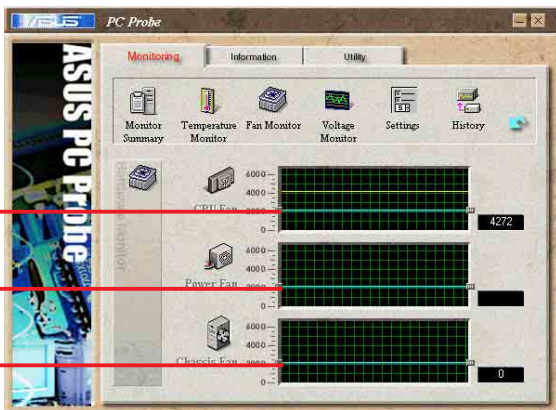
警告上下限値を調整できます。
(スライダをドラッグして、
上下限レベルを上下させます。)



Fan Monitor

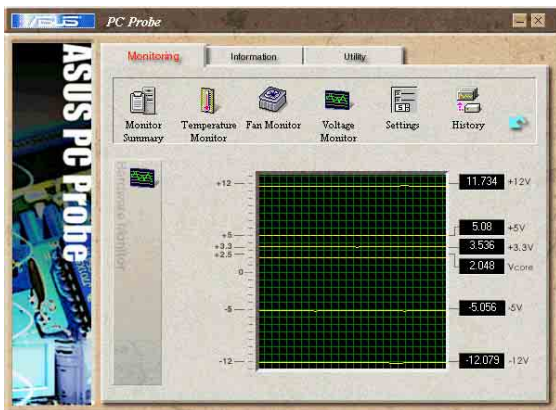
各ファンの回転数を表示します。

警告上下限値を調整できます。
(スライダをドラッグして、
上下限レベルを上下させます。)



Voltage Monitor

コンピュータ各所の電圧です。



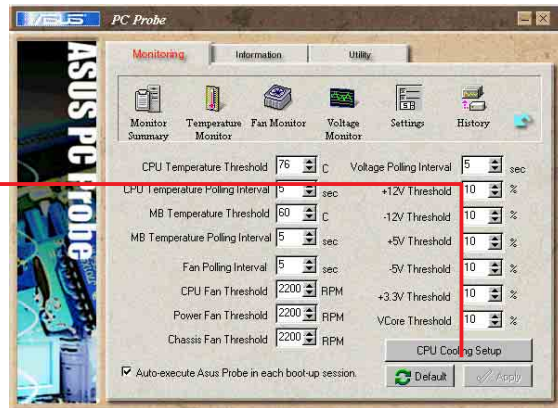
Settings

各上下限値を数値で設定できます。また、モニタリングの周期・表示の更新間隔を変更できます。



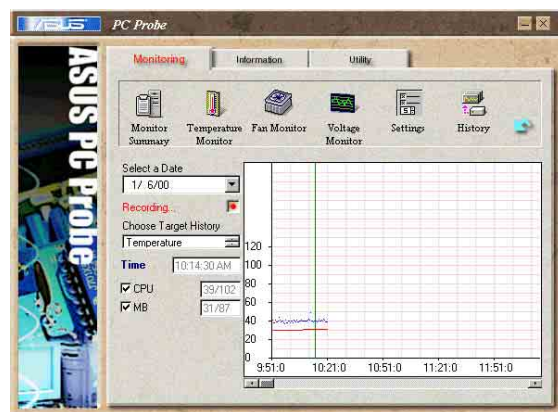
CPU Cooling System Setup

ソフトウェアによるCPU冷却の設定です。「CPU Overheated」が選択されると、CPU温度が上限を越えた場合、この機能が稼働を始めます。



History

現在の状況を保存します。参考値として保存しておく場合などに使います。



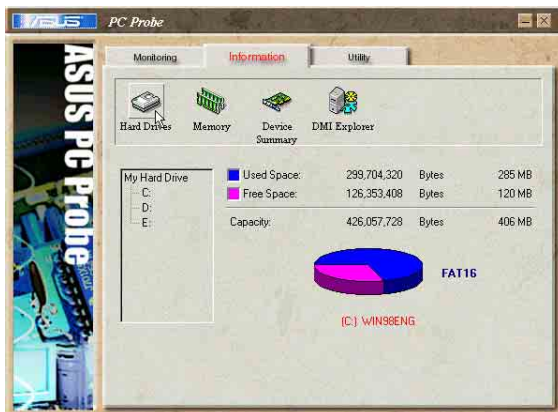
Fan Control

CPU温度により冷却ファンの回転数を自動制御します。回転数を制御する温度レベルを設定します。



Hard Drives

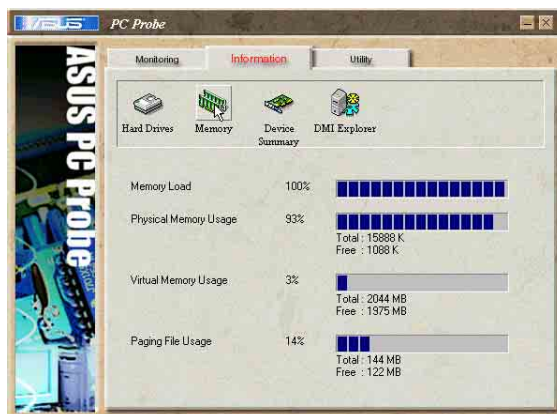
ハードディスクの使用状況・空き容量・ファイルアロケーションテーブル(FAT)の状態・ファイルシステムの種類などを表示します。



Information

Memory

メモリの使用状況、仮想メモリの状態などを表示します。



Device Summary

接続されているデバイスの概要を表示します。



DMI Explorer

CPUの種類・内部/外部クロック周波数、メモリ容量など、コンピュータに関する情報を表示します。

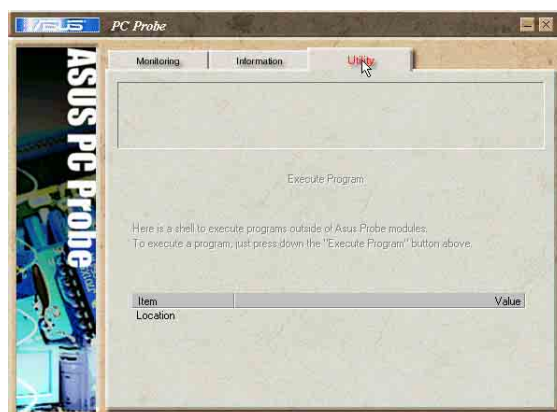
The screenshot shows the 'DMI Explorer' tab in ASUS PC Probe. It displays a table of system information:

Item	Name	Property
BIOS		
System	Vendor	Award Software, Inc.
Motherboard	Version	ASUS P3B-F ACPI BIOS R1
Chassis	Starting Address	F000
Processor	Release Date	08/07/1999
Memory Controller	ROM Size	256K
Cache	ISA	Supported
Port Connector	MCA	Not Supported
System Slots	EISA	Not Supported
OEM Information	PCI	Supported
System Configuration	PCMCIA	Not Supported
BIOS Language	PrnP	Supported
	APM	Supported
	BIOS is Upgradeable	Supported
	BIOS Shadowing	Supported
	VL/VESA	Not Supported

Utility

「ASUS Probe」から別のプログラムを起動する場合に用います。「Execute Program」をクリックします。

注：この機能は現バージョンでは無効になっています。



ASUS PC Probe タスクバーアイコン

「PC Probe」アイコンを右クリックするとメニューが現れ、ウィンドウを開いたり、プログラムとモニタリングを終了させたり、再開させたりできます。



「ASUS PC Probe」がコンピュータに異常を発見した場合は、アイコンの一部が赤く変わり、ビープ音が鳴り、モニタ画面が開きます。

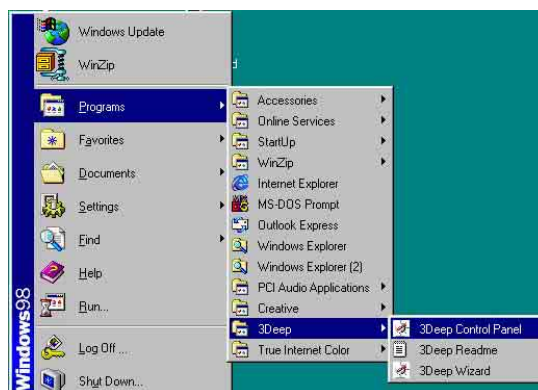


5.3.4 E-Color 3Deep

3-Deep Color Tunerは、CRT または LCD用のカラー調整アプリケーションです。とくにインターネットアプリケーションのオリジナルの色を再現するのに有効です。

3Deep Control Panel

Windows のスタートメニューから、Main Program → 3Deep Applications → 3Deep Control Panel を選択します。



コントロールパネルには、Color Wizard チューニングプログラム、Game Gamma 設定、Tweak ブライトネス調整があります。



3Deep Color チューニング

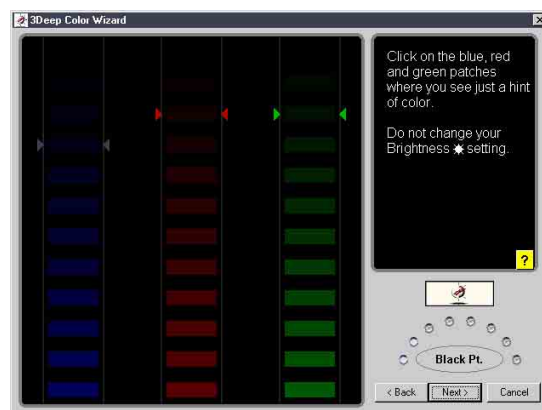
1. お使いのモニターの種類を CRT または LCD から選択します。



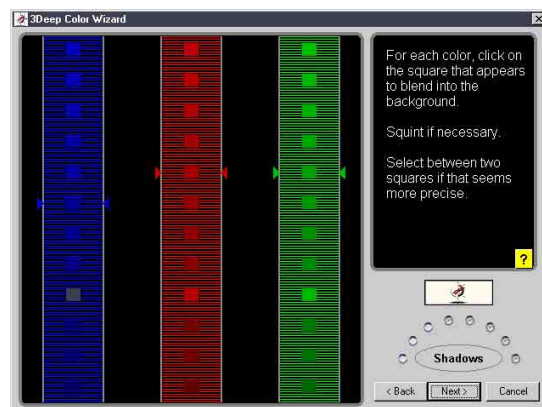
2. メッセージに従って、ブライトネスの調整を行います。



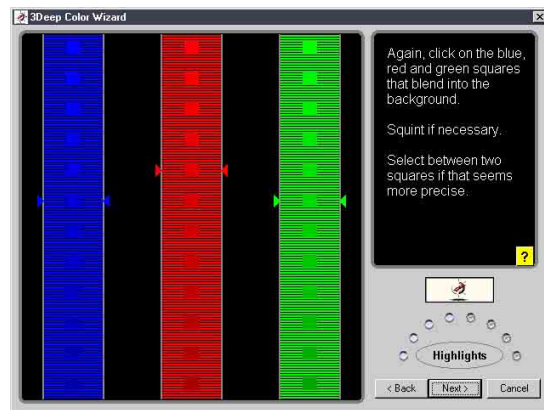
3. RGB (赤・緑・青) 各色について調整を行います。



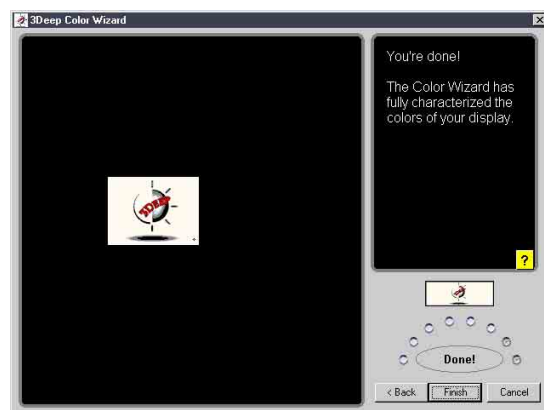
4. 各色の四角形がバックの色にマッチするように調整します。



5. 次に、フルカラーについてカラーマッチングを繰り返します。



6. 調整が完了するとメッセージが表示されますので、Finish.をクリックします。



7. Set Up Now ボタンをクリックすると直ちにインターネットに接続します。画面のメッセージに従って、True Internet Color.の調整を行います。



5.3.5 Winbond Voice Editor

Winbond Voice Editor は、POST音声メッセージを編集するユーティリティです。インストール方法は「5.2.3 ソフトウェア メニュー」をご覧ください。



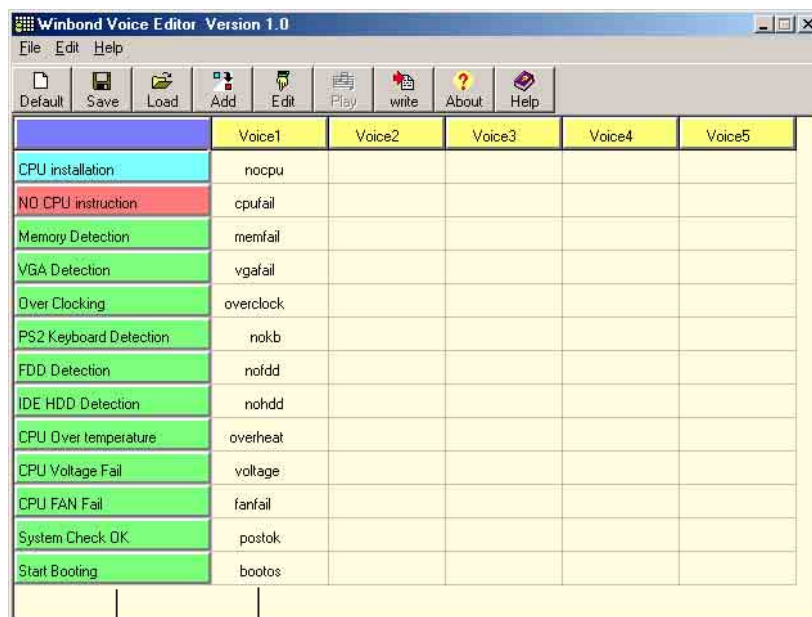
ASUS PC Probeの動作中に Winbond Voice Editor を使用しないでください。リソースの衝突が発生します。

Winbond Voice Editorの使用方法:

プログラムの起動方法

デスクトップ上の「Winbond Voice Editor」アイコンをダブルクリックするか、スタートメニューのプログラム / Winbond Voice Editor / Voice Editor を実行します。

Winbond Voice Editor画面が表示されます。



デフォルト
メッセージ
POST
イベント

Wave ファイルの再生

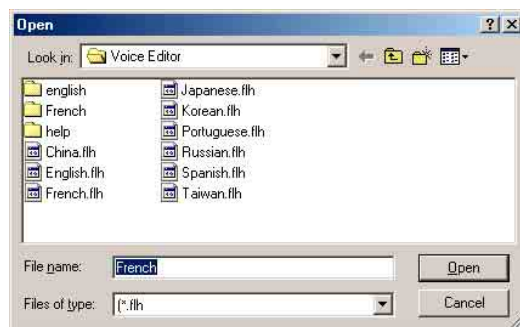
音声メッセージ(Waveファイル)を再生するには、画面左側の POST イベント欄から再生したいメッセージを選択し「Play」をクリックします。



初期設定ではメッセージは英語です。

使用する言語の変更

1. 「Load」をクリックすると有効な言語の一覧が表示されます。
2. 希望の言語を選択し「開く」をクリックします。Voice Editor画面のイベント欄に選択した言語が表示されます。



ファイルサイズの制限のため、言語によっては、一部のメッセージが音声対応してない場合があります。

3. 「Write」をクリックします。変更した結果がBIOSのEEPROMに書き込まれます。
4. 確認画面が表示されますので「Yes」をクリックします。



次回の起動時から選択した言語が有効になります。

POST メッセージのカスタマイズ

希望の言語が一覧に表示されない場合や独自のメッセージを使用したい場合、以下の方法でメッセージをご自分で録音することができます。

POST音声メッセージのカスタマイズ方法：

1. Voice Editor 画面の左側にあるイベント一覧の内容をメモ用紙などに控えてください。
2. 各イベントに対するメッセージを考えます。



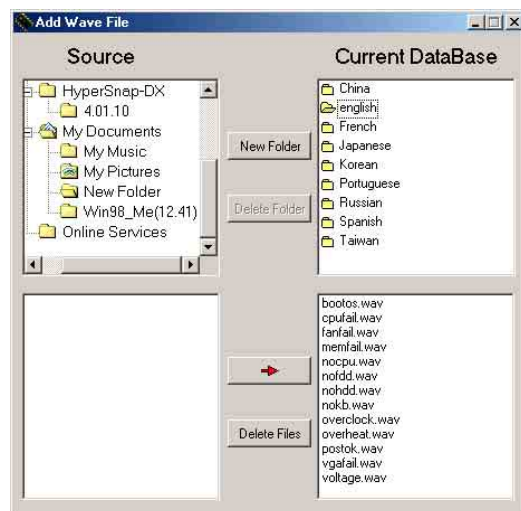
メッセージのファイルサイズには制限があります。圧縮後のサイズでメッセージ全部の合計が1Mビット以下です。メッセージはなるべく短くしてください。

3. WAVEファイルを録音できるソフトウェア(Windowsのサウンドレコーダーなど)でメッセージを録音します。
4. メッセージはWAVE形式(.WAV)で保存してください。サイズを小さくするために音質が劣化しない程度に圧縮してください。例えば、8ビット、モノラル、サンプリングタイム 22kHz が適当です。

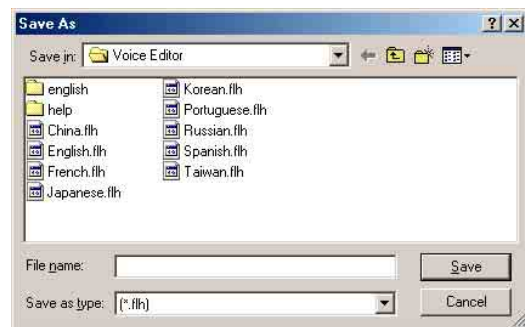
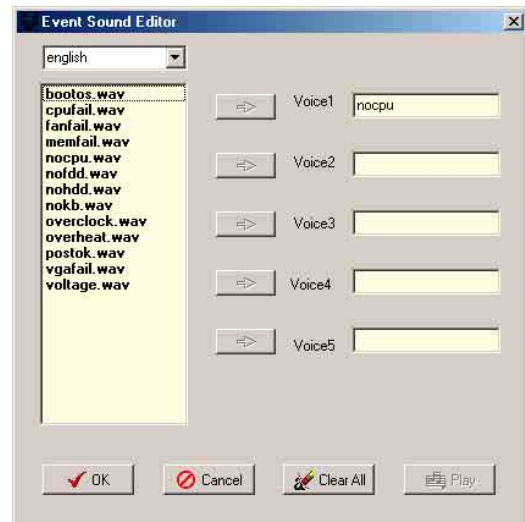


保存するファイルは、専用のフォルダを作成し、そこに保存することをお勧めします。

5. Voice Editor を起動します。「Add」をクリックするとWAVEファイルの一覧が表示されます。
6. 作成したオリジナルのWAVEファイルを Voice Editor のデータベースにコピーします。



7. Voice Editor 画面に戻り、変更したいPOSTイベントを選択し「Edit」をクリックします。Event Sound Editor 画面が表示されます。
8. イベントに設定したいWAVEファイルを選択し「Voice1」の左側にある矢印をクリックします。選択したファイルが右側のボックス内に表示されます。
9. 「OK」をクリックし、もとの画面に戻ります。
10. 必要なだけ7項から9項を繰り返します。
11. 「Save」をクリックします。設定の保存画面になります。
12. 設定ファイルに名前をつけ保存します。拡張子は「.flh」になります。「Save」をクリックします。
13. 「Write」をクリックします。変更結果が BIOSの EEPROMに書き込まれます。
14. 確認画面が表示されますので「Yes」をクリックします。



ファイルサイズをオーバーした、というエラーメッセージが表示された場合は、以下の1つ、またはすべてを実行してみてください。

- ・ メッセージの録音時間を短くします。
- ・ WAVEファイルの品質を低くして保存します。
- ・ あまり発生することのないイベント(FDD Detection, IDE HDD Detectionなど)に対するメッセージは設定しないようにします。

5.3.6 マルチチャンネルオーディオ機能

マルチチャンネルオーディオ機能をお使いになる場合は、添付のサポートCDに収録されている RealTek ALC650 6チャンネル AC'97 オーディオドライバ および アプリケーションをインストールしてください。



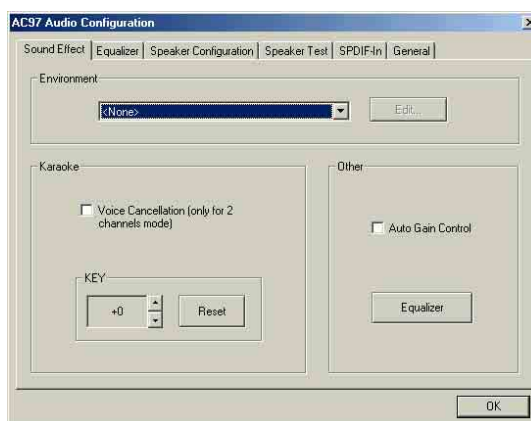
この機能を用いるには、6または4チャンネルスピーカシステムが必要です。

RealTek ALC650 AC'97オーディオの設定

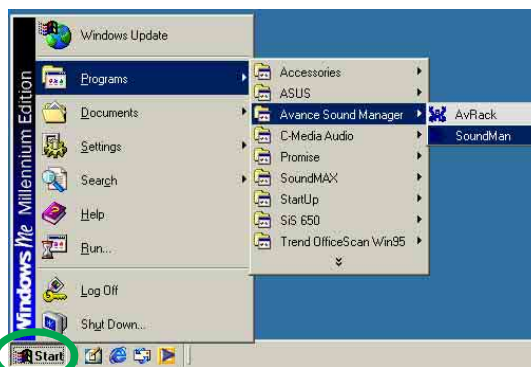
1. サポートCDの RealTek ALC650 AC'97オーディオドライバをインストールします。
2. インストール後、タスクバーに RealTek 「Sound Effect」アイコンが表示されるようになります。
3. Sound Effect アイコンをクリックすると RealTek ALC650 AC97 Audio Configuration ダイアログボックスが表示されます。サウンド環境を Karaoke にセットするか Sound Effect タブからイコライザをロードします。



Sound Effectアイコン



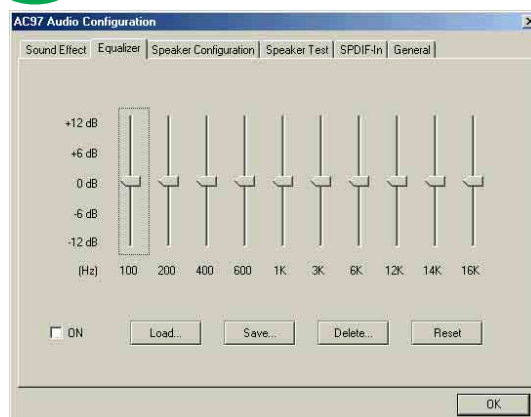
Windowsのスタートボタンをクリックしても ALC650 AC97 Audio Applicationを起動することができます。プログラム > Audio Sound Manager > SoundMan と選択します。



4. Equalizer タブをクリックしてディスプレイパネルを表示させ、音質やサウンド出力の調整を行います。



Sound Effect タブの Equalizerボタンをクリックしても Equalizer パネルを表示することができます。



5. スピーカシステムのカスタマイズを行うには、Speaker Configuration タブをクリックします。



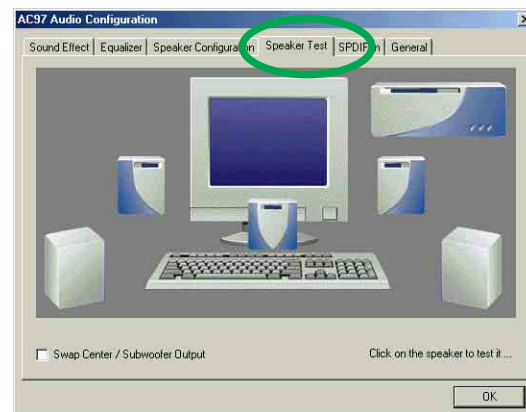
実際にお使いのスピーカシステムに合ったモードを選択してください。



6. マルチチャンネルオーディオのテストを行うには、Speaker Test タブをクリックします。



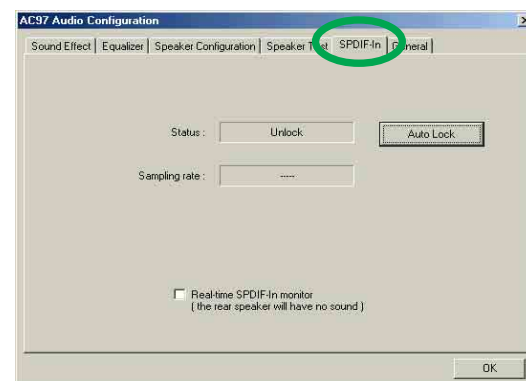
6チャンネルオーディオをお使いの場合で、センタースピーカとサブウーファのチャンネルが入れ代わっている場合は、Swap Center / Subwoofer Output.を選択してください。



7. SPDIFの設定を行うには、SPDIF-In タブをクリックしています。デフォルトでSPDIF出力は有効になっています。SPDIF入力を使用する場合は、ALC650チップによりSPDIF周波数は固定になります。



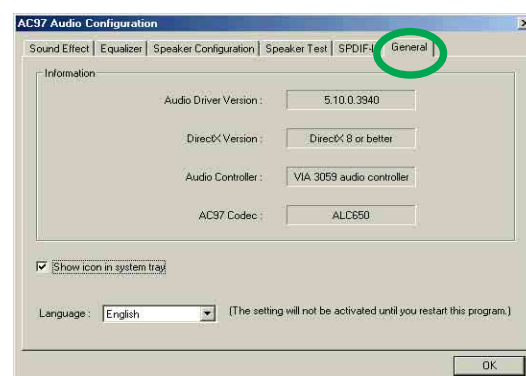
ALC650はAC-3 SPDIF入力をサポートしていません。これはステレオSPDIF入力でのみサポートされています。



8. General タブをクリックするとバージョン情報の表示、言語設定の変更などを行うことができます。



インストール直後の言語設定は英語です。



コネクタの設定および機能

コネクタ	Headphone2 Speaker	4-Speaker	6-Speaker
緑	Line Out/ フロントスピーカ	Line Out/ フロントスピーカ	Line Out/ フロントスピーカ
青	Line In	リアスピーカ	リアスピーカ
ピンク	Mic In サブウーファ	Mic In	センタースピーカ

5.4 RAID 0/RAID 1 の設定

本マザーボードには、Promise® PDC20376チップが搭載されており、ハイパフォーマンスな RAID(Redundant Array of Independent Disks)システムを構築できます。UltraDMA-133/100/66/33、FastATA-2 または Serial ATA ハードディスク(以下 HDD)が使用可能です。2 台のHDDを接続するだけで「FastTrack376™ Lite firmware BIOS」が自動でRAID 0 または 1を構成します。さらに、サポートCDを使用すれば、お使いのハードウェア・OSにあった独自の設定も可能です。RAIDをセットアップする前に、本章よく読み内容を理解してから作業を行ってください。

RAID 0 は「ストライピング」と呼ばれ、2 台のHDDを 1 台のHDDのように取り扱いデータの読み書きを行います。これにより、HDD 1 台の時に比べ、データのアクセス速度が約 2 倍に向上します。RAID 0 は、主にHDDのスピード向上のために用いられます。FAT32 および NTFSを用いると、RAIDシステム全体を 1 つの巨大なHDDパーティションとして扱うことができます。

RAID 1 は「ミラーリング」と呼ばれ、2 台のHDDに対し同じデータを同時に書き込みます。全く同じデータが書き込まれたHDDが 2 台存在することになります。これにより、1 台のHDDが故障した場合でも、データを簡単に復旧することができます。RAID 1 は、主にHDDの信頼性向上のために用いられます。

5.4.1 ハードディスクの接続

Promise PDC20376チップセットにより、2つの Serial ATAポート (PRI_SATA1、SEC_SATA2)と 1つの Parallel IDE ATA133ポート (PRI_RAID1)を RAID 0 または 1 として使用できます。

- ・ RAID 0 システムを構築するには、2 台の新しいHDDを用意し、OSを新規にインストールする必要があります。
- ・ RAID 1 の場合は、既存のHDD 1 台に加え新しいHDD 1 台を用意するか、2 台の新しいHDDを用意してください。



チップセットは、RAID 0 (striping) または RAID 1 (mirroring)用にマスターHDDのみサポートします。

Promise PDC20376 コントローラは、PRI_RAID1コネクタに 1 台のマスターHDDのみサポートします。PRI_RAID1コネクタには、スレーブに設定したHDDやCD-ROM・DVD-ROMなどを接続しないでください。

以下の手順でRAID用のHDDをインストールします。

1. HDDのジャンパをマスターモードに設定します。
2. HDDをドライブベイに取り付けます。
3. RAIDアレイ用の HDDを接続します。RAID 0 または 1アレイを構築するには、以下の3つの接続方法があります：
 - a) PRI_RAID1コネクタに1台のParallel HDDを、Serial ATAコネクタのどちらかに1台のSerial ATA IDE HDDを、それぞれ別のParallel ATAケーブルとSerial ATAケーブルで接続する。
 - b) 2つのSerial ATAコネクタのそれぞれにSerial ATA IDE HDDを1台ずつ、それぞれ別のSerial ATAケーブルで接続する。
 - c) PRI_RAID1コネクタに1台のSerial ATA HDDを、Serial ATAポートのどちらかに1台のSerial ATA IDE HDDを、それぞれ別のParallel/Serial ATAケーブルで接続する。
4. 各HDDに電源コネクタを接続します。
5. PCの電源を入れ、BIOSセットアップを起動します。
6. BIOSセットアップのAdvancedメニューのPCI Configurationの「Onboard SATA/IDE RAID Controller」項目が[Enabled]になっていることを確認し、Bootメニューの「Onboard ATA Device First」項目を[Yes]に設定します。
7. 設定を保存して終了します。
8. 5.4.2 項へ進みます。

5.4.2 MBFastBuild™ ユーティリティ

1. コンピュータを起動します。

2台のHDDが正しく接続されていれば、以下のMBFastTrak376^(R) Lite BIOS画面が表示されます。

```
MBFastTrak376 (tm) BIOS version 1.00
(c)2000-2005 Promise Technology, Inc. All Rights Reserved.

No Array defined...

Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility
Or press <ESC> key to continue booting.
```

2. <Ctrl-F>を押すと FastBuild™ Utility Main Menu 画面が表示されます。

```
MBFastBuild (tm) Utility 1.21 (c) 1996-2001 Promise Technology, Inc.
[ Main Menu ]
Auto Setup . . . . . [ 1 ]
View Drive Assignments . . . . [ 2 ]
View Array . . . . . [ 3 ]
Delete Array . . . . . [ 4 ]
Rebuild Array. . . . . [ 5 ]
Controller Configuration . . . [ 6 ]

[ Keys Available ]
Press 1..6 to select Option [ESC] Exit
```


5.4.3 RAID 0 アレイの構築 (Performance)

1. FastBuild™ Utility のMain Menu から「Auto Setup[1]」を選択します。以下の画面になります。

```
FastBuild (tm) Utility 2.00 (c) 1996-2002 Promise Technology, Inc.
-----[ Auto Setup Options Menu ]-----
Optimize Array for:                      Performance
-----[ Array Setup Configuration ]-----
Mode ..... Stripe
Spare Drive..... 0
Drive(s) Used in Array..... 2
Array Disk Capacity (size in MB)..... 29299
-----[ Keys Available ]-----
[↑] Up [↓] Down [←→,Space] Change Option [ESC] Exit [CTRL-Y] Save
```

2. 「Optimize Array for」 - 「Performance」を選択し、スペースキーを押します。Mode項目に「Stripe」と表示されます。
3. <Ctrl-Y>を押し、設定を保存します。
4. Press Any Key to Reboot と表示されたら何かキーを押してシステムを再起動します。再起動後 FastTrack100™ Speed BIOS は新しいRAIDシステムの状態を表示します。

```
MBFastTrak376 (tm) BIOS Version 1.00
(c) 2000-2005 Promise Technology, Inc. All Rights Reserved.
-----
ID      MODE          SIZE      TRACK-MAPPING  STATUS
-----
1*     2+0 Stripe    3257M    723/192/48    Functional
-----
Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility
```

5. RAID 0 アレイ全体を1つのHDDとして取り扱えるようになりますので、FDISKを行います。
6. フォーマットを行い、新しいOSをインストールします。OSは、RAID 0アレイを1つのドライブとして認識します。
7. サポートCDの RAIDドライバをインストールします。



お使いのOSによっては、OSのインストール中にRAIDドライバをインストールする必要があります。

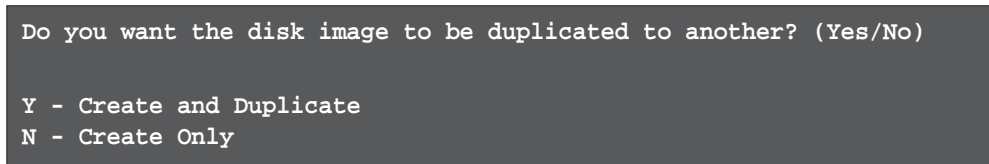
5.4.4 RAID 1 アレイの構築 (Security)

新規に Security Array を構築する場合

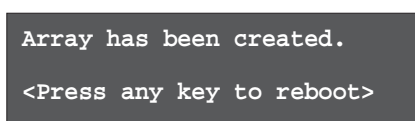
1. FastBuild™ Utility のMain Menu から「Auto Setup[1]」を選択します。



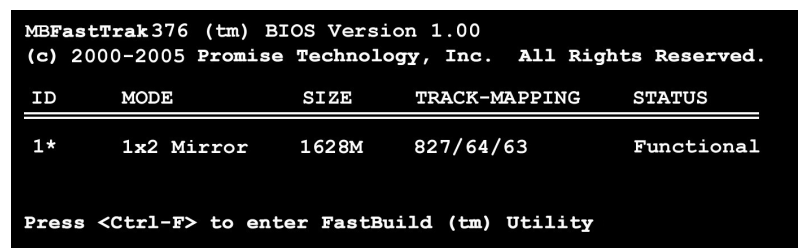
2. 「Optimize Array for」 - 「Security」を選択し、スペースキーを押します。Mode項目に「Mirror」と表示されます。
3. <Ctrl-Y>を押し、設定を保存します。
4. 以下のメッセージが表示されます。



5. <N>を押し「Create Only」を選択します。RAIDアレイシステムが構築されます。



6. 再起動するとRAID 1システムが有効になります。起動中に以下のメッセージが表示されます。



7. FDISK、フォーマットを行い新しいOSをインストールします。(OSによって起動用フロッピーまたは起動可能なCDを uses。) OSは通常の方法でインストールします。
8. サポートCDの RAIDドライバをインストールします。



お使いのOSによっては、OSのインストール中に RAIDドライバをインストールする必要があります。

既存のドライブを用いて Security Array を構築する場合

データを保存してあるドライブや既存の起動ディスクを用いてRAIDシステムを構築する場合は、新しく追加するドライブの容量が既存のドライブと同じかそれ以上であることを確認してください。



RAIDシステムを構築する前に、データのバックアップを行ってください。

1. FastBuild™ Utility のMain Menu から「Auto Setup[1]」を選択します。
2. 「Optimize Array for」 - 「Security」を選択し、スペースキーを押します。Mode項目に「Mirror」と表示されます。
3. <Ctrl-Y>を押し、設定を保存します。以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want the disk image to be duplicated to another? (Yes/No)

Y - Create and Duplicate
N - Create Only
```

5. <Y> を押し「Create and Duplicate」を選択します。ウィンドウが開き、「source」ドライブの選択画面になります。
6. 矢印キーを用いて既存のHDDを「source」に選んでください。「source」から「target」へデータがコピーされます。
7. <Ctrl-Y>を押すと設定が保存されます。以下のメッセージが表示されず:

```
Start to duplicate the image...
Do you want to continue? (Yes/No)

Y - Continue    N - Abort
```

8. <Y>を押すとデータのコピーが始まります(<N>で中止します)。
9. コピーが完了すると確認メッセージが表示されます。
10. 何かキーを押してコンピュータを再起動します。
11. サポートCDのRAIDドライバをインストールします。



お使いのOSによっては、OSのインストール中にRAIDドライバをインストールする必要があります。

5.4.5 FastBuild ユーティリティの他のコマンド

Main Menu の(3)~(6)項は、RAIDシステムを構築する場合には必要ありませんが、RAIDシステムを削除したり、再構成したりする場合に用います。

View Array (3): HDDの構成を表示します。

Delete Array (4): RAIDアレイを削除します。HDD内のデータは削除されません。間違ってRAIDアレイを削除した場合は、直ちに Rebuild Array (5) を行ってください。

Rebuild Array (5): RAID 1アレイで異常が発見された場合のリカバーを行います。以下の手順に従ってください。

データの再構築およびリストア方法:

1. 起動時にエラーメッセージが表示されます。
2. <Ctrl-F> を押します。
3. <3> を押し「View Array」を選択します。
4. コンピュータの電源を切り、異常のあるHDDを交換します。
5. 再起動し、<Ctrl-F> を押します。
6. <5> を押し「Rebuild Array」を選択します。<Enter> を押します。



7. 交換したHDDを選択し、<Enter>を押します。



8. 新しいHDDにデータがコピーされます。進捗状況が表示されますので、しばらくお待ちください。

9. 再起動後、再構成したRAIDシステムが有効になります。

Controller Configuration (6): RAIDコントローラの設定をデフォルトに戻します。初期設定は [Enabled] です。

5.5 IDE/RAIDドライバの手動インストール

サポートCDの「Promise」フォルダに、Windows, NetWare および NT4.0 用の IDE および RAID 0 / 1 ドライバがあります。Windows98およびWindows2000については以下の手順でインストールしてください。他のOSの場合は、サポートCD内のドキュメントを参照してください。

5.5.1 Win9x-ME Promise^(R) FastTrak376TM ドライバ

1. ドライブにサポートCDをセットして「スタート」ボタンをクリックします。
2. 「設定」 - 「コントロールパネル」を選択します。
3. 「システム」アイコンをダブルクリックします。
4. 「PCIRaid Controller」を選択します。
5. 「その他のデバイス」を選択します。
6. 「PCI Mass Storage Controller」を右クリックし「プロパティ」を選択します。
7. 「一般」ページの「ドライバの再インストール」をクリックします。
8. 画面の指示に従ってつづけます。ドライバの場所は、
¥Promise¥Raid0or1¥Win9x-ME です。

5.5.2 Win2000 / XP Promise^(R) FastTrak376TM ドライバ

1. 「マイコンピュータ」を右クリックし「プロパティ」を選択します。
2. 「ハードウェア」の「デバイスマネージャ」を選択します。
3. 「その他のデバイス」を選択します。
4. 「RAID Controller」を右クリックします。
5. 「プロパティ」を選択します。
6. 「ドライバ」ページの「ドライバの再インストール」をクリックします。
7. 「Upgrade Device Driver Wizard」の「NEXT」をクリックします。
8. 「Select for a suitable driver for my device(recommended)」を選択し「NEXT」をクリックします。
9. 「Specify a location」をクリックします。
10. 「/Promise/Raid0or1/Win2000orWinxp」を指定して「OK」をクリックします。
11. 「NEXT」をクリックします。
12. 「YES」をクリックします。
13. 「Finish」をクリックします。
14. 再起動します。

5.5.3 Win NT Promise^(R) FastTrak376™ ドライバ

1. 「スタート」 ボタンをクリックします。
2. 「設定」 - 「コントロールパネル」 を選択します。
3. 「SCSI Adapters」 アイコンをダブルクリックします。
4. 「ドライバ」 ページを選択します。
5. 「追加」 ボタンをクリックします。
6. 「List of Drivers」 内の 「Unlisted or Updated Driver」 を選択します。
7. パスを {CD-ROMドライブ}:¥Drivers¥Promise¥NT4 と指定します。
8. 「WinNT Promise FastTrak133 (tm) Lite Controller」 を選択し 「OK」 をクリックします。
9. システムを再起動します。

5.5.4 新規Windows 2000 / XP への Promise^(R) FastTrak376™ ドライバのインストール

1. 別のPCにサポートCDをセットし 「Browse Support CD」 をクリックします。
2. 「Driver」 フォルダをクリックします。
3. 「Promise」 フォルダをクリックします。
4. マザーボードで使用されている Promiseチップを選択します。
5. 例えば、Windows XPでRAID 0 を構築する場合を例にあげます。A7V8X の場合、Promise RAIDチップはPDC20376です。これに従って正しい Promise Chip フォルダ : WinXP, FASTTRAK, README, および TXTSETUP.OEM を選択します。この中の3つのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
6. RAID を組むマザーボードを用意します。
7. マザーボードに RAID_SWジャンパがある場合はこれを有効にします。また、BIOSセットアップの該当項目を有効にします。
8. Windows 2000 または XP のインストールCDをセットします。
9. CD-ROMからコンピュータを起動します。
10. Windows 2000 または XP のインストールを開始します。
11. 「Press F6 if you want to install a third party SCSI or RAID driver.」 というメッセージが表示されます。
12. 「Press F6 if you want to install a third party SCSI or RAID driver.」 の表示中に F6キーを押します。
13. S を押し、RAIDコントローラをセットアップします。
14. 先に作成したフロッピーディスクをセットします。
15. WinXP Promise FastTrak376™ コントローラを選択します。
16. これでRAIDシステムが有効になりました。OSのインストールを続けます。

